

京都大学 東南アジア研究センター要覧



平成10年度版

表紙写真：インドネシア東南スラウェシ州ブトン島の漁村の少女
ウォラセアにはひっそりとしたたずまいの漁村が多くの島々に点在する。小規模な沿岸漁業だけでなく、海産物を求めて遠洋に漕ぎだす漁民もいれば、各地の物産の取引に従事する商人がいて、小さな海岸の村であっても、意外に広域にわたる活動がある。ネットワーク社会ということばがぴったりあてはまる世界である。

ウォーラセアの人と風土



香料諸島の産物ナツメグの果実
(インドネシア、北スラウェシ州サンギール島)



インドネシア海域で操業するフィリピン漁船
(インドネシア、北スラウェシ州ビトゥン)



農家の庭先を飾るクワズイモ
(インドネシア、北スラウェシ州メナド郊外)



ウォーラセアのアウトリガー・ボート
(フィリピン、スルー諸島)



タウィタウィ島の夕映え
(フィリピン、スルー諸島)



断食明けハリラーヤの礼拝
(インドネシア, 東南スラウェシ州クングリ)



水田とオウギヤシ
(インドネシア, 南スラウェシ州ボネ地方)



串刺しの魚の燻製を売る女性
(インドネシア, 中スラウェシ州バンガイ島)



焼畑農耕民の穀物倉
(インドネシア, フローレス島エンデ地方)



イカットを並べる青空市
(インドネシア, フローレス島エンデ地方)

ま え が き

京都大学東南アジア研究センターは、昭和40年にわが国で初めて、国立大学に付置された研究センターとして官制化されました。その後、組織的な充実をはかって、平成元年度からは5大部門および客員部門に組み替え、現在に至っております。その間、わが国における総合的・地域研究の先駆けとしての役割を果たすとともに、東南アジアに関する資料の集積をもはかってきました。

教育の面では、従来より農学研究科熱帯農学専攻や人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻の協力講座として役割を果たしてきました。懸案であった独立研究科として、元のアフリカ地域研究センターとの共同のもと、関係研究科をはじめとする学内の温かいご協力を得て、平成10年度に大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が設置されました。今後は、この新しい研究科との密接な協力を目指しております。

研究教育面で、地域研究の重要性がますます強く認識されている今日、その責任の重大さを自覚しながら、名実ともに中核的研究拠点機関となるよう、着実な研究活動をいっそう進める努力を続けていく所存です。

本要覧は、東南アジア研究センターの機構や研究活動を要約し、あわせて、研究スタッフの紹介と出版物の目録を収めて、センターの歩みと現状を広くお知らせすることを目指しております。和文と英文とを毎年交互に発行していますので、本要覧は隔年刊となっています。ただ、昨年度から本年度にかけて、研究科立ち上げもあってスタッフの移動が多かったため、昨年度発行を見あわせて本年度発行となりましたことをご詫言申し上げます。本要覧を通じて本センターの意図するところをご理解いただき、いっそうのご指導をたまわりますようお願い申し上げます。

平成10年12月1日

京都大学東南アジア研究センター
所 長 立 本 成 文

目 次

第1章 性格と沿革	1
第2章 機構と組織	5
1. 機構	
2. 協議員	
3. 職員	
4. 海外連絡事務所	
5. 学内研究担当教官	
6. 学外研究協力者	
第3章 研究活動	11
1. 調査・研究	
2. 国際交流	
3. シンポジウム・セミナー・研究集会	
4. 東南アジア学フォーラム	
5. 研究会等	
6. 東南アジアセミナー	
7. 資料収集および情報処理	
8. 出版	
第4章 大学院教育	33
第5章 研究スタッフ	36
1. 研究部	
2. 資料部	
第6章 出版活動	65
1. 研究叢書等	
2. 『東南アジア研究』（33巻1号から36巻2号まで）	
3. 研究報告書シリーズ	

第1章 性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは、東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ビルマ（ミャンマー）、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ブルネイの10カ国をさすが、研究の対象としては、厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ、熱帯稲作の研究のためバングラデシュ、インド、中国にまで視野をひろげ、対外経済活動の研究のためには香港、台湾、韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは、この意味である。

センターの研究活動は、自然科学をもふくむ点において、人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の地域研究とは異なる特色をもっている。自然環境の現状と変遷の過程を視野にいれて変動する地域を総合的に捉えるということが第一義的な目標であるが、それと同時に、関連学問分野を包括的な視野の下に収め、新しい問題群に取り組み、既成の学問分野を越えた新しい知の枠組みを作り上げることも重要な課題である。しかしながら、総合的といっても、基本的には地域の内在的理解が先行すべきで、そのためには微視的な分析・解析的な研究の積み重ねが必要であることは当然である。

現在、一般的に広く地域研究と称されるもののみが、本センターの追求する総合的・包括的地域研究ではない。本センターの中でも、総合的地域研究の手法が確立しているわけではなく、いろいろなアプローチを比較・検討しながら、世界に類を見ない地域研究の確立に鋭意努力している。当面の目標は、今や日本で緊急に必要とされている地域研究のあるべき姿を、将来への展望を含みつつ早急に確定し、範型として世に示すことである。1993年度から1996年度まで実施された文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立——世界と地域の共存のパラダイムを求めて」がその一つの試みであった。また1998年度から始まった卓越した研究拠点（COE）形成推進計画「アジア・アフリカにおける地域編成——原型・変容・転成」によって、センターひいては日本の東南アジア研究、地域研究のさらに新たな展望を開くべく努力を重ねている。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて、センターが地域研究の中心として果たすべき役割への期待はいよいよ高まりつつある。その要請にこたえるため、センターは東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん、東南アジア研究に関心をもつ

世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する文献資料・学問的情報を収集し、それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような態勢を整備しつつある。学問研究の国際交流は、これからの日本にとって大きな課題であるが、とくに近隣の東南アジア諸国の基礎的研究を実施しているセンターは、こうした面でもつねにその先達としての努力を傾ける必要がある。

東南アジア研究センターが、京都大学に正式に設置されたのは、1965年のことである。それより以前、1963年1月には、本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられた。学内措置として創設せられた当時は、もっぱら民間からの寄付金とフォード財団からの研究奨励金を委任経理金として受け入れ、それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は、タイ計画とマレーシア計画という2つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から、農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで、極めて多岐にわたったが、常に現地に密着し、現地の研究者と共同して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き、政府機関・大学・研究者との交渉、連絡に当たらせてきた。これらの研究の成果は、1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され、内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は、センターが1965年4月に国立学校設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として、京都大学の正式の研究機関と認められた事によって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ、1988年度までに9研究部門、3客員部門からなる研究機関に成長した。特にこの客員部門のうち、地域研究第一（外国人客員）研究部門は、東南アジアからの研究者をセンターの客員研究員として迎えるもので、この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みであった。1989年度には研究部門の大幅な編成替えが実施され、9研究部門は生態環境、社会生態、統合環境、地域発展、人間環境の5つの大部門に統合された。

東南アジアの地域研究を任務とする性格上、長期、短期の臨地研究が必須とされる。臨地研究を核に、センターにおいては各種の学際的な共同研究が組織されているのが特徴である。研究活動の活性化を図るために、5年ごとにセンターとしての研究テーマの見直しを行い、それに基づいて研究班を組織してきた。1980年（昭和55年）度には、「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」が組織され、熱帯モンスーン・エコシステム班と小型家産制国家班とが編成された。1985年度の「東南アジア世界の成立と展開に関す

る文明論的総合研究」では、外文明と内世界、文明と国家形成、文明と生態環境、文明と経済環境の4班が組織された。1990年度には、「東南アジア世界の固有論理と発展構造に関する総合的研究」が発足し、歴史構造、自然生態、社会組織、地域統合にかかわる4班が研究を進めた。

これらの5カ年計画の蓄積をうけて、1993年度～96年度に、文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立——世界と地域の共存パラダイムを求めて」の共同研究が、全国の地域研究者の参加を得て実施された。さらに、1998年度から大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とともに、文部省科学研究費COE形成推進計画「アジア・アフリカにおける地域編成——原型・変容・転成」の共同研究が開始された。従来から実施されてきた個々の研究者による共同研究はいまも継続的に組織されているが、一方で、この二つのプロジェクトが示すように、地域研究の中核組織としての役割をはたすべく、センターはこれまでにない大規模な共同研究を推進するようになってきている。これに対応する臨地研究は文部省科学研究費補助金「国際学術研究」によって、毎年2ないし3班の研究班を海外に出している。

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は、センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは、1963年以来東南アジア地域研究の季刊学術誌『東南アジア研究』を出版しており、現在36巻2号に及んでいる。『東南アジア研究』は、内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく、財団法人アジア研究協会に委託して、一般購読の道をひらいている。

また、センターは東南アジア研究叢書を上梓し、これまでに和文シリーズ（創文社刊行）は24冊、英文シリーズ（University of Hawai'i Press刊）は20冊を出版している。さらに1995年度から新たに地域研究叢書（京都大学学術出版会刊）が始まった。

1969年に「バンコク連絡事務所」の運営経費が、次いで1973年に「ジャカルタ連絡事務所」の運営経費も国の予算として認められるとともに、現地調査費も国の予算で認められ、ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最小限の基礎が与えられるようになった。それ以来センターでは、この予算を活用して、大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究をわずかながらも支援できるようになった。また1978年度から「非常勤講師経費」を認められ、さらに1980年度には地域研究第二（客員）研究部門が設けられたことにより、「学外研究協力者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。また、1986年度には新たな客員部門として、東南アジア諸語文献研究部門が新

設された。近年、東南アジア各国の図書資料が精力的に収集されているが、この部門新設によってそれらの整理方法の確立、資料情報の一層の収集のために、東南アジア各国から書誌学者、カタログガーを招くことが可能となった。

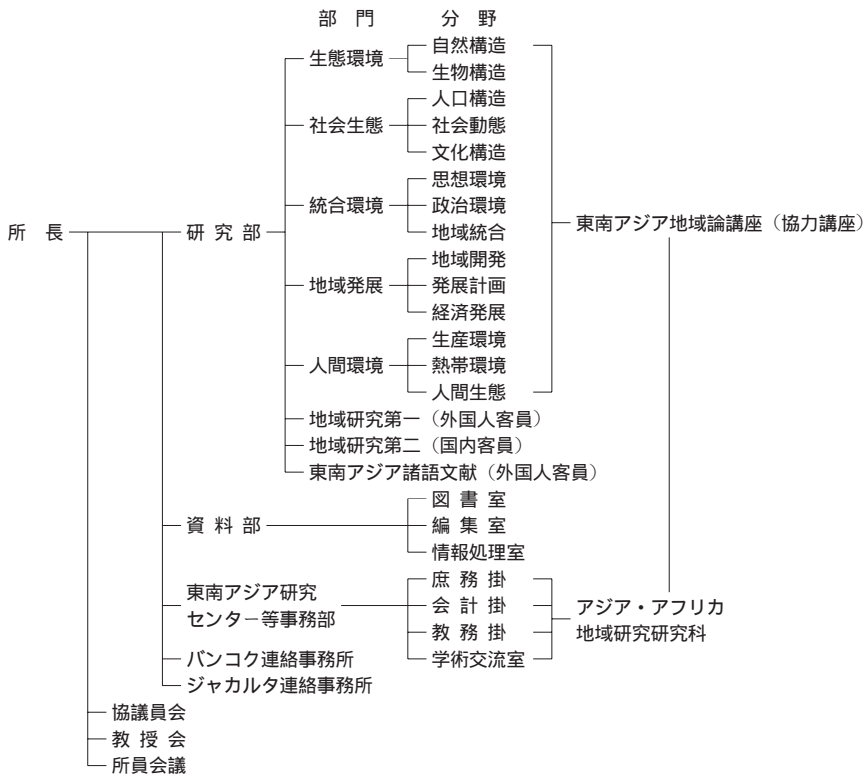
センターの大学院教育としては、1981年に農学研究科熱帯農学専攻が設置され、農学系の教官が協力講座を担当したのが最初である。その後1993年度に人間・環境学研究科の第二専攻（文化・地域環境学専攻）が発足するとともに、センターの教授・助教授ほぼ全員が東南アジア地域研究講座（協力講座）担当として参画してきた。1998年4月、アジア・アフリカ地域研究研究科が発足した。この研究科は、東南アジア地域研究専攻とアフリカ地域研究専攻の2専攻から構成されるが、前者の中に連環地域論講座を置き、東南アジアとアフリカの両地域に接続するヒンドゥー・イスラーム両世界をも含めて、地域間比較を視野に入れた地域研究教育に主眼を置いている。この設立にともなって、センターは大学院教育の場をこの研究科に移すこととなった。現在、ほぼ全教官が東南アジア地域研究専攻の東南アジア地域論講座（協力講座）担当、あるいは2専攻の共通課目担当として大学院教育に参画している。

第2章 機構と組織

1. 機 構

1998年度現在、東南アジア研究センターは、5大研究部門、3客員研究部門からなる研究部、および資料部、事務部で構成され、東南アジア地域の現地調査を円滑に行うための海外連絡事務所として、タイにバンコク連絡事務所を、インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。また、本センターの議決機関・協議機関として、協議員会、教授会、所員会議が設けられている。

1998年4月、アジア・アフリカ地域研究研究科設置に伴い、センター教官のほぼ全員



が東南アジア地域論講座（協力講座）あるいは研究科共通課目を担当することになった。事務部は東南アジア研究センター等事務部と名称が変わり、東南アジア研究センターとアジア・アフリカ地域研究研究科の事務を併せて受けもつことになった。事務部は庶務・会計・教務の3掛に分かれ、さらに内部組織として学術交流室を設置し、それぞれ業務を担当している。

2. 協 議 員

協議員会は、センターの運営に関する最高議決機関であり、センターの所長、全教授および助教授1名、ならびにセンター所長が委嘱した関係部局の教授7名によって構成されている。

3. 職 員

センターの職員は、(イ) 研究部、(ロ) 資料部（図書室、編集室、情報処理室）、および(ハ) 事務部に所属する職員からなる。1998年10月1日現在の職員は次のとおりである。

所 長 教 授 立 本 成 文

(イ) 研 究 部

生態環境部門

教 授	山 田 勇	森林生態学
教 授	田 中 耕 司	熱帯農学, 熱帯環境利用論
助 教 授	安 藤 和 雄	熱帯農学, 農村生態

社会生態部門

教 授	立 本 成 文	地域研究, 文化人類学, 社会学
助 教 授	五十嵐 忠 孝	人類生態学
助 教 授	林 行 夫	文化人類学, 宗教社会学
助 手	石 川 登	社会人類学

統合環境部門

教 授	白 石 隆	歴史学, 比較政治学
教授(併任)	濱 下 武 志	アジア地域研究
助 教 授	西 村 重 夫	比較教育学

地域発展部門

教授 吉原 久仁夫

経済発展論

教授 海田 能宏

農村開発論, 熱帯農業水文学

教授 阿部 茂行

経済学

助教授 水野 廣祐

経済発展論, 農業経済学, 労働経済学

助教授 藤田 幸一

農業経済学

人間環境部門

教授 福井 捷朗

農業生態

教授 吉田 彌太郎

内科学, 血液・免疫・感染症

教授 西 淵 光 昭

病原細菌学

助教授 河野 泰之

自然資源管理

客員研究部門

地域研究第一 (外国人客員)

Xuan Vo-Tong

栽培学

Umar Kayam

文化研究

Johan Silas

建築学・都市計画学

Varaporn Uddhakul

微生物学

地域研究第二 (国内客員)

教授 片山 裕

政治学

助教授 大野 昭彦

経済開発論

東南アジア諸語文献 (外国人客員)

Richard A. O'Connor

文化人類学

Amphorn Wongthangsawat

図書館学

文部省内地研究員

Lim Lrong Yew

経営学

非常勤講師・非常勤研究員等

非常勤講師 須羽 新二

情報化社会論

非常勤研究員 及川 洋征

熱帯農学, 森林経営学

非常勤研究員	貞好康志	地域研究, 歴史学
非常勤研究員	松本千穂	分子生物学, 分子疫学
非常勤研究員	吉木岳哉	地形学, 第四紀学, 自然地理学
学振特別研究員	長津一史	文化人類学

(研究部連絡室)

事務補佐員	河合友子
事務補佐員	首藤晶子

(研究室)

事務補佐員	成田朋子
事務補佐員	荒木千枝子
事務補佐員	林晃子

(口) 資料部

(図書室)

助手	北野康子	東南アジア書誌学
事務補佐員	小室静子	
事務補佐員	谷口靖子	
事務補佐員	田中修司	
事務補佐員	古田保子	
事務補佐員	山田尚代	

(編集室)

助手	米澤真理子
教務補佐員	Peter John Hawkes
事務補佐員	小林純子
事務補佐員	大熊知美

(情報処理室)

助手	吉村充則	環境工学
事務補佐員	亀井聡	

(八) 事務部

事務長		事務官	佐野重信
専門員		事務官	足立 巖
庶務掛	掛長	事務官	中山圭史
	主任	事務官	山本重夫
		事務官	富家朋子 (学术交流室勤務)
		事務補佐員	橋本珠希 (学术交流室勤務)
		事務補佐員	平尾千草
		臨時用務員	岩本照子
会計掛	掛長	事務官	宮田浩行
	主任	事務官	谷北道成
		事務官	上垣泰浩
		事務補佐員	石田祥子
		事務補佐員	藤井園子
		事務補佐員	西尾雅美
教務掛	掛長	事務官	野村 茂
	主任	事務官	前田満喜子

4. 海外連絡事務所

(イ) バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所 (所在地, 8 B, Raj Mansion, 31-33, Soi 20, Sukhumvit Road, Bangkok 10110, Thailand, 電話 + 66-2-259-8485 ; Fax + 66-2-259-8419 ; e-mail cseas32@ksc.th.com) は, 1963年10月に開設されて以来, 7度にわたって駐在地の変更があったが, この間のべ63名が駐在の任に当たった。

(ロ) ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所 (所在地, Jl. Erlangga V, No. 19 Kebayoran Baru, Jakarta 12110, Indonesia, 電話 + 62-21-7392831 ; Fax + 62-21-7205325 ; e-mail cseasj@idola.net.id) は, 1970年10月に開設されて以来, 5度にわたって移転があったが, この間のべ46名が駐在の任に当たった。

5. 学内研究担当教官

当センターは、東南アジア研究に関心をもつ学内各部署の教官に、研究担当教官として参加を委嘱している。1998年度において、これらの研究担当教官は131名を数える。

6. 学外研究協力者

当センターは、総合的に地域研究を実施するため、東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に、研究協力を仰いでいる。1998年度において、これらの研究協力者は268名を数える。

第3章 研究活動

1. 調査・研究

(1) 共同研究

センターの調査・研究活動は個別研究と共同研究に大別されるが、共同研究のうち、センターの大部分のスタッフの関与するものは、センター研究計画（プロジェクト）として推進されてきた。センタープロジェクトは、5カ年を単位として設けられる共通のテーマのもとに、所員が任意の研究グループをつくり、科学研究費補助金「国際学術研究」などを通じて臨地研究を共同で行うものである。

1980年度から1984年度までの5カ年計画として、「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」というテーマのもとに、このセンタープロジェクトが遂行され、「熱帯モンスーン・エコシステムにおける農業の発展と地域間交渉の展開」と「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の2つの研究班が編成された。1985年度から、第2次5カ年計画として「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」が進められ、「外文明と内世界」、「文明と国家形成」、「文明と生態環境」、「文明と経済環境」の4つの研究班が組織された。1990年度からは、第3次5カ年計画として「東南アジア世界の固有論理と発展構造に関する研究」が進められ、「東南アジア世界の成立と歴史構造」、「東南アジアの自然生態と発展形態」、「東南アジアの人間環境と社会組織」、「東南アジアの文化環境と地域統合」の4つのクラスターが研究班の役割を担って組織された。以上の5カ年計画のテーマに沿っていくつもの個別的な共同研究が文部省科学研究費補助金（海外学術調査／国際学術研究）あるいはその他の機関の援助を得て実施された。

5カ年計画を背景に、1993年度から4カ年のプロジェクトとして、文部省重点領域研究「総合地域研究の手法確立——世界と地域の共存のパラダイムを求めて」が発足した。全国の地域研究者の参加を得て先端的な地域研究をめざす「地域と生態環境」「地域性の形成論理」「地域発展の固有論理」の3計画研究班、および地域研究の手法確立を探る「外文明と内世界」「地域連関の論理」「総合的地域研究の概念」の3つの計画研究班が組織され、多数の公募研究班とともに、総合的地域研究の手法確立のための共同研究が進められた。

この重点領域研究で得られた成果をさらに発展させるために、1998年度から新たな5カ年計画が進行中である。文部省中核的研究拠点（COE）形成推進計画「アジア・アフリカにおける地域編成——原型・変容・転成」がそれで、新たに設置された大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とともに、地域研究の中核的拠点の形成を目指すことになる。この計画では、東南アジア、南・西アジア、アフリカ、をそれぞれ対象とする3つの研究クラスターが編成され、センターに計画全体を統括する事務局が置かれている。地域研究における中核的な役割をセンターが機構的にも担い、「地域とはなにか」の理解に向けたトータルかつダイナミックな研究視角を提出するため、新たな一歩を進めようとしている。

上記の共同研究は、現地調査を中心として行われること、学際的なチームメンバーを組んで行われること、東南アジア地域及びその他の外国人研究者の参加を得て行われることを特色としている。本年度までに出版された研究成果の一部は、第6章「出版活動」の研究報告書シリーズの項に掲載されている。なお、1990年度以降に2つのプロジェクト以外の個別の共同研究のもとで実施された科学研究費補助金による海外学術調査は以下のとおりである。

- 1990年度：「東南アジア型都市文明の形成——外文明からの変容と内発的展開——」（研究代表者：坪内良博）
「中国における農業生態空間の展開と人の移動に関する歴史的研究」（研究代表者：古川久雄）
「東南アジア海域世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：土屋健治）
- 1991年度：「中国における農業生態空間の展開と人の移動に関する歴史的研究」（研究代表者：古川久雄）
「東南アジア海域世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：土屋健治）
- 1992年度：「海域世界の地域間比較」（研究代表者：矢野 暢）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界に関する動態的研究」（研究代表者：加藤 剛）
- 1993年度：「海域世界の地域間比較」（研究代表者：矢野 暢）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界に関する動態的研究」（研究代表者：加藤 剛）
「コラート高原における人間・環境・作物複合の総観的研究」（研究代表者：福井捷朗）
- 1994年度：「熱帯海域世界の比較研究」（研究代表者：高谷好一）
「島嶼部東南アジアのフロンティア世界の動態に関する総合的研究」（研究代表者：加藤 剛）
「コラート高原における人間・環境・作物複合の総観的研究」（研究代表者：福井捷朗）
- 1995年度：「熱帯海域世界の比較研究」（研究代表者：古川久雄）
「サヘルと南インドにおける在来農法の再評価と両地域間技術移転の可能性に関する研究」（研究代表者：応地利明）

- 「人と森世界に関する大陸間比較研究」(研究代表者：山田 勇)
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」(研究代表者：田中耕司)
- 1996 年度：「サヘルと南インドにおける在来農法の再評価と両地域間技術移転の可能性に関する研究」(研究代表者：応地利明)
「人と森世界に関する大陸間比較研究」(研究代表者：山田 勇)
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」(研究代表者：田中耕司)
- 1997 年度：「人と森世界に関する大陸間比較研究」(研究代表者：山田 勇)
「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」(研究代表者：田中耕司)
「熱帯半乾燥地帯でのミレット農耕と他の農耕との接触複合状況および農業再生に関する調査研究」(研究代表者：応地利明)
「東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究」(研究代表者：福井捷朗)
「デルタの 21 世紀像——熱帯アジア 6 大デルタの発展に関する総合的比較研究」(研究代表者：海田能宏)
- 1998 年度：「東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究」(研究代表者：福井捷朗)
「デルタの 21 世紀像——熱帯アジア 6 大デルタの発展に関する総合的比較研究」(研究代表者：海田能宏)

他にさまざまな共同研究がセンター内外の研究者を組織して実施されてきた。日本学術振興会の拠点大学方式による日本・タイ学術交流事業に関わる共同研究、国際協力事業団の研究協力事業として実施されているバングラデシュとの共同研究「バングラデシュ農村開発研究」、あるいは日本学術振興会と日立国際奨学財団の助成による「マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容」(マレーシア国民大学との共同研究)などである。

(2) 重点領域研究

平成 5 年度から 8 年度 (1993-96) まで 4 年間にわたって、文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立——世界と地域の共存のパラダイムを求めて」を東南アジア研究センターが主宰した。この研究は、社会科学としては極めて大型の共同研究で、東南アジア地域研究の専門家約 150 名が、地域と生態環境、地域性の形成論理、地域発展の固有論理、外文明と内世界、地域連関の論理、総合的地域研究の概念の 6 クラスターにわたって計画研究班および公募研究班を構成し、それらを総括班が結び合わせる、という構造のもとに

進められてきた。連動して、いくつかの国際学術研究も同時に行われた。

上の共同研究の成果を、総括班事務局が把握している限りにおいて数字であらわすと、次のようになる。参加者の情報交換メディアとしてのニューズレター 49 号、季刊誌『総合的地域研究』が創刊準備号を入れて第 16 号までの計 17 冊、成果報告書シリーズが 36 冊、総括班主催の研究集会やシンポジウムが合計 10 回、内 1 回は“International Symposium Southeast Asia: Global Area Studies for the 21st Century”と題する国際シンポジウムであった。さらに、各研究班が開催した研究会やワークショップは合計約 100 回に及び、各班から事務局に報告された関連ペーパーは約 1,000 編にも及んだ。

元来、地域研究は固い組織的研究になじまないものかもしれない。この共同研究は、「総合的地域研究」という、ある意味で漠然とした総合テーマを設けることによって、各自の研究手法と関心地域の中から醸し出されてくる研究のアウトプットを、この総合テーマにてらしてもう一度反芻してみよう、というほどの「緩い共同」であったかもしれない。しかし、この中から、「地域間研究」という新しい方向なども見えてきた。現在は、総括班と 6 計画班を中心にして少なくとも数冊の最終的成果を出版すべく準備を進めている。

(3) 中核的研究拠点 (COE) 形成推進計画

文部省科学研究費補助金による COE 形成推進計画「アジア・アフリカにおける地域編成——原型・変容・転成」が平成 10 年度 (1998) から 5 カ年の計画で始まった。センターが基幹研究機関となり、同年度から新たに設置されたアジア・アフリカ地域研究研究科とともに、地域研究の中核となる研究態勢の構築を目指すことになる。研究リーダーはセンターの白石隆教授で、東南アジア (クラスターリーダー: 白石)、南・西アジア (同: 小杉泰教授 [AA 地域研究研究科])、アフリカ (同: 市川光雄教授 [同研究科]) の 3 つの研究クラスターにより、地域を物質生活、地域社会・交換経済、地域システムのレベルでトータルかつダイナミックにとらえた総合的地域研究を行う。

研究実施にあたっての重点目標は、センターおよび地域研究研究科を名実ともに地域研究の中核拠点とするための基礎的資料 (図書・文書資料、地図・衛星画像資料) の網羅的な収集と、国内外の地域研究者・研究機関とのネットワーク形成にある。総勢 25 名の研究分担者に加えて、分担者以外のセンターおよび研究科のすべての研究スタッフが研究協力者となって、文字どおり両機関が一丸となった研究活動がこれから 5 年間続くことになる。なお、研究活動およびその成果は、インターネット上で一般ならびに研究者向けに公

開される予定である。

(4) その他の個別研究

現在のセンターのスタッフによる個別研究については第5章「研究スタッフ」の紹介の項をご参照願いたい。

2. 国際交流

センターにおける研究活動の推進とその寄与を深めるため、種々の形で外国の研究者、専門家との交流にも力が注がれている。

(1) 外国人研究者の招聘

1975年度より客員研究員の制度をセンターに設け、主として東南アジア諸国の研究者を招聘し、センター研究スタッフの一員として共同研究あるいは意見の交換を行なっている。そのほかにも随時、外国人研究者の訪問、滞在を受け入れ便宜を計っている。以下は1995年以降にセンターにおいて研究を行なった外国人研究者のリストである。但し、1995年に滞在した者のうち、すでに『平成7年度版センター要覧』に掲載された研究者は除かれている。

A. 外国人客員研究員

Julia Suryakusuma	1996	現代インドネシア国家と家族	LP3ES (インドネシア)
Chumphon Naewchampa	1996	東北タイ農村の社会経済史	Department of General Education, Ubon (タイ)
Rusdy Effendi Nasution	1996-97	インドネシア産野生バナナの分類学的研究	LIPI (インドネシア)
Isra Sarntisart	1996	タイの所得分配に関する統計的研究	Chulalongkorn University (タイ)
James Francis Warren	1996-97	植民地期シンガポールにおける自殺をめぐる社会史	Murdoch University (オーストラリア)
Rohaya Umar	1996-97	マレーシア人名の典拠形についての研究	The National University of Malaysia (マレーシア)

Doanh Quoc Le	1996 - 97	ソンコンデルタの土地利用 史に関する研究	Vietnam Agricultural Science Institute (ベトナム)
Sodiq Aziz Kuntoro	1996 - 97	インドネシアにおける国民 教育の展開	IKIP Yogyakarta (インドネシア)
Peter Mulok Kedit	1996 - 97	東マレーシア・サラワクに おける文化的多元主義と開 発	Sarawak Museum (マレーシア)
Soedarsono Riswan	1997	熱帯多雨林生態系の森林動 態と人間活動の相互作用	LIPI (インドネシア)
Thanet Aphornsuvan	1997 - 98	タイ史における権力のバラ ドクス	Thammasat University (タイ)
Padmannabh Doodhbhate Mahadev	1997	都市居住構造のヒンドウの 形態：ロンボクと南インド	University of Mysore (インド)
Kriengsak Junthotai	1997	東北タイ農業生産力のモデ リング	Khon Kaen University (タイ)
Kanchanaporn Chitsanga	1997	タイの地方政治に関する書 誌作成	Thammasat University (タイ)
Gilbert Hamonic	1997 - 98	マレー群島におけるディア スポラの文化現象研究	CNRS (フランス)
Vu Tuan Anh	1997 - 98	ベトナムの経済改革	Vietnam's Socio-Economic Development Review (ベトナム)
Chitraporn Tanratanakul	1997 - 98	スペイン支配下のフィリピ ン史研究	Chiang Mai University (タイ)
Vo-Tong Xuan	1997 - 98	ベトナム農村における農民 による協同組織	University of Cantho (ベトナム)
Shiro Saito	1998	日本人研究者の東南アジア 研究	University of Hawaii (アメリカ合衆国)
Sauliah Saleh	1998	東南アジア研究センター図 書室のインドネシアについ ての書誌コレクション	National Library of Indonesia (インドネシア)

B. その他の外国人学者

Ruchadaporn Lartphokanont	1995	日本における人的資源開発 について	Sukhothai Thammathi- rat Open University (タイ)
------------------------------	------	----------------------	---

Adisorn Muakpimai	1995	18世紀, 19世紀の東南アジアにおけるタイの域内貿易: タイ湾の港町	Thammasat University (タイ)
Muhjidin Mawardi	1996	灌漑システムの最適調整に関する研究	Gadjah Mada University (インドネシア)
Chollada Kopatta	1996	日本人会: タイにおける日本人社会	Thammasat University (タイ)
Supamard Panichsakpatana	1996	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究	Kasetsart University (タイ)
Srisakra Vallibhotama	1996	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究	Silpakorn University (タイ)
Naraset Pisitpanporn	1996	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究	Mahidol University (タイ)
Vorawoot Hirunruk	1996	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究	Thammasat University (タイ)
Chalit Chaikanchit	1996	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する比較研究	Silpakorn University (タイ)
Susant Zuhdi	1996 - 97	ブトン王国史 (1667-1906)	University of Indonesia (インドネシア)
Chusri Manipluksa	1996	タイ国における東南アジア研究の方法と組織	Thammasat University (タイ)
Nophadol Chartprasert	1996 - 97	日本における東南アジア研究: タイにおける東南アジア研究をめざして	Thammasat University (タイ)
金英夫	1996 - 97	アジアで重要な下痢症の原因細菌の病因の解析に関する研究	Pusan National University (大韓民国)
Niaz Ahmad Rai	1996 - 97	パキスタンにおける持続的灌漑農業のための水管理	University of Agriculture, Faisalabad (パキスタン)
Siriporn Wajjwalku	1996	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Thammasat University (タイ)

Coeli Maria Barry	1997 - 98	フィリピン・タイにおける現代宗教の展開に関する比較研究	Thammasat University (タイ)
Thongsalith Mangnomek	1997	日本の経済政策に関する研究	National Organization for the Studies of Policy and Administration (NOSPA) (ラオス)
Salim Muhammad	1997	バングラデシュ低地部における稲基幹作付体系の展開とその多毛作化に関する研究	Bangladesh Agricultural University (バングラデシュ)
Basuki Sumawinata	1997 - 98	熱帯湿原地域における環境保全と地域	Bogor Agricultural University (インドネシア)
Corrine Phuankasem	1997	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Thammasat University (タイ)
Charnvit Kasetsiri	1997	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Thammasat University (タイ)
Siriporn Wajjwalku	1997	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Thammasat University (タイ)
Nongnuch Soonthornchawakan	1997 - 98	日本の財政自由化と東南アジア	Thammasat University (タイ)
Nakharin Mektrairat	1997	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Thammasat University (タイ)
Toeti Kakiailatu	1997	ジャワと日本の農村女性の比較研究	週刊誌 <i>Gatra</i> 編集委員 (インドネシア)
Nguyen Huu Chiem	1997	デルタの 21 世紀像：熱帯アジア 6 大デルタの発展に関する総合的地域研究	University of Cantho (ベトナム)
Subwattana Thaveesilp	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Maharakham University (タイ)
Poolsuwan Samerchai	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Thammasat University (タイ)

Soonthornpasuch Suthep	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Chiang Mai University (タイ)
Buasuang Apinya	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Mahidol University (タイ)
Premssirat Suwilai	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Mahidol University (タイ)
Nil-A-Thi Somchai	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Maharakham University (タイ)
Chantong Isaraporn	1997	東南アジアにおける半乾燥地帯の発展と停滞に関する研究	Ratchapat Institute in Surin (タイ)
Withaya Sucharithanarugse	1998	タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究	Chulalongkorn University (タイ)
Chaiwat Khamchoo	1998	バブル経済の原因と結果：日本とタイ政治経済の比較研究	Chulalongkorn University (タイ)
Sharifah Zaleha Syed Hassan	1998	マレーシアにおけるイスラームの貌	National University of Malaysia (マレーシア)

(2) 留学生の派遣と受け入れ

センターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で、センターの若手研究者、京都大学の大学院生、およびその他の学生、若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣し、あるいは留学の便宜を計ってきた。

また、東南アジア諸国の学生をセンターの研修員として受け入れ、その指導に当たった。1994～98年度に受け入れた外国人研究生（研修員）は次の通りである。

Goh Pek Chen	1994-95	日本とマレーシアとの経済関係（マレーシア）
Pham Huy Quang	1994-95	東アジア及び東南アジア諸国間の技術伝播とヴェトナムへの教訓（ヴェトナム）
Walapa Tantisunthorn	1995-96	アジアにおける人的資源の開発（タイ）
Punwichai Lakkana	1995-97	現代タイ社会における「国家」についての考え方（タイ）

3. シンポジウム・セミナー・研究集会

東南アジア研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため、これまでに数多くのシンポジウム、セミナー、ワークショップ、研究集会などが、センターの主催または他機関との共催で開かれた。最近3年間に開催された主なものについて簡単な趣旨とプログラムを掲げておく。

(1) International Workshop on Management of Marine Natural Resources and Coastal Network Societies in Wallacea (1995年12月2日, ウジュンパンダン)

文部省科学研究費による国際学術研究「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」の調査が実施された機会に、センターを中心とした調査隊メンバーとハサヌディン大学の沿岸部地域研究グループの共催で、東部インドネシアの海域および沿岸部の自然・文化・社会の研究成果を交換し、沿岸部地域研究を推進するための討論会を開催した。「海域世界の地理」「移住とネットワーク社会」「海洋資源とその管理」の3つのセッションで、インドネシア、オランダ、日本の研究者による研究発表が行われた。

(2) 日・タイ拠点大学セミナー

「タイとその近隣国(Ⅲ): アユタヤとアジア」(1995年12月18-19日, アユタヤ)

発表者: Anthony Reid, Paiboon Pramojane, Adrian Bernard Lapian, Yoko Nagazumi, 濱下武志, Yahata Abu Bakar, Sunait Chutintaranond, Myo Myint, W. M. Sirisena, Muhammad Haji Salleh, Leonard Yuzon Andaya, 桜井由躬雄, 石井米雄, Adisorn Muakpimai, David K. Wyatt

発表者リストからも窺えるように、アユタヤ史に関わる著名な研究者のほとんどが集まった。特徴的だったのは、マラヤ、チェンマイ、ビルマなどシャムの近隣国からアユタヤを見る目が強調されたこと、また、これまでの研究に欠けがちであった中国、ベトナム、日本、琉球の漢文史料を使った研究が紹介されたことであった。シャムの首都としてだけでなく、アジア、世界の中のアユタヤの位置づけが論議された。アユタヤ時代が前半と後半とで、本質的に異なったものである、という点も、論議の的となった。

(3) 雲南民族生態史研究会 (1996年3月27日)

雲南を中心にした植生・民族文化・生態史などについて、現地調査の報告を受け、科研費調査の研究計画実行にあたって、具体的な研究内容を検討した。

話題提供者

(東京都立大) 邑田 仁

(東大) 阿部 卓

(東京外大) クリスチャン・ダニエルズ

(龍谷大) 羅 二虎

(雲南民族博物館) 尹 紹亭

(4) 東南アジア教育研究会 (1996年4月2日)

第三世界の教育研究会との共同開催として実施した。東南アジアの教育の諸相に関する四つの報告があり、それぞれのテーマについて議論された。

「戦前のフィリピンにおける『日本人』子弟の教育」
(龍谷大) 小島 勝

「現代マレーシアにおける教育政策——新経済政策との関連を中心に」
(国立教育研) 梶田 美春

「タイにおける私立寺院慈善学校の機能と問題点」
(筑波大) 村田 翼夫

「タイにおけるラジャバット・インスティテュート法の成立と地方高等教育振興」
(京都教育大) 堀内 孜

(5) 共同研究「東南アジア大陸部における民族間関係と『地域』の生成」

1996年度は合計5回の研究会を開催し大陸部周縁世界の民族の動態と地域世界の変容について報告と討議を重ねた。成果の一部は『東南アジア研究』第35巻4号にまとめた。

第1(通算第6)回研究会

(1996年4月19日, 京都市)

「雲南における民族間関係と生態系」

(雲南民族学院民族研究所) 劉 剛

第2回研究会 (1996年7月12日, 京都市)

「東北タイの治療師モーラム・ピーファー」

(コンケン大) 加藤真理子

「ベトナム中部高原少数民族と周辺地域」

(民博総研大) 中田 友子

「守護霊祭祀と『歴史』の記憶——中国徳宏地区タイ・マオの事例から」

(岐阜教育大) 長谷川 清

第3回研究会 (1996年12月20日, 京都市)

「北タイ・シャン社会における民族間関係と宗教」
(筑波大) 村上 忠良

「ビルマ辺境における多民族社会の動態」

(Asia Press International) 吉田 敏浩

第4回研究会 (1997年1月25日, 京都市)

「商人としてのアカ族」 (ハル大) 豊田 三佳

「リスがみたりス」 (東京都立大) 綾部 真雄

第5回研究会 (1997年3月28-29日, 博多市)

「雲南省徳宏ダイ族にかんする調査報告」

(九州大) 長谷千代子

「エスニックシンボルの創成と対応——西南中国トン族の事例」
(京大) 兼重 努

「山地民と林業政策——ビルマ・バゴー山地のカレンと『森林村』制度」

(筑波大) 谷 裕可子

「タイ族研究の展望」 (同朋大) 馬場 雄司

(6) 日・タイ拠点大学セミナー

「東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞」(1996年10月21-23日)

発表者: 福井捷朗, Srisak Vallibothama, 桜井由躬雄, 吉野正敏, 田村俊和, Chalit Chaikanchit, 桃木至朗, 新田栄治, 伊東利勝, 中村尚司, 田中耕司, 渡辺弘之, Bondan Hermanislamet, Michael R. Dove, Surat Warangrat, Suwilai Premsrirat, Naraset Pisitpanporn, 林 行夫, Chumphon Naeochampa, 上田曜子, Vorawoot Hirunrak

タイトルと同名の国際的、学際的プロジェクトが発足したばかりであり、そのプロジェクトの方向づけと、半乾燥地についての知識を参加者が共有することを目的とした。発表は、まず、半乾燥地の盛衰と、気候、海域交易との関係を取り扱い、ついで東北タイのコラート高原に関する発表が多く、地形、先史文化、クメールのパライ、製塩・製鉄、言語・民族関係、20世紀の変化などが紹介された。その他の半乾燥地としては、中部ベトナム、中部ジャワ、スリランカ北部などについて発表があった。

(7) 共同研究「フロンティア社会の比較研究」

東南アジアを「フロンティア社会」としてとらえるとき、そのフロンティア性は他地域と共通するのか、あるいは東南アジア固有であるのか？ また、そのフロンティア社会としての特性は持続するものなのか？ このような問題意識を基底に他地域のフロンティア社会と比較しつつ、「フロンティア社会」や「フロンティア概念」を東南アジアから相対化しようとする共同研究会を組織した。アメリカ、オーストラリア、中国、アフリカなどを対象とする歴史学、地理学、文化人類学、熱帯農学などの分野の研究者がメンバーとなって、1996年度末から継続して研究会が開催されている。これまでの研究会の発表は以下のとおりである。

第1回研究会(1997年3月3日)

「共同研究会のねらい」 田中 耕司

「アメリカのフロンティア」

(慶応大) 岡田 泰男

「東南アジアはフロンティアであるか」

立本 成文

第2回研究会(1997年12月17日)

「東南アジアのフロンティア状況——インドネシア、カリマンタンの環境と開発」田中 耕司

「フロンティアの存在・認識・地域的特性」

(三重大) 法貴 誠

第3回研究会(1998年3月3日)

「近世前期の耕地開発と開発限界への到達——北部九州の事例」 (久留米大) 江藤 彰彦

「珠江デルタ開拓史と地域社会」

(阪大) 片山 剛

(8) 共同研究「農村開発の地域性」

農村開発事業が、村で受け入れられ、持続的に展開されるためには、事業展開の過程で在地化が必要とされ、風土や、人々の暮らし方、社会のあり方、地方行政など、「私たちが地域を感じられる諸々の事象」に大きく影響されている。地域研究としての農村開発研究を、この研究会は目指している。1996年度に始まり、現在も継続している。

第1回研究会——行政風土——

(1997年2月21日)

「タイの地方統治制度と農村開発」

(アジア経済研究所) 重富 真一

「ジャワ島K村にみるデサ行政の『NGO』的側面」

(京大) 島上 宗子

「バングラデシュの地方行政——行政サービスの展開」

(京大) 矢嶋 吉司

第2回研究会——NGOに地域がみえる——

(1998年3月17日)

「NGOと政府協働を可能にする条件を考える——インドの民衆科学運動の事例から」

(日本福祉大) 斎藤 千宏

「貯蓄・貸付グループを核とした農村開発——インド・ネパールの事例より」

(大阪市立大) 岡本真理子

「NGOによる農村開発——パキスタン・北方地域の事例から」

(総合研究大学院) 小島 進

(9) International Seminar on Maritime Communities in a Changing World: Challenges of Development Programmes (1997年9月23-25日, メナド)

文部省科学研究費による国際学術研究「ウォーラセア海域世界におけるネットワーク型社会の文化生態的動態」の調査が実施された機会に、センターおよびサムラットランギ大学の共催で、EAGA (East ASEAN Growth Area) における地域協力・開発政策の進展と海域社会の変容についての検討会を開催した。インドネシア、フィリピン、オーストラリア、日本の研究者が参加し、「変化のなかのバジャウ社会」「沿岸地域の環境・資源に関する在来知識」「沿岸地域と開発政策」「EAGA 開発計画と地域の将来」の4つのセッションで活発な論議が展開された。

(10) 日・タイ拠点大学セミナー

“Perspectives of Southeast Asian Studies in Thailand”

(1997年11月27-28日, バンコク)

このセミナーは、タマサート大学と東南アジア研究センターの間で推進されている日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業のうち、1996年度から2年間の予定で開始

されたプロジェクト「タイ国における東南アジア研究の方法と組織に関する研究」の最終セミナーである。プロジェクトは、タイにおける“東南アジア研究センター”設立の促進を図るために企画された。

発表者にはタイ、日本からの参加者だけでなく、シンガポール、アメリカからの参加者も含まれ、ディスカッサントとしてインドネシア、フィリピン、マレーシアの研究者も招聘された。2日間を通じて80人以上の出席者があり、国際的な比較の見地を踏まえて、タイにおける東南アジア地域研究の制度的あり方について積極的かつ有意義な意見の交換がみられた。

4. 東南アジア学フォーラム

より多くの東南アジア地域研究者との研究交流をはかるために、センターは、1991年9月より「東南アジア学フォーラム」を年数回開催してきた。このフォーラムの趣旨は、より多くの研究者をまじえて、東南アジア学のフロンティアを語り、より鮮明な東南アジア像を模索し、またあるいは地域研究に関わる研究と教育の諸問題について情報交換をしようというものである。1997年度は全国的な参加と外部専門家の発表をはかるべく、3日連続、3つのセッションの同時進行という形態を試みた。

1996年～98年に開催されたフォーラムのテーマと話題提供者の一覧を掲げておく。

第17回フォーラム（1996年3月2日）

タイ系社会における「自文化」の現在
「ラオ人社会にみる『自文化』の構築——担い手とその周辺」 林 行夫
「コメント」 （関西学院大）田中きく代
「タイ・ルー社会にとっての国家と移住——地域の歴史的想像力をめぐって」
（同朋大）馬場 雄司
「コメント」
（国立民族学博物館）杉本 良男

第18回フォーラム（1997年4月26日）

ジェンダーから見る東南アジア
「周縁社会の民族の動態とジェンダー——北タイ・カレンの場合」 速水 洋子
「コメント」
（国立民族学博物館）杉島 敬志
「東南アジア農村経済の変容と女性労働——バリ織布産業の事例から」 （岡山大）中谷 文美
「コメント」 （東大）瀬地山 角

1997年度（1998年3月6日-8日）

会場 A 会場：東南ア研 東棟2階 第1教室
B 会場：東南ア研 共同棟3階 セミナー室
C 会場：東南ア研 共同棟4階 セミナー室

3月6日 A会場

東南アジア研究における「場」と「境界」再考——複眼的フィールドワークにむけて

「問題提起」	石川 登	「エンデの人の遠近両用眼鏡」	
「文化の場と非場：イバン民族誌に関する自省」			(大阪大) 中川 敏
	(一橋大) 内堀 基光	「コメント」	(慶応義塾大) 棚橋 訓 速水 洋子

B会場 バックコック——紅河デルター村落の歴史社会調査

「バックコック研究の過程報告」		「合作社の社会活動」	(東大) 岩井美佐紀
	(東大) 桜井由躬雄	「合作社と農業」	(京大) 柳沢 雅之

C会場

The Indonesian Women's Movement and National Politics: Gerwani and the October 1 1965
putsch (お茶の水女子大) Saskia E. Wieringa

Witness Denied: Australian and Japanese media responses to the Indonesian holocaust, 1965-
1966 (精華大) Richard Tanter

The Emerge of Architecture and Urban Conservation in Southeast Asia: the lacking of a
wider theoretical underpinning for the practicalities of conservation planning
(立命館大) Laretna T. Adishakti

Role of Villages during Land Redistribution in the Rural Areas of the Red River
(筑波大) Doan Doan Tuan & Masayoshi Satoh

Structural Reform of Local Government Systems in Bangladesh
(バングラデシュ工業省) Hasnat Abdul Hye

3月7日

「東南アジア経済の強さと弱さ」 (東大) 原 洋之介

A会場 地方行政の比較

「フィリピン」	(神戸大) 片山 裕	「タイ」	(天理大) 橋本 卓
「マレーシア」	(明治大) 鳥居 高	「コメント」	(東大) 森田 朗

B会場 東南アジアの相対的乾燥地社会の盛衰と生態環境

「問題意識と課題」	福井 捷朗	「旭日銀貨経済圏の形成とドヴァーラヴァ	
「灌漑稲作と減水深」	河野 泰之	ティーの勃興」	(愛知大) 伊東 利勝
「ジャワ・バリの灌漑技術の変遷」			
	(早稲田大) 春山 成子		

C 会場 国内における東南アジア研究の交流機構

「パネルディスカッション」

(東大) 濱下 武志・原 洋之介

(東外大) 石井 溥

(国立民族学博物館) 松原 正毅

3月8日

A 会場 熱帯デルタの21世紀像：珠江からベンガルまで

「海のデルタと野のデルタ——熱帯アジア6大
デルタの『21世紀像』研究の枠組」

海田 能宏

「生態・生業からみたデルタ像——アジア大デ
ルタの21世紀像」

安藤 和雄

「歴史地理からみたデルタ像——アジア大デ
ルタの21世紀像」 (奈良女子大) 野間 晴雄

「発展論からみたデルタ像——アジア大デル
タの21世紀像」 (宇都宮大) 富田 正彦

「ベンガル湾沿岸地域で発生する感染症と他地
域への影響——コレラおよび近縁菌による感
染症の最近の動向」 西淵 光昭

B 会場 一般公募セッション

「水稻品種『マスリ』——技術協力の一成果、特
にその熱帯アジア諸国における普及に関連し
て」

川上潤一郎・那須 曠正

「東アジアにおける開発と民主主義——タイと
シンガポールを事例に」

(松下政経塾) 甲斐 信好

「タイ、ラオスにおける公衆衛生課題」

(鈴鹿医療科学技術大) 翠川 裕

(国立国際医療センター) 中村 哲

「『伝統医療』の構築化における一考察——イン
ドネシア・バリ社会の事例研究」

(京都文教大) 大橋亜由美

「タイ米貿易とアジア間競争——19世紀末を中
心に」 (京大) 宮田 敏之

C 会場 若手公募セッション

「ハッジ・ミラの行商記録——マカッサル海峡
スブルモンデ諸島における生活世界」

(京大) 濱元 聡子

「インドネシア・スンバ島東部におけるビジネ
ス・カインの興隆と背景」

(お茶の水女子大) 田口 理恵

「市場(いちば)における商人の階層構造——
中部ジャワの事例から」 (龍谷大) 嶋田 ミカ

「ジャワ島中部K村にみるクレジット活動の実
態——インドネシアにおける住民の組織化と貧
困撲滅対策との関連で」 (京大) 島上 宗子

「マレーシアにおける半導体産業のジレンマ」

(京大) 呉 碧娟

「サラワク・イバンの生業・土地利用特性——
特に湿地田作形態の変化に着目して」

(京大) 市川 昌広

「東ネグロス州山間部における農民農業の展開」

(京大) 加川 真美

5. 研究会等

センターでは、比較的大きなシンポジウム・セミナーの他に、各種の研究会が開催されている。定期的な所員研究討論のほか、センタースタッフを中心としてテーマ別に組織された研究会や、センターの客員部門の外国人研究員や折々にセンターを訪問する外国人研究者による特別研究会などがあり、常時センター内外の人々の出入りがたえない。

6. 東南アジアセミナー

東南アジアセミナーは、数十人の受講者を募り、東南アジアの自然、文化、社会等について概説し、専門的研究に必要な基礎知識を付与するため、集中的な講義及び演習を行うことを目的とし、1976年から毎年開催されているものである。近年は、年ごとに異なるテーマを決め、かなり専門的な講義も含めている。特に1993年度以降は、従来よりも一段とセミナー色を濃くし、受講者発表をプログラムに盛り込んだ。1997年度には、ラオス、タイ、マレーシア、シンガポールと陸路南下する15日間の海外研修を実施し、好評を得た。1996～98年度のセミナーのテーマ、講義題目、講師の一覧を掲げておく。

1996年度

テーマ「さまざまな農村開発」(9月2日-6日)

「農村開発——関わりの作法(1)」海田 能宏	「スラウェシ：『精霊』vs. 農村開発」
「バングラデシュ：在村リーダー達への期待」 安藤 和雄	(愛媛大) 遅沢 克也
「タイ：農村振興政策への問いかけ」 池本 幸生	「バングラデシュ：NGOの農村開発」 ((社)セーブ・ザ・チルドレン) 中田 豊一
「タイ：伝統手織物技術の再興」 (東北学院大) 野崎 明	「インドネシア：『開発の時代』の農村」 田中 耕司
「カレン：女性から見た開発」 速水 洋子	「農村開発——関わりの作法(2)」 (龍谷大) 中村 尚司
「ビルマ：軍政下の農村開発」 (東大) 高橋 昭雄	

1997 年度

テーマ「脱国境時代の東南アジア」

1) 国内研修 (9月26日-27日)

「タイ鉄道史」 (東大) 末廣 昭 「国境と国民国家」 白石 隆
「国境を越える『民族』」 林 行夫; 速水 洋子 「『タイ人』の歴史」 (天理大) 飯島 明子

2) 海外研修 (10月23日-11月6日)

10月23日 関西空港→バンコク

24日 バンコク→ラオス・ヴィエンチャン

“Economic Relationship between Laos and Its Neighboring Countries”

(State Planning Committee) Souphanh Keomixay

25日 ラオス・ヴァンヴィエン JICA 森林プロジェクト見学

26日 ヴィエンチャン→タイ・コンケンへ移動

「東北タイの土地と土地利用」 福井 捷朗

バンチアン遺跡見学

27日 “Northeast Thailand and the Mekhon Civilization” (コンケン大) Chalit Chaikanchit
ドンデン村訪問

28日 コンケン→アユタヤへ移動

ピーマイ遺跡見学, 船にてアユタヤ見学

29日 “History of Ayutthaya” (シーナカリンウィロート大) Plubplung Kongchana

アユタヤ歴史資料館見学

アユタヤ→バンコクへ移動

30日 “Indonesia-Malaysia-Thailand Growth Triangle Development Project”

(チュラロンコン大) Sompop Manarungsan

夜行列車にてハジャイに移動

31日 早朝, ハジャイ到着。臨地研修

11月1日 ハジャイ・マレーシア・ペナン島へ移動

ペナンにて臨地研修

2日 ペナン島からバターワースへ, 列車にてクアラルンプールへ移動

「マレーシアとシンガポールの国際労働移動」 石川 登

3日 “Formation of Malay Elites” (マレーシア国民大) Shamsul A. B.

4日 専用バスにてマラッカへ移動

臨地研修 (マラッカ)

専用バスにてシンガポールへ移動

5日 臨地研修 (シンガポール)

シンガポール発

6日 関西空港到着, 解散

1998 年度

テーマ「東南アジアの経済『危機』——変革の契機?」(10月26日-30日)

第1部「通貨・金融危機に見る地域性」

「あいさつ・趣旨説明」 水野 廣祐

「IMFの政策」 (神戸大) 日野 博之

「東アジアの通貨・金融危機と改革」

「金融システムの改革」

吉原久仁夫

(アジア経済研究所) 国宗 浩三

「韓国の通貨・金融危機と改革」

「マレーシアの通貨・金融危機と改革」

(同志社大) 服部 民夫

(明治大) 鳥居 高

「タイの通貨・金融危機と改革」

「インドネシアの通貨・金融危機と改革」

(アジア経済研究所) 東 茂樹

水野 廣祐

(討論)

(討論)

第2部「発展への『処方箋』」

「政治改革——官・政・民の癒着問題と行政システム」 (京大) 玉田 芳史

「市場化・民主化とジェンダー」

(国立リハビリ学院) 江藤 双恵

「法律改革——市場化・民主化とアジア法」

「受講生発表」

(名古屋大) 安田 信之

(討論)

「受講生発表」

「多民族国家問題と市場化・民主化」

(討論)

(大阪外大) 松野 明久

「住民のイニシアティブに基づく農村開発とNGO」 安藤 和雄

「市場化・民主化と宗教」(千葉大) 中村 光男

「受講生発表」

(討論)

7. 資料収集および情報処理

東南アジアの研究を深化、発展させるために各種の資料収集がとりわけ重要なことは言うまでもない。1965年に図書室が開設されて以来、東南アジア地域にかかわる専門書を中心に収集を進めてきた結果、1998年3月現在82,262冊(洋書63,501冊、和漢書18,761冊)を登録し、所蔵するにいたった。これらの資料のうち、学術情報センターのNACSIS-Webで検索できる書誌データの件数は、和図書5,494、洋図書11,632、和雑誌544、洋雑誌729である。研究資料としては次のような特記すべき資料がある。

(1) 現地語資料

1983年度以来、東南アジア諸地域の言語で出版された文献の組織的収集を目指して、特別予算の要求を行なっている。1983年度から5カ年間の第一次収集計画、および1988

年度からの10カ年間の第二次収集計画を終わり、1998年度からの5カ年間の第三次収集計画が始まったところである。これらの計画により収集された資料のうち、整理済で配架されている現地語図書資料の内訳の概数は、レファレンス図書を除いて1997年度末現在で次の通りである。

正規の分類：タイ語約6,000冊、インドネシア語約5,000冊、マレー語約330冊、ビルマ語210冊、その他10冊、特殊コレクション（別置）の概数：フォロンダ・コレクション7,000冊、チャラット・コレクション9,000冊、ベトナム語2,200冊。特に、タイ語文献の「チャラット・コレクション」、およびフィリピンに関する「フォロンダ・コレクション」は世界に誇るコレクションである。

また、1986年度からは、東南アジア諸語文献研究部門が新設され、東南アジアから書誌学者やカタログを招聘することができるようになったので、彼らの協力によりこれらの資料の整理もできるようになった。「チャラット・コレクション」については3巻よりなる冊子体の目録と「フォロンダ・コレクション」の蔵書目録がある。今後もさらに充実した収集を目指している。

（2）マイクロフォーム

1971年以降、「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」の一部を継続的に購入したのを始め、その後機会のあるごとにその充実をはかってきた。この結果、現在までにマイクロフィルム約4,300リール、マイクロフィッシュ約4,300ケースが納められている。このうち、フィルムは、東南アジア諸国統計資料、インドシナ三国近・現代史資料、第2次大戦下の東南アジア関係資料などを含み、フィッシュは、コーネル大学およびオランダ王立言語民族文化研究所が所蔵するインドネシア関係資料を主としている。

（3）雑誌

東南アジアを専門に対象とする雑誌は、創刊号から揃っている *BEFEO* をはじめとして50タイトル以上に及ぶ。東南アジアを含むアジア一般、熱帯、開発に関するタイトルは43点である。このほかすでに刊行されていない雑誌もかなりあり、東南アジア関係では有名な Logan の *JIAEA* や *Djawa* をも含めて18タイトル、アジア関係では、London から出た *Asiatic Quarterly Journal* 及びその後身（1886-1912）や *Mondes Asiatiques* など12タイトルある。これらの地域関係雑誌の多くは欧米発行のものであるが、東南アジ

アの大学・研究機関の刊行する雑誌も増えてきており、それらはできるだけ収集するように努めている。その他 *Prisma*, *Tenggara* などのような各国語の週刊誌、総合雑誌、文芸批評誌も定期購読している。

(4) 統計

東南アジア、東アジア諸国の政府刊行物、および国際機関の刊行物を中心に、購入または寄贈として収集している。このうち継続して購入している刊行物は26種である。国民所得、財政、金融、貿易、労働、人口など経済統計が大半で、国別ではインドネシアが多く、地方統計も多く含まれている。その他に東南アジア各国のセンサスを、刊行の都度、可能な限りで収集している。

(5) 地図

所有する地図は東南アジア地域を中心に、インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、パキスタン、中国、朝鮮、オーストラリア、太平洋諸島及び日本周辺と、ほぼ南アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も、戦前のものから近年の航空測量によるものまで、多岐にわたっており、現在約2万8千枚余に及んでいる。この中には、旧陸地測量部による南アジア、東南アジア、東アジアの2万5千分の1、5万分の1地形図等、歴史的にみても貴重なコレクションもある。また、数は少ないが、東南アジア各国の土地利用図、地質図、植生図などの主題図も含まれている。

(6) 人工衛星画像データ

1978年から人工衛星画像データの収集をはじめ、現在3千数百シーンの画像データを所蔵している。対象地域は、東南アジア全域、インド亜大陸東半分からバングラデシュ、南中国の一部および日本の一部である。とくに東南アジア大陸部は限なくカバーされている。当初はLandsat MSSの100万分の1の白黒ポジフィルム（バンド4、5及び7）を中心に集めていたが、やがてLandsat TMやMOSの25万分の1フォルスカラー写真に切り換え、近年はデジタルデータへ移行しつつある。

センターでの人工衛星画像データ利用は、従前、目視による、広域の地形、土地利用、植生、水文環境などの判読に限定されていたが、今後は、デジタル処理を行うことにより、また他の情報と重ね合わせて地理情報システムを構築することにより、より多様な利

用を進める。インデックスも整理されており貸し出しも可能である。

(7) 情報処理

情報処理室では、研究活動支援のためのメールサーバーやパーソナルコンピュータを揃えている。所員や外国人研究者が統計処理や文書処理をするために利用するほか、利用に当たっての相談にも応じている。

現在情報処理室で利用可能な機器としては、DOS/V パーソナルコンピュータ 7 台（英語環境 4 台、日本語環境 3 台）がある。

また、情報処理室外にも次のような機器があり、利用可能である。

(1) 携帯型パーソナルコンピュータ 5 台（英語環境 3 台、日本語環境 2 台）

(2) AO 版カラープロッタ、図面及び画像出力に用いる

8. 出版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は、センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは、1963 年以来季刊学術誌『東南アジア研究』を出版し、レフリー制度のもとに学内外の東南アジア研究者の論稿を掲載してきた。1998 年 9 月現在 36 巻 2 号（通算 145 号）を数え、所収論稿は膨大な数に上る。

主として個人の研究成果は東南アジア研究叢書としては創文社から現在まで 24 冊、English Language Series としてはハワイ大学出版局から 20 冊を刊行している。なお、1995 年度から新たに京都大学学術出版会より地域研究叢書が始まり、現在既に 4 冊が刊行されている。

研究報告書シリーズは、シンポジウムの報告書、文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書、その他の研究奨励金を受けて行なった研究の報告書、共同研究の中間的な成果、外国人研究員の研究報告書など各種のものを含んでいる。1998 年 9 月現在合計 73 冊を数える。より機動的に運営されていたディスカッション・ペーパーシリーズ、リプリント・シリーズは、ワープロなどの普及により、シリーズとしては発行を中止している。

第4章 大学院教育

農学研究科：熱帯農学専攻（協力講座）

1981年に農学研究科に熱帯農学専攻が設置され、センターの農学系の教授、助教授らが協力講座として3講座（熱帯稲作論、熱帯地文環境論、熱帯水文環境論）を担当してきた。熱帯農業に関連した環境、生態、農村発展論にわたって長期のフィールドワークを中心として教育訓練を行い、これまでに計27名の修士ならびに博士修了者を送り出してきた。この内、留学生は11名で、大半が博士号を取得して帰国し、それぞれの職場で活躍している。

なお、熱帯農学専攻は、農学部・農学研究科の改組に伴って1996年をもって廃止された。協力講座としては、現在6名の博士課程在学生の教育を続行している。

人間・環境学研究科：東南アジア地域研究講座（協力講座）

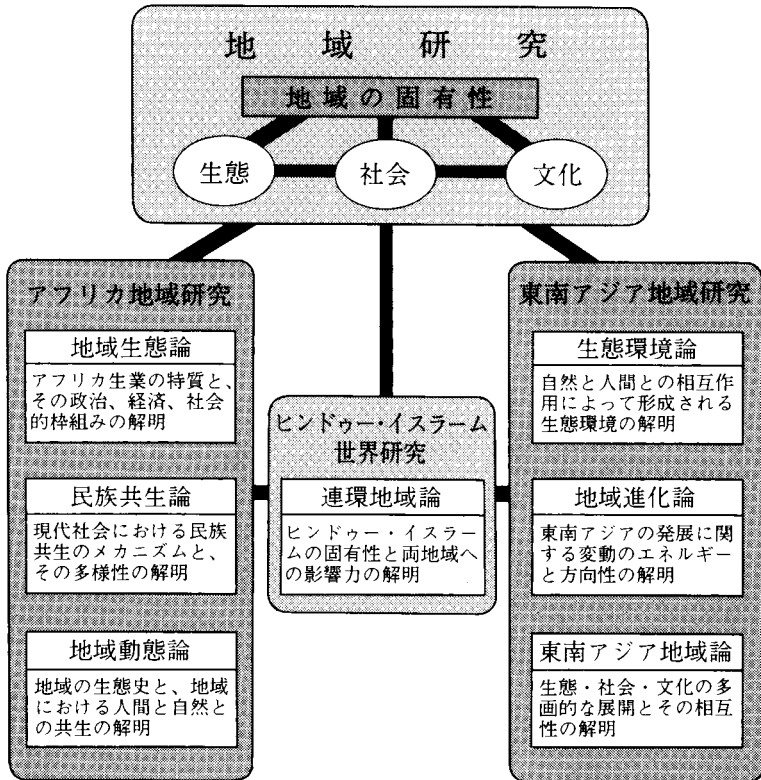
人間・環境学研究科の第2専攻（文化・地域環境学専攻）が1993年度に発足するとともに、センターの教授・助教授はほぼ全員が東南アジア地域研究講座（協力講座）担当として参画し、ほぼセンターの5部門14分野に沿った授業科目を設けて学生を募集してきた。各年度の入学者数は、1993年度6名（うち留学生1名）、94年度4名（うち留学生3名）、95年度4名、96年度3名、97年度3名である。98年度現在の在籍者は修士課程3名、博士課程12名、計15名。それぞれが東南アジア諸地域に自分のフィールドを持ち、長期にわたる調査研究を進めている。

なお、1998年度からは、アジア・アフリカ地域研究研究科の発足とともに、東南アジア地域研究講座としては学生募集をしないこととなった。

アジア・アフリカ地域研究研究科：東南アジア地域論講座（協力講座）

1998年4月、アジア・アフリカ地域研究研究科が発足した。この研究科は、東南アジア地域研究専攻とアフリカ地域研究専攻の2専攻から構成されるが、東南アジア地域研究専攻の中に連環地域論講座を置き、東南アジアとアフリカの両地域に接続するヒンドゥー・イスラーム両世界をも含めて、地域間比較を視野に入れた地域研究教育を進めて

アジア・アフリカ地域研究研究科の構成



いくことにした。それぞれの地域の歴史が育んできた生態・社会・文化の固有性を解明するとともに、諸地域が抱える現代的な課題についても地域研究の方法を通じて考究していく。本研究科の構成は付図のとおりである。

東南アジア地域研究専攻は、3基幹講座を創設したものであり、一方アフリカ地域研究専攻は、人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻のアフリカ地域研究講座（旧アフリカ地域研究センター）を移行させたものである。本研究科は5年一貫制の博士課程を設けており、学生定員は東南アジア地域研究専攻14名、アフリカ地域研究専攻10名の計24名である。

センターは、東南アジア地域研究専攻の東南アジア地域論講座全体を協力講座として担当し、このために教授5名、助教授3名を充てている。さらに、研究科共通科目担当として、

教授 4，助教授 2 名があたり，全センターをあげて大学院教育に参加することとなった。

本研究科の東南アジア地域研究専攻の教育面における大きな特徴は，集団指導体制である。この専攻に入学した 1 回生は主指導教官 1 名に加えて副指導教官 2 名を自主的に選ぶことができる。この制度によって，専攻としては比較的幅広い分野から学生をリクルートすることができ，また学生は比較的自由に研究テーマを選ぶことができる。学生は，5 年一貫制教育の中で，長期にわたる本格的なフィールドワークを通して，地域の生態・社会・文化の相互関係を総合的に把握する能力を養うことを期待されている。

初年度の平成 10 年度（1998）は，東南アジア地域論講座には，センターの教官を主指導教官とする 5 人の新入生が配属され研鑽をはじめた。

第5章 研究スタッフ

東南アジア研究センターの現職研究スタッフの略歴、現在の研究テーマ、主要な研究業績などを紹介する。各研究スタッフは、研究部では生態環境部門、社会生態部門、統合環境部門、地域発展部門、人間環境部門、地域研究第二客員部門、非常勤講師・非常勤研究員等、続いて資料部の順に配列されており、1. 最終学歴、2. 学位、3. 専門分野、4. 現在の研究テーマ、5. 略歴、6. 主要な研究業績の順である。

1. 研究部

生態環境部門

山田 勇

1. 京都大学農学部, 1966.
2. 京都大学農学博士, 1979.
3. 森林生態学
4. (1) 東南アジア熱帯多雨林の森林構造
(2) 地球生態系における東南アジアの位置づけ
(3) 熱帯林生態系における人と自然のかかわり
5. 1975年、東南アジア研究センターに助手として採用される。1980年農林水産省関西林木育種場、1981年同関東林木育種場室長をへて、1988年より、東南アジア研究センター助教授。京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。1995年より教授。人間・環境学研究科およびアジア・アフリカ地域研究研究科併任。

1965年以降、以下の海外研究活動を行う。1965年タイ、カンボジア、マレーシアの植物調査、1968～70年インドネシアの森林調査、1976年インドネシアの森林調査、1977年タイ、マレーシア生態調査、1978年フィ

リピン生態調査とインドネシア調査、1979年北米山林調査、1982、1983、1984～86年までブルネイ森林調査、1988年北米及び中米の森林調査、1988～89年パプアニューギニア、インドネシアの低湿地調査、1990年タイ、インドネシア、中国、1991年マレーシア、タイ、ラオス、中国の生態調査。1992年アマゾン、マレーシア、インドネシア、1993年アマゾン、マレーシア、インドネシア、1994年ギリシャ、トルコ、エジプト、エクアドル、ボリビア、グアテマラ、ペルー、インドネシア、マレーシア、ブルネイ。1995年中国、ネパール、ホンコン。1996年マレーシア、ネパール、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、チェコ、オーストリア、ポーランド、ケニア、カメルーン、フランス。1997年マレーシア、中国、アメリカ、カナダ、エクアドル、ペルー、ボリビア、チリ、アルゼンチン。1998年マレーシア、中国、ベトナム。

6. (1) Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java (I)～(IV)『東南アジア研究』13(3)–15(2), 1975–77.

- (2) 『熱帯の有用樹種』(共著) 熱帯農学研究センター, 1978.
- (3) "Ecological Study of Mangrove and Swamp Forests in South Sumatra," (共著) in *South Sumatra, Man and Agriculture*, CSEAS, Kyoto Univ., 1980.
- (4) 「西ジャワパングランゴ山山地林における落葉落枝などの季節変化」『東南アジア世界』創文社, 1980.
- (5) 「東南アジアの低湿地林1. マングローブ」『東南アジア研究』21 (2), 1983.
- (6) 「同2. マングローブの分布」『東南アジア研究』21 (3), 1983.
- (7) 「同3. 淡水湿地林」『東南アジア研究』21 (4), 1984.
- (8) 「同4. 泥炭湿地林」『東南アジア研究』22 (2), 1984.
- (9) 『東南アジアの低湿地』(共著) 農林統計協会, 1986.
- (10) *Report on the Forest Research in Negara Brunei Darussalam from 1984 through 1986*, JICA, 1987.
- (11) *The Changing Pattern of Vertical Stratification along an Altitudinal Gradient of the Forests of Mt. Pangrango, West Java*, Kluwer, 1990.
- (12) 「多雨林の世界」高谷好一(編)『東南アジアの自然』(講座・東南アジア学第2巻) 弘文堂, 1990.
- (13) 『東南アジアの熱帯多雨林世界』創文社, 1991.
- (14) 『熱帯雨林を考える』(共編著) 人文書院, 1992.
- (15) 「世界の森林と地球環境」渡部忠世(編著)『現代の農林水産業』放送大学教育振興会, 1993.
- (16) *Vegetation Science in Forestry*, (共編著) Kluwer, 1995.
- (17) 『森と人との対話』(編著) 人文書院,

1996.

- (18) 『フィールドワーク最前線』(編著) 弘文堂, 1996.
- (19) 『事典東南アジア——風土・生態・環境』(編集委員代表, 共編著) 弘文堂, 1997.
- (20) *Tropical Rain Forests of Southeast Asia: A Forest Ecologist's View* (trans. by Peter Hawkes), University of Hawai'i Press, 1997.

田中 耕司

1. 京都大学農学部, 1969.
2. 京都大学農学修士, 1972.
3. 熱帯農学, 熱帯環境利用論
4. (1) 熱帯アジアにおける水田・畑の伝統的作付体系
(2) インドネシア移民の農業適応
5. 1973年, 京都大学農学部助手に採用される。1979年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 1984年助教授, 1998年教授に昇任, 現在に至る。
この間, 1974年ビルマ, アッサム等において野生イネの分布と栽培イネの生態型分化の調査に従事。1979年, インド, スリランカにおいてクロッピングシステム等の比較研究調査を行う。1980~85年にかけて3次にわたり, インドネシアにおいて熱帯島嶼域の人の移動に関わる環境形成過程の研究調査に参加, その後, インドネシアで農業移民の調査, バングラデシュで農村開発調査, インドネシア, マダガスカル, 中国, ベトナム, ラオス等で稲作技術・文化の調査を行う。近年は, 東南アジア海域世界の生業と生活に関する文化生態学的調査を進めている。
6. (1) 「フロンティアとしての開拓空間」矢野暢(編)『東南アジア学の手法』(講座・東南アジア学第1巻) 弘文堂, 1990.
(2) 「プランテーション農業と農民農業」高谷好一(編)『東南アジアの自然』(講座・

- 東南アジア学第2巻) 弘文堂, 1990.
- (3) “A Note on Typology and Evolution of Asian Rice Culture: Toward a Comparative Study of the Historical Development of Rice Culture in Tropical and Temperate Asia,” 『東南アジア研究』 28 (4), 1991.
- (4) 「マレー型稲作とその広がり」 『東南アジア研究』 29 (3), 1991.
- (5) 「東南アジア海域世界と農業フロンティアの拡大——インドネシア南スラウェシ州の事例から」 『東南アジア研究』 30 (4), 1993.
- (6) 「拓かれる生活空間」 矢野暢 (編) 『地域研究のフロンティア』 (講座・現代の地域研究第3巻) 弘文堂, 1993.
- (7) 「フロンティア社会の変容」 矢野暢 (編) 『地域研究と「発展」の論理』 (講座・現代の地域研究第4巻) 弘文堂, 1993.
- (8) “Farmers’ Perceptions of Rice-Growing Techniques in Laos: ‘Primitive’ or ‘Thammasat’?” 『東南アジア研究』 31 (2), 1993.
- (9) 「森と野の狭間——東南アジアの熱帯雨林から」 梅原猛・伊東俊太郎 (監修) 『森の文明・循環の思想』 講談社, 1993.
- (10) 「海域世界と稲作の伝播」 小泉格・田中耕司 (編) 『海と文明』 (講座・文明と環境第10巻) 朝倉書店, 1995.
- (11) 「生活者の『森』と観察者の『森林』」 山田勇 (編) 『森と人との対話』 人文書院, 1995.
- (12) 「アグリノミストからみた『地域』把握の課題」 『農林業問題研究』 124, 1996.
- (13) 「フィールド・ワークから生まれた稲作論」 農耕文化研究振興会 (編) 『稲作空間の生態』 大明堂, 1996.
- (14) “Who Owns the Forest?: The Boundary between Forest and Farmland at the

Frontier of Land Reclamation,” 『東南アジア研究』 34 (4), 1997.

- (15) “Village-Level Studies on Rice-Based Cropping Systems in the Low-Lying Areas of Bangladesh, II. Toposequence, Hydrology, Land Classification and Cropping Patterns in the Barind Tracts, Bogra District,” (共著) *Jap. Jour. Crop Science* 66 (1), 1997.
- (16) “Village-Level Studies on Rice-Based Cropping Systems in the Low-Lying Areas of Bangladesh, III. Expansion of Boro Rice Cultivation under the Chania System and Farmers’ Reaction in the Bogra District of the Barind Tract,” (共著) *Jap. Jour. Crop Science*, 66 (3), 1997.
- (17) “Development of Southeast Asian Rice Culture: An Ecohistorical Overview,” in Y. Oshima, *et al.* (eds.), *Asian Paddy Fields: Their Environmental, Historical, Cultural and Economic Aspects under Various Physical Conditions*, College of Agr., Univ. of Saskatchewan, 1997.
- (18) 「東南アジアの水田利用の集約性——熱帯アジアと日本との比較論に向けて」 (共著) 『環境科学総合研究所年報』 16, 1997.
- (19) 「東南アジアの農業システムとその変動要因」 『国土利用開発研究紀要』 19, 1997.
- (20) 「水田が支えるアジアの生物生産」 『岩波講座 地球環境学 6 生物資源の持続的利用』 岩波書店, 1998.

安藤 和雄

1. 静岡大学農学部, 1978.
2. 京都大学農学博士, 1994.
3. 熱帯農学, 農村生態
4. (1) 熱帯稲作デルタの農業技術と村落社会の

在地性

- (2) アジアにおける農村開発と環境問題
- (3) ベンガルの地域性と東南アジア
5. 1978～81年国際協力青年海外協力隊員としてバングラデシュの農村部において総合的村落開発計画に参加する。1982～83年及び1984～86年にかけて、京都大学大学院熱帯農学専攻並びにバングラデシュ農科大学大学院栽培学専攻の大学院生としてバングラデシュの伝統的稲作技術に関する村落調査研究に従事する。1986～90年及び1994～95年にかけて国際協力事業団長期派遣専門家として、農村開発に関する研究協力プロジェクトに参加する。このプロジェクトにおいて農村開発関連の村落基礎調査、小規模農村開発計画の策定・実施という実践参画型の調査研究に従事した。1996年に東南アジア研究センターに助教として採用され、現在に至る。この他の海外調査研究は、1991年タイ（東北地区）、1992年ベトナム（メコンデルタ）において野生稲と栽培稲に関する生態調査、1997年にミャンマー、バングラデシュで、作付体系、環境問題、農村開発におけるNGOの活動に関する現地調査を行った。
6. (1) 「バングラデシュの農業と社会——ノアカリ県の稲作と稼ぎ」『国際農林業協力』7(1), 1984.
- (2) 「バングラデシュのアウス稲・アマン稲の混播栽培」『農耕の技術』7, 1984.
- (3) 「バングラデシュにおける稲作に関する『格言』・『稲作儀礼』ノート——ノアカリ県シラディ村の稲作調査より」『コッラニ』9, 1984.
- (4) 「ベンガル・デルタ低地部の稲作——バングラデシュ東部地方におけるアウス・散播アマンの混播栽培とパーボイルド米に関するノート」『東南アジア研究』25(1), 1987.
- (5) 「ベンガル・デルタ村落形成史ノート」(共著)『農業史年報』3, 1989.
- (6) “Village-Level Studies on Rice-Based Cropping Systems in the Low-Lying Areas of Bangladesh I. Cropping Patterns and Their Distribution in Haor and Bil Areas,” (共著) *Japanese Journal of Crop Science*, 59(3), 1990.
- (7) 「バングラデシュ・ハオール地域ジャワール村の灌漑稲作と近代の農業変容」(共著)『農業土木学会誌』58(12), 1990.
- (8) 「ベンガルデルタ低地部の作付体系——技術変容と作付体系展開の地域間比較」(共著)『東南アジア研究』28(3), 1990.
- (9) 「ベンガルデルタの村落形成についての覚書」(共著)『東南アジア研究』28(3), 1990.
- (10) 「バングラデシュ・ハオール縁辺地域における乾季稲作と伝統的灌漑技術——ジャワール村における事例研究」(共著)『アジア経済』32(2), 1991.
- (11) “Rice-Cultivation and Land Tenancy System under Shallow Tubewell Irrigation in Barind Tract, Bangladesh: A Case Study in Tetulia Village, Bogra District,” (共著) *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies*, No. 3, 1991.
- (12) 「バングラデシュの低平地における動的水文環境への適応農業」(共著)『農業土木学会誌』60(5), 1992.
- (13) 「伝統稲作農業の特色」(共著) 白田・佐藤・谷口(編)『もっと知りたいバングラデシュ』弘文堂, 1993.
- (14) 「第7章バングラデシュ」『アジア畑作指導マニュアル』全国農業改良普及協会, 1993.
- (15) 「バングラデシュの農村道路建設による水文環境の攪乱」(共著)『農業土木学会誌』62(9), 1994.

- (16) 「マタポール達と在地の農村開発——バングラデシュ、ドッキンチャムリア村におけるアクション・リサーチの記録」(共著)『東南アジア研究』33(1), 1995.
- (17) 「バングラデシュの農村開発の現状と援助」河合明宣(編)『発展途上国産業開発論』放送大学教育振興会, 1995.
- (18) 「バングラデシュの氾濫原における乾季畑作と稲作農業——ジャムナ氾濫原ドッキン・チャムリア村の事例」(共著)『南アジア研究』第9号, 1997.
- (19) 「NGOの発展を支える在地性」斉藤千宏(編)『NGOが変える南アジア』コモンズ, 1998.
- (20) 「農村開発における在村リーダーシップとインフラ整備事業の可能性——バングラデシュ・ドッキンチャムリア村の事例」佐藤寛(編)『開発援助とバングラデシュ』アジア経済研究所, 1998.

社会生態部門

立本 成文

1. 京都大学文学部, 1963.
2. シカゴ大学 Ph. D. (人類学), 1974.
3. 地域研究, 文化人類学, 社会学
4. (1) マレー世界の社会と文化の変容
(2) 社会システムと生活世界
(3) 東南アジア社会におけるネットワーク構造分析
5. 1964年, マラヤ大学マレー学科に留学。1965年初頭にケダー州農村の臨地研究を3カ月行なった後, 同年7月から翌年5月までジョホール州でオラン・フルの民族誌的研究に従事する。1967年から2年間, マラヤ大学において日本学講座の講師。1969年からセンターに奉職。1971年から1年間, マラカ州の農村で主として社会経済的なデータに基づいて, 家族, 世界観の研究を行う。1974年から1975年にかけて南ベトナムのメコン・デルタの農村のリーダーシップの調査。同年11月から翌年3月までインドネシア, 南スラウェシの調査。1977年から1979年にかけてジャカルタの日本大使館に勤務。南スラウェシの調査を1980年から再び開始し, 1984年まで3次にわたって, 主として非ムスリム教徒も住む平地村落で調査を行う。その他, 南アジア, マダガスカル, メラネシア, 中国, ヨーロッパ, カリブ海域でも短期間のサーベイを行う。1989年からジョホール(マレーシア), リンガ(マラカ海峡), サランガニ諸島(ミンダナオ島南)のマレー世界の調査を継続。
6. (1) 「マレー半島におけるジャクンの親族名称」『東南アジア研究』4(5), 1967.
(2) 「マラヤ原住民の経済生活」『アジア経済』10(5), 1969.
(3) “The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
(4) “Family Circle, Community and Nation in Malaysia,” *Current Anthropology*, 16, 1975.
(5) 『マレー農村の研究』(共編著) 創文社, 1976.
(6) 「コミュニティ宗教におけるシンボリズム」『東南アジア研究』14(3), 1976.
(7) 『核家族再考——マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂, 1977.
(8) 「屋敷地共住集団と家族圏」(共著)『東南アジア研究』18(2), 1980.
(9) 「生活環境と社会組織——南スラウェシの山村誌」『東南アジア研究』20(1), 1982.
(10) “A Melakan Farming Village,” in P. Wheatley and K.S. Sandhu (eds.), *Melaka: The Transformation of a Malay Capital c. 1400–1980*, Oxford Universi-

ty Press, 1983.

- (11) 「差異の文化論」石井米雄（編）『差異の事件誌——植民地時代の異文化認識の相克』巖南堂, 1984.
- (12) 「世帯と親族」石井米雄（編）『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.
- (13) 『東南アジアの組織原理』勁草書房, 1989.
- (14) “Household and Religion : The Problem of Identity in a Bugis Community.” 『東南アジア研究』28 (4), 1990.
- (15) 『東南アジアの文化』（編著）弘文堂, 1992.
- (16) “Coping with the Currents of Change : A Frontier Bugis Settlement in Johor, Malaysia,” 『東南アジア研究』32 (2), 1994.
- (17) “Global Area Studies with Special Reference to the Malay or Maritime World,” 『東南アジア研究』33 (3), 1995.
- (18) 『地域研究の問題と方法——社会文化生態力学の試み』京都大学学術出版会, 1996.
- (19) “Symbiotic Dynamics of an Insular Community in the Melaka Strait,” 『地域学研究』11, 1997.
- (20) 「地域研究の構図」『地域研究論集』1 (1), 1997.

五十嵐忠孝

1. 東京大学医学部, 1970.
2. 東京大学保健学修士, 1972.
3. 人類生態学
4. (1) 小人口学
(2) 栄養と生業機構
5. 1975年, 東京大学医学部保健学科助手に採用される。1982年, 群馬大学医学部助教授に昇任, 1984年, 東南アジア研究センターに配置換となり, 現在に至る。
1970～73年, トカラ列島でヒトの個体群

生態学的調査, 1974～75年, 韓国の一農村で人口移動の調査, 1979年以降, インドネシア西ジャワ州のスンダ人村落で小人口学, 栄養と生業機構に関する調査などに従事, 近年比較の観点からバリ島農村社会に調査の比重を移しつつある。

6. (1) “Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society,” in *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980*, Vol. II, Asian Research Service, Hong Kong, 1981.
- (2) 「個人年齢の推定方法に関する若干の覚え書き——西部ジャワ・スンダ人村落での調査から」『東南アジア研究』20 (2), 1982.
- (3) “Seeking the Dates of Birth of Children : An Age-Estimation Method that Combines Dental Age with Indigenously Expressed “Time of Birth” for Use in Priangan, West Java,” in *Proceedings of the Fourth International Symposium on Asian Studies, 1982*, Vol. III, Asian Research Service, Hong Kong, 1983.
- (4) 「漁撈と農耕の比較生態——西部ジャワ・プリアガン地方での調査から」大塚柳太郎（編）『生態人類学』至文堂, 1983.
- (5) “Locality-Finding in Relation to Fishing Activity at Sea,” in Bela Gunda (ed.), *The Fishing Culture of the World : Studies in Ethnology, Cultural Ecology and Folklore*, Akadémiai Kiadó, Budapest, 1984.
- (6) 『インドネシア人類生態学調査集成』（共編）日産科学振興財団, 1984.
- (7) 「西ジャワ・プリアガン高地における水稻耕作——若干の人類生態学的観察」『農耕の技術』7, 1984.

- (8) 「西ジャワ・ブリアガン高地の食糧資源と人口」小石秀夫・鈴木継美（共編）『栄養生態学』恒和出版，1984.
- (9) 「インドネシアの人口，出生，死亡」『医学のあゆみ』132，1985.
- (10) *Human Ecological Survey in Rural West Java in 1978 to 1982: A Project Report*, (共編著) Nissan Science Foundation, Tokyo, 1985.
- (11) “Some Biosocial Variables That May Account for Fertility Patterns in the Sundanese Society,” in *Health Ecological Survey in Indonesia in 1983/84*, Part 1, Department of Public Health, Gunma University, 1985.
- (12) “Biosocial Variables Affecting Sundanese Fertility, West Java,” *Man and Culture in Oceania*, 3, 1987.
- (13) 「農作業・季節・星——西ジャワ・ブリアンガン高地における畑地耕作をめぐる季節性と農作業のタイミング——」『東南アジア研究』25 (1), 1987.
- (14) 「西ジャワ・ブリアンガン地方のスンダ人農民社会における早婚・多産の文化・社会的背景」『東南アジア研究』25 (4), 1988.
- (15) 「ヒト・社会・出生間隔——東南アジアにおける具体像」矢野暢（編）『東南アジア学の手法』（講座・東南アジア学第1巻）弘文堂，1990.
- (16) 「早婚・高出生力・文化——ブリアンガン・スンダ人社会の事例」前田成文（編）『東南アジアの文化』（講座・東南アジア学第5巻）弘文堂，1991.
4. (1) 上座仏教文化圏における宗教と社会の研究
- (2) 東南アジア大陸部民族誌学
5. 1988年国立民族学博物館研究部助手に採用され，1993年京都大学東南アジア研究センター助教授に転任，現在に至る。1981年～83年にかけてタイのチュラーロンコーン大学政治学部人類学科にてタイの村落・宗教研究を行うとともに，東北タイのラオ系農村にて定着調査を実施。1984～85年，1987年はそれぞれ3カ月間タイ東北部，中部地方において調査，1989～90年にかけて，タイ，ビルマ，中国雲南省西双版纳における上座仏教の実践形態にかんする比較調査，1990～92年の各年にそれぞれ2カ月ほどラオス北，南部地方にて民族文化と村落宗教の調査，1993～94年，カンボジアの仏教復興についての調査に従事。
6. (1) 「モータムと『呪術的仏教』——東北タイ・ドンデー村におけるクン・プラタム信仰を中心に」『アジア経済』25 (10), 1984.
- (2) “A Temple, Ritual and World-View in Don Daeng,” in H.Fukui *et al.* (eds.), *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report), CSEAS, Kyoto University, 1985.
- (3) 「葬儀をめぐるブン（功德）と社会関係」『東南アジア研究』23 (3), 1985.
- (4) 「開拓村（ウドンタニ県北モー村）訪問記」『東南アジア研究』23 (3), 1985.
- (5) タイ仏教における女性の宗教的位相についての一考察」『龍谷大学社会学論集』7, 1986.
- (6) 「国教の変容——タイ農村における『森の寺』をめぐる出家行動」『龍谷大学社会学論集』8, 1987.

林 行夫

1. 龍谷大学文学部，1979.
2. 龍谷大学文学修士，1981.
3. 文化人類学，宗教社会学

- (7) 「ラーオ系稲作村における互助規範と功德のシェアの社会的意味——タイ上座部仏教の文化人類学的考察」『ソシオロジ』105, 1989.
- (8) 「ダルマの力と帰依者たち——東北タイにおける仏教とモータム」『国立民族学博物館研究報告』14 (1), 1989.
- (9) 「村落宗教の構造と変容」口羽益生 (編) 『ドンデン村の伝統構造とその変容』創文社, 1990.
- (10) 「『王』・功德・開発——現代タイ王権と仏教」松原正毅 (編) 『王権の位相』弘文堂, 1991.
- (11) 「内なる実践へ——上座部仏教の論理と世俗の現在」前田成文 (編) 『東南アジアの文化』(講座・東南アジア学第5巻) 弘文堂, 1991.
- (12) 「仏教儀礼の民族誌」石井米雄 (編) 『講座 仏教の受容と変容2・東南アジア編』佼成出版社, 1991.
- (13) 「ラオ人社会の変容と新仏教運動——東北タイ農村のタマカーイをめぐる」田辺繁治 (編) 『実践宗教の人類学——上座部仏教の世界』京都大学学術出版会, 1993.
- (14) 「森林の変容と生成——東北タイにおける宗教表象の社会史試論」佐々木高明 (編) 『農耕の技術と文化』集英社, 1993.
- (15) “Notes on the Inter-ethnic Relation in History: With Special Reference to Mon-Khmer Peoples in Southern Laos,” in Surat Worangrat (ed.), *Chonklum Chattiphon nai aeng Sakon Nakhon*, Sathaban Ratchaphat Sakon Nakhon, 1995.
- (16) 「仏教の多義性——戒律の救いの行方」青木保 (編) 『宗教の現代』(岩波講座 文化人類学第11巻) 岩波書店, 1997.
- (17) 「もうひとつの『森』——ラオ人とモン＝クメール系諸語族の森林観から」『東南ア

ジア研究』35 (3), 1997.

- (18) 「カンボジアにおける仏教実践——担い手と寺院の復興」大橋久利 (編) 『カンボジア——社会と文化のダイナミクス』古今書院, 1998.
- (19) 「『ラオ』の所在」『東南アジア研究』35 (4), 1998.
- (20) “Differentiation and Involution of Ethno-Regional Lao Identity in North-east Thailand and Lao P. D. R.,” in Hayashi, Y. (ed.), *Inter-Ethnic Relations in the Making of Mainland Southeast Asia Vol. 1*, Bangkok: CSEAS, Kyoto University Bangkok Office, 1998.

石川 登

1. 東京都立大学人文学部, 1985.
2. ニューヨーク市立大学 Ph. D., 1998.
3. マレーシア・インドネシア地域研究, 社会人類学
4. 社会動態論
5. ニューヨーク大学, ニューヨーク市立大学クィーンズ・カレッジ講師を経て1994年12月よりセンターに助手として採用され現在に至る。主に東マレーシア, サラワク州およびインドネシア, 西カリマンタン州にて現地調査を行っている。
6. (1) 「親族組織」(共著) 『南伊豆落居集落の民俗誌』『社』11 (4), 1982.
(2) 「男子割礼をめぐる諸解釈——検討と批判」松園万亀雄・宮田登 (共編) 『文化人類学』3 (1), 1987.
(3) 「ボルネオにおける非単系出自論の展望」(東京都立大学大学院社会科学研究所社会人類学修士論文), 1989.
(4) 「シドニー W. ミンツ著『甘さと権力——砂糖が語る近代史』」『民族学研究』54 (4), 1990.
(5) 「ボルネオにおける非単系出自論の可能

- 性』『社会人類学年報』16, 1990.
- (6) 「理論と民族誌——『高地ビルマ』をめぐる人類学小史 1954-1982』『民族学研究』57 (1), 1992.
- (7) 「農民と往復切符——循環的労働移動とコミュニティ研究の前線』『民族学研究』58 (1), 1993.
- (8) 「境界の社会史——ボルネオ西部国境地帯とゴム・ブーム (特集:「ポリティカル・エコノミーと民族誌)』『民族学研究』61 (4), 1997.
- (9) 「民族の語り方——サラワク・マレー人とは誰か」青木 保・内堀基光他 (編)『民族の生成と論理』(岩波講座 文化人類学 第5巻) 岩波書店, 1997.
- (10) "Between Frontiers: The Formation and Marginalization of a Border Malay Community in Southwestern Sarawak, Malaysia 1870s-1990s," Ph. D. Dissertation, The City University of New York, 1998.
- (11) "A Benevolent Protector or a Failed Exploiter?: Local Response to Agro-economic Policies under the Second White Rajah, Charles Brooke (1868-1917) of Sarawak," in Shamsul A. B. and T. Uesugi (eds.), *Japanese Anthropologists, Malaysian Society: Contribution to Malaysian Ethnography*, Senri Ethnological Studies 48, National Museum of Ethnology, 1998.
- (12) "The Social History of Coconuts in Sematan, Southwestern Sarawak," *AZAM Journal*, Sarawak Development Institute, Kuching, (forthcoming).
- (13) "On Peripheral Peasantry: A Historical Analysis of a Coastal Malay Community in Southwestern Sarawak, Malaysia," in T. Kato (ed.), *Studies on the Dy-*

namics of the Frontier World of Indonesian Kalimantan, CSEAS, Kyoto University, (forthcoming).

統合環境部門

白石 隆

1. 東京大学教養学部教養学科 (国際関係論), 1972.
2. コーネル大学哲学博士 (Ph. D.), 1986.
3. 歴史学, 比較政治学
4. 東南アジア政治・政治学
5. 1975年, 東京大学東洋文化研究所助手, 1979年, 東京大学教養学部 (国際関係論) 助教授, 1987年, コーネル大学助教授 (歴史・アジア研究), 1990年, 同准教授, 1996年, 同教授, 1996年, 京都大学東南アジア研究センター教授。
6. (1) 「上からの国家建設——タイ, インドネシア, フィリピン」『国際政治』第84号, 1987.
- (2) *An Age in Motion: Popular Radicalism in Java, 1912-1926*, Cornell University Press, 1990.
- (3) "Dangir's Testimony: Saminism Reconsidered," *Indonesia*, No. 50, 1990.
- (4) *Reading Southeast Asia*, (編) Cornell Southeast Asia Program, 1990.
- (5) 『インドネシア——国家と政治』リポート, 1992.
- (6) 「インドネシアの国家建設——スハルト体制下における技術・戦略産業育成」『東南アジア世界の歴史的位相』東京大学出版会, 1992.
- (7) "Current Data on the Indonesian Military Elite," (共著) *Indonesia*, No. 55, 1993.
- (8) *Japanese in Colonial Southeast Asia*, (共編) Cornell Southeast Asia Program, 1993.

- (9) “Current Data on the Indonesian Military Elite, January 1992–August 31, 1993,” (共著) *Indonesia*, No. 56, 1993.
- (10) “Current Data on the Indonesian Military Elite, September 1, 1993–August 31, 1994,” (共著) *Indonesia*, No. 58, 1994.
- (11) 「開発国家の政治文化——インドネシア新秩序を考える」『講座現代アジア 1. ナショナリズムと国民国家』東京大学出版会, 1994.
- (12) *Approaching Suharto's Indonesia from the Margins*, (編) Cornell Southeast Asia Program, 1995.
- (13) “Current Data on the Indonesian Military Elite: Selected Biographies,” (共著) *Indonesia*, No. 59, 1996.
- (14) 『最後の波』のあとに——二十世紀ナショナリズムのさらなる冒険『民族・国家・エスニシティ』(岩波講座 現代社会学) 岩波書店, 1996.
- (15) 『新版インドネシア』(ネットワークの社会科学 2) NTT 出版, 1996.
- (16) “The Phantom World of Digoel,” *Indonesia*, No. 61, 1996.
- (17) 「インドネシアの近代における『わたし』——カルティニの ik とスワルディの saya」『東南アジア研究』34 (1), 1996.
- (18) “Policing the Phantom Underground,” *Indonesia*, No. 63, 1997.
- (19) 『スカルノとスハルト——偉大なるインドネシアをめざして』岩波書店, 1997.
- (20) *Network Power: Japan and Asia*, (共編著) Cornell University Press, 1997.
- (2) 地域システム
- (3) ポスト国家の時代における宗主権と主権
- (4) 海洋アジア
5. 1979 年, 一橋大学経済学部専任講師, 1981 年, 一橋大学経済学部助教授, 1982 年, 東京大学東洋文化研究所助教授, 1988 年, 東京大学東洋文化研究所教授。東南アジア華人と中国華南との歴史的な結びつきを, シンガポールと香港に焦点を当てて調査を行い, タイ・マレーシアを中心として, ヤンゴン・ジャカルタの調査を加え, 華僑送金のメカニズムと, 華南・東南アジア間の商業ネットワークを研究してきた。香港においては, 貿易・貿易金融の検討に加え 19 世紀後半の土地改革, 商業組織, 外国銀行, 地域組織などを調査している。1997 年の返還後の変化にも注目した研究を行っている。
6. (1) 『中国近代経済史研究——清末海関財政と開国場市場圏』東文研研究報告, 1989.
- (2) 『近代中国の国際的契機』東京大学出版会, 1990.
- (3) 『アジア交易圏と日本工業化 1500–1900』(共編著) リプロポート, 1991.
- (4) 「朝貢と条約」溝口雄三他(編)『アジアから考える』3, 東京大学出版会, 1994.
- (5) 「近代東アジア国際体系」平野健一郎(編)『講座現代アジア』4, 東京大学出版会, 1994.
- (6) “Overseas Chinese Remittance and Asian Banking History,” in O. Checkland (ed.), *Pacific Banking, 1859–1959*, St. Martin's Press, New York, 1994.
- (7) “The Tribute Trade System and Modern Asia,” in A. J. H. Latham (ed.), *Japanese Industrialization and the Asian Economy*, Routledge, London, 1994.
- (8) 「海のアジア史」『大航海』2, 1995.
- (9) 「海と国家」『へるめす』55, 1995.
- (10) 「環シナ海域の観点から」川勝平太(編)

濱下 武志 (併任)

1. 東京大学文学部, 1972.
2. 東京大学文学修士, 1974.
3. アジア地域研究
4. (1) 華僑・華人のネットワーク

『海から見た歴史』藤原書店, 1996.

- (1) 『香港』筑摩書房, 1996.
- (2) 『朝貢システムと近代アジア』岩波書店, 1997.
- (3) 「歴史研究と地域研究」『地域の世界史1——地域史とは何か』山川出版, 1997.
- (4) “The Intra-regional System in East Asia in Modern Times,” in P.J. Katzenstein and T. Shiraishi (eds.), *Network Power: Japan and Asia*, Cornell University Press, Ithaca and London, 1997.

西村 重夫

1. 広島大学教育学部, 1974.
2. 広島大学教育学修士, 1978.
3. 比較教育学
4. (1) インドネシアとマレーシアの国民統合と教育
(2) 東南アジアのイスラーム教育
5. 1976～77年, インドネシア・バンドゥン教育大学に留学。1979年, 美作女子大学短期大学部講師。1982年, 美作女子大学講師。1983年, 同大学助教授。1984年, 九州大学教育学部附属比較教育文化研究施設講師。1988年, 同研究施設助教授。1992年, 東南アジア研究センター助教授に配置転換になり, 現在に至る。1986～87年, バンドゥンにおいてパンチャシラ道德教育の研究, 1989年, インドネシアとマレーシアにおいてイスラーム教育に関する比較研究, 1991年, 1993年, 1994年, 1995年, 1997年, カリマンタンにおいて国民統合と教育に関する研究などに従事。
6. (1) 「インドネシアにおける教育目的の変遷に関する一考察」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』28, 1983.
(2) 「インドネシアの独立戦争期における教育政策の成立過程」『九州大学比較教育文

化研究施設紀要』36, 1985.

- (3) 「パンチャシラ道德教育の成立と発展」『日本比較教育学会紀要』12, 1986.
- (4) 「パンチャシラ道德教育の構造」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』37, 1986.
- (5) 「パンチャシラ道德教育の諸相」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』38, 1987.
- (6) 「インドネシアの教育における伝統と革新」権藤与志夫・弘中和彦(編)『アジアの文化と教育』九州大学出版会, 1987.
- (7) 「パンチャシラ道德教育の方法論」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』39, 1988.
- (8) “Perbandingan Pendidikan Moral di Indonesia dan Jepang,” *Mimbar Pendidikan*, 8 (3), 1989.
- (9) 「インドネシアにおけるイスラーム教育の構造——小学校用教科書の内容分析を中心として」『九州大学教育学部紀要(教育学部門)』34, 1989.
- (10) 「マレーシアにおけるイスラーム教育の構造——小学校用教科書の内容分析を中心として」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』40, 1989.
- (11) 「国民教育の発展戦略」馬越徹(編)『現代アジアの教育』東信堂, 1989.
- (12) 「インドネシア——多様性の中の統一をめざす教育」馬越徹(編)『現代アジアの教育』東信堂, 1989.
- (13) 「国民教育——パンチャシラ道德教育への展開をめくって」土屋健治(編)『東南アジアの思想』(講座・東南アジア学第6巻)弘文堂, 1990.
- (14) 「インドネシア人の留学」権藤与志夫(編)『世界の留学』東信堂, 1991.
- (15) 「インドネシアにおける国民教育制度改革の構図」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』42, 1991.
- (16) 「カリマンタン(ボルネオ)にみる国民統合の教育」『東洋大学アジア・アフリカ

- 文化研究所研究年報』26, 1991.
- (17) 「日本占領期インドネシアの地方教育」『国立教育研究所紀要』121, 1992.
- (18) 「国民統合と教育——マレーシア・サバ州・N小学校の変容をめぐる」『東南アジア研究』31 (4), 1994.
- (19) “The Development of Pancasila Moral Education in Indonesia,”『東南アジア研究』33 (3), 1995.
- (20) 「タマンシスワ教育理念の連続性と不連続性」『東南アジア研究』34 (1), 1996.

地域発展部門

吉原久仁夫

1. カリフォルニア大学 (パークレー校), 1966.
2. カリフォルニア大学 Ph.D. (経済学), 1966.
3. 経済学
4. 文化, 制度, 経済成長
5. ミシガン大学経済学部助教授 (1966 ~ 69年) を経て, 1969年, 東南アジア研究センター助手として着任, 1971年, 同助教授, 1987年, 同教授に昇任, 現在に至る。
この間, 1970 ~ 71年, 1981 ~ 82年, および1992年フィリピン大学経済学部, 1973 ~ 74年, シンガポール大学経済学部, 1976 ~ 77年, スタンフォード大学経済学部, 1982 ~ 83年タマサート大学経済学部, 1987年マラヤ大学経済学部, および1993年ベトナム社会科学院世界経済研究所で客員教授として経済発展論を講義する。
6. (1) “Demand Functions : An Application to the Japanese Expenditure Pattern,” *Econometrica*, 37 (2), 1969.
- (2) “Long-term Models of the Japanese Economy,”『季刊理論経済学』20 (3), 1969.
- (3) “The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index,” (共著) *Journal of the American Statistical Association*, 66 (333), 1971.
- (4) “Productivity Change in the Japanese Economy, 1905 – 65,” (共著)『季刊理論経済学』23 (1), 1972.
- (5) 「シンガポールの工業化と米系企業」『東南アジア研究』12 (4), 1975.
- (6) 「シンガポールの工業化における外資系企業と民族系企業」『東南アジア研究』13 (2), 1975.
- (7) *Foreign Investment and Domestic Response : A Study of Singapore’s Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.
- (8) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, 1978.
- (9) *Sogo Shosha : The Vanguard of the Japanese Economy*, Oxford University Press, Tokyo, 1982. (インドネシア語, ベトナム語, マレーシア語に翻訳出版)
- (10) “Business Groups in Thailand,” (共著) Research Notes and Discussion Paper No.41, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore, 1983.
- (11) *Philippine Industrialization : Foreign and Domestic Capital*, Oxford University Press, Singapore, 1985.
- (12) *The Rise of Ersatz Capitalism in Southeast Asia*, Oxford University Press, Singapore, 1988. (インドネシア語, タイ語, マレーシア語に翻訳出版)
- (13) *Oei Tiong Ham Concern : The First Business Empire in Southeast Asia*, (編) CSEAS, 1989. (インドネシア語, 中国語に翻訳出版)
- (14) *Thai Perceptions of Japanese Modernization*, (編) Kuala Lumpur, Falcon

Press, 1989.

- (15) “Thailand : Industrialization without Development,” (共著) *East Asian Cultural Studies*, 28 (March), 1989.
- (16) *Japan in Thailand*, (編) Kuala Lumpur, Falcon Press, 1989.
- (17) 『東南アジアの経済』(講座・東南アジア学第8巻)(編著) 弘文堂, 1991.
- (18) *Japanese Economic Development: A Short Introduction*, 3rd ed., Oxford University Press, Tokyo, 1994. (インドネシア語, タイ語, ラオス語, ベトナム語, タガログ語, 中国語に翻訳出版)
- (19) *The Nation and Economic Growth: the Philippines and Thailand*, Oxford University Press, Singapore, 1994. (タイ語に翻訳出版)
- (20) *The Nation and Economic Growth: Korea and Thailand*, 京都大学学術出版会, 1999.

海田 能宏

1. 京都大学農学部, 1962.
2. 京都大学農学博士, 1970.
3. 農村開発論, 熱帯農業水文学
4. (1) アジア農村開発論
(2) 農業発展の水文環境的基盤——風土の工学
5. 1967年, 京都大学助手(農学部)に採用され, 1969年, 東南アジア研究センターへ配置換え。1974年から77年まで, メコン委員会に兼任勤務。1974年, 東南アジア研究センター助教授, 1984年, 同教授に昇任。同年から農学研究科の熱帯農業専攻の協力講座担当教授, さらに1993年から人間・環境学研究科, 1998年からアジア・アフリカ地域研究研究科の協力講座担当教授を兼任。
はじめは畑地灌漑の研究から入り, 1969年以來, 熱帯の水文, 水利, 農業生態の研究

を始め, 東南アジアを中心に, インド, 南中国を含む広い地域の臨地研究を経験した(業績欄の(1)から(5)まではこの時期の作品)。1981年から東北タイのドンデー村の総合的研究に参加し(業績6), 以来, 農村開発研究に関心を広げ, 1986年からはバングラデシュ農村開発研究を組織し, 総合的・学際的な農村研究から, 農村開発の実践的研究へ, 個人的にはさらに農村開発政策論へと, ノーマティブな方向へ研究の幅を広げてきた(業績8, 9, 12, 16, 17, 20など)。

最近, これまでの臨地研究や農村定着研究で得たデータや培ってきた経験を生かして, 風土の工学やEcotechnologyという概念を設定して技術論を展開している(業績7, 10, 14, 15, 19など)。さらに, Asian Ecotechnology Networkによって日本・東南アジア・インド・乾燥アジアの生態知識を交流させるプロジェクトを立ち上げようとしている。

6. (1) “Pioneer Settlements and Water Control Development on the West Bank of the Lower Chao Phraya Delta,” 『東南アジア研究』11(4), 1974.
- (2) 「デルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」『東南アジア研究』13(1), 1975.
- (3) “Agro-Hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta,” in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, 1976.
- (4) “Effect of Mekong Mainstream Flood Regulation on Hydrology and Agriculture in the Cambodian Lowland,” 『東南アジア研究』16(4), 1979.
- (5) 「メコンをデザインする」松田松二(編) 『自然とむすぶ文化』共立出版, 1980.
- (6) 「東北タイ・ドンデー村——村のたたずまい」(共著)「東北タイ・ドンデー村——稲作の不安定性」(共著)『東南アジア

- 研究』23 (3), 1985.
- (7) 「水文と水利の生態」渡部忠世・福井捷朗 (共編) 『稲のアジア史第1巻』小学館, 1987.
- (8) *Agricultural and Rural Development in Bangladesh: Key Questions and Issues from Village-Based Studies, 1986-1989*. JSARD Publication No. 20. (共編著) JICA, Dhaka, 1990.
- (9) 特集「バングラデシュの農業と農村——農村発展のための共同研究」(編著) 『東南アジア研究』28 (3), 1990.
- (10) 「稲作と水利」高谷好一 (編) 『東南アジアの自然』(講座・東南アジア学第2巻) 弘文堂, 1990.
- (11) “Tropical Hydrology Simulation Model 1 for Watershed Management (1) Model Building, (2) Model Application, (3) Using the Model for Landuse Management,” (共著) 『水文・水資源学会誌』4 (2), (3), (4), 1991.
- (12) 「農村開発研究——バングラデシュの農村発展のための共同研究」『国際協力研究』7 (2), 1991.
- (13) 「問題群としての地域」矢野暢 (編) 『地域研究の手法』(講座・現代の地域研究第1巻), 「貧しさから豊かさへ」矢野暢 (編) 『地域研究と発展の論理』(講座・現代の地域研究第4巻) 弘文堂, 1993.
- (14) 「北インドの灌漑発展における外来技術と在地技術」(共著) 『農業土木研究』62 (2), 1994.
- (15) 「風土の工学」日本大学国際地域研究所 (編) 『東南アジアの自然・技術・農民』龍溪書舎, 1994.
- (16) 特集「バングラデシュ農村開発研究」(編著) 『東南アジア研究』33 (1), 1995.
- (17) *Final Report on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Pro-*

ject, (共編著) BARD & JICA Bangladesh, 1996.

- (18) 『事典東南アジア——風土・生態・環境』(編集委員代表, 共編著) 弘文堂, 1997.
- (19) “Fudo Engineering for Sustainable Agricultural and Rural Development,” in *Green Productivity, In Pursuit of Better Quality of Life*, Asian Productivity Organization, 1997.
- (20) 「バングラデシュ農村開発実験を終えて——とくに関わりの作法ということについて」『国際農林業協力』20 (10), 1998.

阿部 茂行

1. 大阪大学経済学部, 1970.
2. ハワイ大学 Ph. D. (経済学), 1977.
3. 経済学
4. 東南アジアの経済発展 (とくに貿易・投資の役割について)
5. 1977年, 国連 ESCAP 経済担当官, 1980年京都産業大学経済学部講師, 1981年同助教授, 1987年同教授, 1991年神戸大学経済経営研究所教授, 1998年東南アジア研究センター教授。
6. (1) “The Demand for Money in Pakistan: Some Alternative Estimates,” (共著) *The Pakistan Development Review* (summer), 1975.
- (2) “Optimum Interest Rate for a Country under a Floating Exchange Rate System,” 博士論文, 1977.
- (3) “Financial Liberalization and Domestic Saving in Economic Development: An Empirical Test for Six Countries,” (共著) *The Pakistan Development Review* (autumn), 1977.
- (4) “Industrialization and Employment: Overview and Prospect of ASEAN Countries,” in P.M. Hauser, D. Suits

- and N. Ogawa (eds.), *Urbanization and Migration in ASEAN Development*, University of Hawaii Press, 1985.
- (5) “A CGE Analysis of Income Distribution: The Case of Malaysian Economy,” *Asian Economic Journal*, 1 (2), 1988.
- (6) “Competitiveness and Exchange Rate Adjustments in Korea,” *Development & South-South Cooperation*, 5 (9), 1989.
- (7) “Industrial Relations and Their Evolution in Japan,” in Chung-hoon Lee and Fun-koo Park (eds.), *Emerging Labor Issues in Developing Asia*, KDI Press, 1991.
- (8) “Development Assistance,” (共著) in K. Abe, W. Gunter and H. See (eds.), *Economic, Industrial and Managerial Coordination between Japan and the USA*, Macmillan, 1992.
- (9) 「アジアの中の南と北——援助より投資を」『アステイオン』TBSブリタニカ, 1992. (英語版とフランス語版の Japan Echo に翻訳の上, 再録)
- (10) “Malaysia Model II,” in Ichimura and Matsumoto (eds.), *Econometric Models of Asian-Pacific Countries*, Springer-Verlag, 1993.
- (11) 「国際競争力からみた為替レート——韓国と台湾のケース」高木保興・猪木武徳 (編)『発展途上国と日本』同文館, 1993.
- (12) “South Asia and Japan: Prospects for Future Cooperation,” (共著) in S. P. Gupta, William E. James, and Robert K. McCleery (eds.), *South Asia as a Dynamic Partner*, MacMillan India Ltd., 1994.
- (13) 「日本の対 ASEAN 直接投資と ASEAN との産業内貿易の発展」石垣健一・永谷敬三 (編著)『環太平洋経済の発展と日本』勁草書房, 1995
- (14) 「まぼろしのアジア経済をめぐって」『国民経済雑誌』174 (3), 1996.
- (15) “Prospects for Asian Economic Integration,” in S. Nishijima and P. H. Smith (eds.), *Cooperation or Rivalry?*, Westview, 1996.
- (16) “Japan and ASEAN: Trade and Investment Relations in a Changing Global Economic Environment,” *Kobe Economic & Business Review*, No. 42, 1997.
- (17) “Preparing the Way for Development Cooperation in APEC: Jumping the Aid Administration and Policy Hurdles,” (共著) in Andrew Elek (ed.), *Building an Asia-Pacific Community: Development Cooperation within APEC*, The Foundation for Development Cooperation, 1997.
- (18) *Japan: Why It Works, Why It Doesn't*, (共編著) University of Hawai'i Press, 1997.
- (19) 『アジア経済研究』研究叢書 48, 神戸大学経済経営研究所, 1998.
- (20) 「日本の海外直接投資・貿易と環境についての一考察」『国民経済雑誌』176 (7), 1998.

水野 廣祐

1. 京都大学経済学部, 1978.
2. 京都大学農学博士, 1994.
3. 経済発展論, 農業経済学, 労働経済学
4. (1) インドネシア, 特に西ジャワにおける農村工業化と農村内非農業部門の発展
(2) インドネシアにおける中小零細企業の発展
(3) インドネシアにおける土地制度の展開
(4) インドネシアにおける労使関係と労働市場
(5) インドネシア経済論

5. アジア経済研究所研究員（1978～96）を経て、1996年東南アジア研究センターに助教授として着任、現在に至る。

1984～86年にポゴール農業大学開発研究センター客員研究員として、インドネシアにおける中小零細企業の発展と農村内非農業部門に関する調査研究を行う。1989～92年にバンドゥン工業大学環境研究センターにおいて、西ジャワ農村における非農業部門研究プロジェクトに参加し建材産業の調査を行う。1990年には、ガジャマダ大学農村地域開発研究センターにおける中部ジャワ農村経済の系譜的分析プロジェクトに参加し、農家経済調査を行う。1994年および1997年に、バンドゥン工業大学大学院開発研究科において客員講師として経済発展論等を講義。1995年大阪市立大学経済学部客員教授、1996～97年にジャカルタ連絡事務所駐在。

6. (1) 「1970年代後半におけるインドネシア土地紛争とその特質」滝川 勉（編）『東南アジア農村の低所得階層』アジア経済研究所、1982。
- (2) 「ジャワ農村の人口扶養力と都市化——インドネシア」柴田徳衛・加納弘勝（編）『第三世界の都市化と人口移動』アジア経済研究所、1983。
- (3) 『インドネシアの経済』（共訳）、テー・キアン・ウィー（編）、めこん、1984。
- (4) 「インドネシアの土地所有権と1960年農地基本法——インドネシアの土地制度とその問題点」『国際農林業協力』10（4）、1988。
- (5) 「インドネシアにおける稲作農業の展開と商業化のパターン——西ジャワの北部平野部とプリアンガン高地を中心に」梅原弘光（編）『東南アジア農業の商業化』アジア経済研究所、1989。
- (6) “Perspektif Peranan Industri Bahan Bangunan dalam Industrialisasi Pedes-

aan,” in Sayogyo, M. Tambunan (ed.), *Industrialisasi Pedesaan, Dilengkapi Dengan Memorandum Bersama Tentang Industrialisasi Pedesaan*, Pusat Studi Pembangunan, Institut Pertanian Bogor, Ikatan Sarjana Ekonomi Indonesia, 1990.

- (7) 「西ジャワ農村における土地所有権の確認書類保有状況」梅原弘光（編）『東南アジアの土地制度と農業変化』アジア経済研究所、1991。
- (8) “Off-Farm Sector on Rural Java in Changes of Indonesian Economy: The Case of Community-Based Industry’s Development,” in T. Iwasaki, *et al.* (eds.), *Development Strategies for the 21st Century*, Institute of Developing Economies, 1992。
- (9) 「規制緩和政策下のインドネシアにおける労働問題と労働行政——1980年代後半のフォーマルセクターを中心に」『アジア経済』33（5）、1992。
- (10) 「インドネシアにおける農村出身女子労働者保護問題——急成長輸出産業と中東への労働力輸出」『アジア経済』33（6）、1992。
- (11) 『東南アジア農村階層の変動』（共編著）アジア経済研究所、1993。
- (12) 「西ジャワ農村における労働力移動と農村諸階層——プリアンガン高地の農村工業村の事例」『アジア研究』39（3）、1993。
- (13) 「インドネシア農村におけるプリブミ資本織布小工業の展開——西ジャワ・マジャラヤ地方の産地における小営業」『東南アジア研究』31（3）、1993。
- (14) 『中部ジャワ農村の経済変容——チョマル郡の85年』（共著）東京大学出版会、1994。
- (15) 『東南アジア農村の就業構造』（編著）アジア経済研究所、1995。
- (16) 「労働力政策と雇用問題の展開」安中章夫・三平則夫（編）『現代インドネシアの

政治と経済——スハルト政権の30年』アジア経済研究所, 1995.

- (17) “Perubahan Sektor Ekonomi Nonpertanian dan Perpindahan Tenaga Kerja di Desa Karang Tengah dan Desa Pesantren,” in H. Kano, F. Husken and Dj. Surjo (eds.), *Di Bawah Asap Pabrik Gula, Masyarakat Desa Di Pesisir Jawa Sepanjang Abad Ke-20*, AKATIGA & Gadjah Mada University Press, 1996.
- (18) *Rural Industrialization in Indonesia: A Case Study of Community-Based Weaving Industry in West Java*, Institute of Developing Economies, 1996.
- (19) 『東南アジアの経済開発と土地制度』(共編著) アジア経済研究所, 1997.
- (20) 『インドネシアの地場産業——西ジャワ織布産産地の土地・資本・労働』京都大学学術出版会, (近刊).

藤田 幸一

1. 東京大学農学部, 1982.
2. 東京大学農学博士, 1992.
3. 農業経済学
4. (1) 熱帯アジアの灌漑と農業・農村発展
(2) 熱帯アジアの農村組織と金融
5. 1986年, 農林水産省農業総合研究所研究員。1995年同研究所主任研究官。1995年, 東京大学助教授。1998年, 京都大学東南アジア研究センター助教授。1992~94年, バングラデシュでJICAプロジェクト「農村開発実験に関する共同研究」にJICA長期派遣専門家として参加。バングラデシュなど南アジア諸国, インドネシア及びアフリカの農業・農村発展の社会経済学的研究に従事, 現在に至る。
6. (1) 『バングラデシュ農業発展論序説——技術選択に及ぼす農業構造の影響を中心に』農業総合研究所, 1993.

- (2) 「バングラデシュにおける農業発展——農業構造と技術変化の関連を中心に」『アジア経済』27(12), 1986.
- (3) 「バングラデシュ農村における雇用問題——農業技術変化の雇用吸収効果を中心にして」『農業総合研究』42(1), 1988.
- (4) 「マダガスカルにおける稲作の不振と政策対応」『農業総合研究』42(1), 1988.
- (5) 「ザンビアにおける経済危機と農業の価格・流通政策」『農業総合研究』42(1), 1988.
- (6) 「アフリカの食料問題と米——社会経済学的視点から」『国際農林業協力』11(4), 1989.
- (7) 「灌漑開発と制度的諸問題」佐藤 宏(編)『バングラデシュ——低開発の政治構造』アジア経済研究所, 1990.
- (8) 「農村土地なし貧困層への制度的金融——バングラデシュ・グラミン銀行」『アジア経済』31(6;7), 1990.
- (9) 「ジャワ農村における農業労働慣行に関する一考察——西部ジャワ州天水田地域の農村調査から」『農業総合研究』44(3), 1990.
- (10) “Employment Structure and Income Generation,” in Kawagoe, T. (ed.), *Role of the Secondary Crops in Employment Generation: A Study in a Rainfed Lowland Village*, CGPRT Centre and BORIF, 1991.
- (11) “Toward a Long-term Strategy for Income Generation: Rural Institution and Resource Mobilization,” in *Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project*, JICA, 1994.
- (12) 「『緑の革命』と所得分配——バングラデシュの灌漑水市場の経済分析を通じて」『農業経済研究』66(4), 1995.

- (13) 「村落公共機能の強化をめざして——バングラデシュ農村開発の新戦略」『東南アジア研究』33 (1), 1995.
- (14) 「バングラデシュ農村非制度金融の新動向——階層間金融フローの『逆転』をめぐって」『農業総合研究』49 (3), 1995.
- (15) “Role of the Groundwater Market in Agricultural Development and Income Distribution: A Case Study in a North-west Bangladesh Village,” (共著) *Developing Economies*, 33 (4), 1995.
- (16) 「農業開発」『経済協力計画策定のための基礎調査——インド』国際開発センター, 1995.
- (17) 「農業」『経済協力計画策定のための基礎調査——パキスタン』国際開発センター, 1996.
- (18) 「小規模インフラ事業にみる行政と村落——バングラデシュにおける事例研究」(共著) 山本裕美 (編) 『経済改革下のアジア農業と経済発展』アジア経済研究所, 1998.
- (19) 「農村開発におけるマイクロ・クレジットと小規模インフラ整備」佐藤 寛 (編) 『開発援助とバングラデシュ』アジア経済研究所, 1998.

人間環境部門

福井 捷朗

1. 京都大学農学部, 1961.
2. 京都大学農学博士, 1974.
3. 農業生態
4. 東北タイ, コーラート高原の農業生態
5. 1964～69年, タイ国カセサート大学及び農務省米穀局にて稲作を研究。1967年, 京都大学東南アジア研究センター助手に採用される。1969年同農学部助手, 1974年同東南アジア研究センター助手。1975年同助教授,

1987年同教授に昇任, 現在に至る。

1972年タイ及びジャワ, 1974年メコンデルタ, 1976年イラワディデルタ及びサラワク, 1977年西マレーシア, 1979年スマトラ及びルソン島, 1979年, 1980年タイにおいて, それぞれ数カ月の現地調査に従事する。1975年, オランダ農科大学にて研究。1981～82年及び1983年, 東北タイ村落定着調査に従事する。1989～92年, 東北タイ・ヤソトン県の総合的調査。1995年以来, 東南アジアの6つの相対的乾燥地の社会, すなわち, ピュー・バガン, ドゥヴァラヴァティ, アンコール, チャム, ジャワ, シンハラの盛衰の生態史研究を推進中。

6. (1) “Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of High Yielding Varieties of Rice: A Case Study of the Chao Phraya River Basin,” 『東南アジア研究』9 (3), 1971.
- (2) 「気候変動と湿潤熱帯の農業」『科学』49 (3), 1979.
- (3) “Climatic Variability and Agriculture in Tropical Moist Regions,” in *Proceedings of The World Climate Conference, Geneva, February 1979*, World Meteorological Organization, 1980. (WMO-No. 537)
- (4) “Variability of Rice Production in Tropical Asia,” in *Drought Resistance in Crops with Emphasis on Rice*, International Rice Research Institute, Los Baños, 1982.
- (5) 「東南アジア低湿地の土地利用」『東南アジア研究』21 (4), 1984.
- (6) 「エコロジーと技術——適応のかたち」渡部忠世 (編) 『稲のアジア史』第1巻 『アジア稲作文化の生態基盤』小学館, 1987.
- (7) 『ドンデーン村——東北タイの農業生態』

創文社, 1988.

- (8) 『『火耕水耨』再考』『史林』76 (3), 1993. (渡部忠世監修, 農耕文化振興会編『農耕空間の多様と選択』に再録, 大明堂, 1995)
- (9) *Food and Population Balance in a Northeast Thai Village*, University of Hawaii Press, 1993. (Translated by P. Hawkes)
- (10) 「タイ国コラート高原の農業の展開過程」久馬一剛, 祖田修 (編著)『農業と環境』富民協会, 1995.
- (11) "Expansion of Arable Land and Its Cessation: The Case of Northeast Thailand,"『東南アジア研究』33 (4), 1996.

吉田彌太郎

1. 京都大学医学部, 1960.
2. 京都大学医学博士, 1968.
3. 内科学, 血液・免疫・感染症
4. 東南アジアにおける健康・疾病と環境連環
5. 1968～71年, マクギル大学医学部研究員, 1971～74年, 関西電力病院, 1974～79年, 金沢医科大学内科・血液免疫内科助教授, 1979～81年, 京都大学医学部附属病院輸血部講師, 1981～96年, 京都大学第1内科講師を経て, 1996年, 東南アジア研究センター教授, 現在に至る。急激に変貌しつつある東南アジアで自然・社会環境の変化が健康や疾病特性に及ぼす影響を総合的に把握することを究極の目的とする。現在はタイ国の血液病, 感染症, 免疫疾患の動向を中心として研究中である。
6. (1) "Proliferation of Megaloblasts in Pernicious Anemia as Observed from Nucleic Acid Metabolism," *Blood*, 31, 1968.
- (2) "Identity and Proliferation of Small Lymphocyte Precursors in Cultures of Lymphocyte-rich Fractions of Guinea

Pig Bone Marrow," *Blood*, 37, 1971.

- (3) "Lack of Correlation between in Vitro Corticosteroid Effect on Hemopoietic Colony Formation and Response to Corticosteroid Therapy in Aplastic Anemia," *Int J Cell Cloning*, 4, 1986.
- (4) "Successful Antibody Elimination in Severe M-incompatible Pregnancy," *N Engl J Med*, 305, 1981.
- (5) "Regulatory Mechanism of Hemopoiesis and Its Application to Clinical Hematology," *Acta Haematol Jpn*, 47, 1984.
- (6) *Myelodysplastic Syndromes: Pathophysiology and Treatment*, (共編), Excerpta Medica, North Holland, 1988.
- (7) *Myelodysplastic Syndromes. Advances in Research and Treatment*, (共編), Excerpta Medica, North Holland, 1995.
- (8) "Conserved V (D) J Junctional Sequence of Cross-reactive Cytotoxic T Cell Receptor Idiotypic and the Effect of a Single Amino Acid Substitution," *Eur J Immunol*, 21, 1991.
- (9) "Detection of Mg²⁺-dependent Endonuclease Activity in Myeloid Leukemia Cell Nuclei Capable of Producing Internucleosomal DNA Cleavage," *Biochem Biophys Res Commun*, 191, 1993.
- (10) "Dysregulation of Adult T-cell Leukemia-derived Factor (ADF) in HIV Infection: Loss of ADF High-producer Cells in Lymphoid Tissues of AIDS Patients," *AIDS Res and Human Retroviruses*, 8, 1992.
- (11) "Japanese Experience in the Treatment of Myelodysplastic Syndromes," *Hematol/Oncol Clin North America*, 6, 1992.

- (12) Open Forum. Hypothesis: Apoptosis may be the Mechanism Responsible for the Premature Intramedullary Cell Death in the Myelodysplastic Syndromes, *Leukemia*, 7, 1993.
- (13) "Types of Nuclear Endonuclease Activity Capable of Inducing Internucleosomal DNA Fragmentation are Different between Human CD 34 + Cells and Their Granulocytic Descendants," *Blood*, 86, 1995.
- (14) 『骨髓異形成症候群 (MDS) の臨床』改訂第 2 版, 新興医学出版, (印刷中)
- (15) "Treatment of Myelodysplastic Syndromes: An Updated Japanese Experience," *Sem Hematol*, 33, 1996.
- (16) "Apoptosis in Normal and Neoplastic Hematopoiesis," *Crit Rev Oncol/Hematol*, 24, 1996.
- (17) "Apoptosis in Myelodysplasia: A Paradigm or a Paradox?" *Leukemia Res*, 19, 1996.
- (18) "Distribution of Endogenous Endonuclease Activities Capable of Producing Internucleosomal DNA Cleavage in Hematopoietic Cells," *Int J Hematol*, 66, 1997.
- (19) "The FAB Classification of Acute Leukemias," *Asian Med J*, 10, 1966.
- (20) "Myelodysplastic Syndromes in Thailand: A Retrospective Pathologic and Clinical Analysis of 117 Cases," *Leuk Res*, 22, 1998.

西淵 光昭

1. 広島大学水畜産学部, 1976.
2. オレゴン州立大学 Ph. D., 1983.
3. 病原細菌学
4. (1) 環境と細菌の病原性発現調節メカニズム

との関係

- (2) 東南アジアの水棲環境中の病原性細菌の動態
5. 1977 ~ 78 年, 文部省派遣交換留学生としてオレゴン州立大学に留学し, 魚病を研究。1980 ~ 82 年 (オレゴン州立大学博士課程在学中), ヒト病原性ビブリオ属細菌の米国沿岸における分布調査に参加し, 西海岸の調査を担当。1983 ~ 86 年, メリーランド大学ワクチン開発センターで細菌病原性の分子遺伝学研究を開始。1986 年, 大阪大学微生物病研究所助手に採用される。1988 年, 京都大学医学部講師に採用され, 同年, 同助教授に昇任。1996 年, 京都大学東南アジア研究センター教授に採用され, 現在に至る。
6. (1) "Molecular Taxonomy of Lactose Fermenting Vibrios," (共著) in R.R. Colwell (ed.), *Vibrios in the Environment*, John Wiley and Sons, 1984.
- (2) "Nucleotide Sequence of the Thermostable Direct Hemolysin Gene of *Vibrio Parahaemolyticus*," (共著) *Journal of Bacteriology*, 162 (2), 1985.
- (3) "Synthetic Oligonucleotide Probes to Detect Kanagawa Phenomenon-Positive *Vibrio Parahaemolyticus*," (共著) *Journal of Clinical Microbiology*, 23 (6), 1986.
- (4) "Isolation from a Coastal Fish of *Vibrio Hollisae* Capable of Producing a Hemolysin Similar to the Thermostable Direct Hemolysin of *Vibrio Parahaemolyticus*," (共著) *Applied and Environmental Microbiology*, 54 (8), 1988.
- (5) "DNA Probes for Pathogenic *Vibrio* Species," (共著) in F. C. Tenover (ed.), *DNA Probes for Infectious Diseases*, CRC Press, 1988.
- (6) "Detection with Synthetic Oligonucleotide Probes of Nucleotide Sequence

- Variations in the Genes Encoding Enterotoxins of *Escherichia Coli*,” (共著) *Journal of Clinical Microbiology*, 27 (10), 1989.
- (7) “Experimental non-01 Group 1 *Vibrio Cholerae* Gastroenteritis in Humans,” (共著) *Journal of Clinical Investigation*, 85, 1990.
- (8) “Duplication and Variation of the Thermostable Direct Haemolysin in (*tdh*) Gene in *Vibrio Parahaemolyticus*,” (共著) *Molecular Microbiology*, 4 (1), 1990.
- (9) “Molecular Epidemiologic Evidence for Association of Thermostable Direct Hemolysin (TDH) and TDH-related Hemolysin of *Vibrio Parahaemolyticus* with Gastroenteritis,” (共著) *Infection and Immunity*, 58 (11), 1990.
- (10) “Cholera Enterotoxin Production in *Vibrio Cholerae* 01 Strains Isolated from the Environment and from Humans in Japan,” (共著) *Applied and Environmental Microbiology*, 57 (8), 1991.
- (11) “Evidence for Insertion Sequence-mediated Spread of the Thermostable Direct Hemolysin Gene among *Vibrio* Species,” (共著) *Journal of Bacteriology*, 173 (16), 1991.
- (12) “Contribution of the *tdh1* Gene of Kanagawa Phenomenon-positive *Vibrio Parahaemolyticus* to Production of Extracellular Thermostable Direct Hemolysin,” (共著) *Microbial Pathogenesis*, 11, 1991.
- (13) “Genetics of Thermostable Direct Hemolysin of *Vibrio Parahaemolyticus*,” (共著) in A. E. Pohland (ed.), *Microbial Toxins in Foods and Feeds*, Plenum Publishing Co., 1991.
- (14) “Enterotoxigenicity of *Vibrio Parahaemolyticus* with and without Genes Encoding Thermostable Direct Hemolysin,” (共著) *Infection and Immunity*, 60 (9), 1992.
- (15) “Detection of the Thermostable Direct Hemolysin Gene (*tdh*) and the Thermostable Direct Hemolysin-related Hemolysin Gene (*trh*) of *Vibrio Parahaemolyticus* by Polymerase Chain Reaction,” (共著) *Molecular and Cellular Probes*, 6, 1992.
- (16) 「ToxR を中心としたピブリオの病原因子遺伝子の発現調節」加藤延夫 (編)『微生物学の新しい展開』菜根出版, 1993.
- (17) “Thermostable Direct Hemolysin Gene of *Vibrio Parahaemolyticus*: A Virulence Gene Acquired by a Marine Bacterium,” (共著) *Infection and Immunity*, 63 (6), 1995.
- (18) “The Thermostable Direct Hemolysin Gene of *Vibrio Hollisae* is Dissimilar in Prevalence to and Phylogenetically Distant from the *tdh* Genes of Other Vibrios: Implications in the Horizontal Transfer of the *tdh* Gene,” (共著) *Microbiology and Immunology*, 40 (1), 1996.
- (19) “Emergence of a Unique 03:K6 Clone of *Vibrio Parahaemolyticus* in Calcutta, India, and Isolation of Strains from the Same Clonal Group from Southeast Asian Travelers,” (共著) *Journal of Clinical Microbiology*, 35 (12), 1997.
- (20) “Detection of *Escherichia Coli* 0157:H7 in the Beef Marketed in Malaysia,” (共著) *Applied and Environmental Microbiology*, 64 (3), 1998.

河野 泰之

1. 東京大学農学部, 1981.
2. 東京大学農学博士, 1986.
3. 自然資源管理
4. (1) 地域資源評価
(2) モンスーンアジアの水利
5. 1987年東南アジア研究センター助手, 1992～94年アジア工科大学灌漑工学経営プログラム助教授, 1998年東南アジア研究センター助教授, 現在に至る。1981年ジャワ島, 1983～84年タイ, スリランカ及び南インド, 1986年ルソン島, 1989年イラン, イラク, エジプト, 1990, 1991年中国, 1995～98年ベトナム・タイにおいて土地・水利用や水利開発の調査に従事する。
6. (1) 「東北タイ・ドンデー村——稲作の不安定性」『東南アジア研究』23 (3), 1985.
(2) 「タイ国東北部の天水田の水文環境と水利開発」『拓殖学研究』26, 1986.
(3) 「天水田における土地改良事業の経済効果」『農業土木学会誌』55 (9), 1987.
(4) “Rainfed Rice Culture and Population Growth: A Case Study at a Northeast Thai Village” 『東南アジア研究』28 (4), 1991.
(5) 「タイ国東北部農村の生業構造に基づく村落類型——ヤソトン県を対象として」(共著) 『東南アジア研究』30 (3), 1992.
(6) 『「火耕水耨」再考』(共著) 『史林』76 (3), 1993.
(7) “Changing Features of Irrigated Agriculture in the Chao Phraya Delta, Thailand,” (共著) in *Proceedings of the International Conference on Environmentally Sound Water Resources Utilization*, 1993.
(8) “Dynamics of Upland Utilization and Forest Land Management: A Case Study in Yasothon Province, North-east Thailand,” (共著) 『東南アジア研究』32 (1), 1994.
(9) “Effect of Water Control on Rice Cultivation in the Red River Delta, Vietnam: A Case Study in the Nhue River Irrigation System,” (共著) 『東南アジア研究』32 (4), 1995.
(10) “Land and Water Resources Management for Crop Diversification in the Chao Phraya Delta, Thailand: A Case Study of Citrus Cultivation in the North Rangsit Irrigation Project,” (共著) 『東南アジア研究』33 (2), 1995.
(11) “Spread of Direct Seeded Lowland Rice in Northeast Thailand: Farmers’ Adaptation to Economic Growth,” (共著) 『東南アジア研究』33 (4), 1996.
(12) 「紅河デルタにおける水利開発と合作社の役割」(共著) 『熱帯農業』40 (別号2), 1996.
(13) “Who should Manage an Irrigation System: Monsoon Asian Experiences,” in *Proc. of the Int. Conf. on Water Resour. & Environ. Res.*, 1996.
(14) “Application of NETVIS to the Evaluation of a Reforestation Project in Northeast Thailand,” (共著) in *Proc. of the 17th Asian Conference of Remote Sensing*, 1996.
(15) “Post-1949 Development of the Dujiangyan Irrigation System, South China: Bridging over a Gap between the Government and Farmers,” *International Journal of Water Resources Development*, 13 (1), 1997.
(16) 「社会開発型ODA事業におけるGISの役割——東北タイ造林普及計画(REX)を例として」(共著) 『GIS——理論と応用』5 (1), 1997.

- (17) 「タイ国における農業開発の現状と今後の課題」(共著)『農業土木学会誌』65(4), 1997.
- (18) 「東北タイ土地生産力の評価とモデル化——MAPNET プロジェクトの概要」(共著)『熱帯農業』41(別号1), 1997.
- (19) 「東北タイにおける天水田水稲作の作付け時の水条件」(共著)『熱帯農業』41(別号2), 1997.
- (20) “Village-level Irrigation System Management in the Command Area of Nam Ha 1 Irrigation Scheme,” 『百穀社通信』8, 1998.

地域研究第二客員部門

片山 裕

1. 京都大学法学部, 1973.
2. 京都大学法学修士, 1975.
3. 政治学
4. (1) 東南アジアにおける行政と政治
(2) フィリピンの中央地方関係
(3) フィリピンの環境政策の政治経済学
5. 1978年, 京都大学法学部助手に採用される。1981年, 東南アジア研究センター助手, 1987年岡山大学教養部助教授, 1993年神戸大学大学院国際協力研究科助教授。1995年同教授に昇任, 現在に至る。この間1985年6月～86年5月までフィリピン大学社会科学哲学学部客員研究員, 1992年4月～94年3月在フィリピン日本大使館専門調査員を兼任。
6. (1) “Technocrats and Imelda Marcos: One Aspect of the Martial Law Regime in the Philippines,” in K. Tsuchiya (ed.), ‘States’ in Southeast Asia: From ‘Tradition’ to ‘Modernity’, Kyoto University, 1984.
(2) 「フィリピン二月革命」三浦他(監修)『世界を変えた戦争・革命・反乱』自由国
民社, 1986.
- (3) 「現代フィリピンの高級官僚任用にみられる地域主義」『季刊行政管理研究』第36号, 1986.
- (4) 「マルコス政権の行政官僚制度」『国際問題』1987年1月号, 1987.
- (5) 「政治的生態学の手法」矢野 暢(編)『講座・政治学第IV巻——地域研究』三嶺書房, 1988.
- (6) 「マルコス政権下の官僚制——特に幹部公務員制度に焦点をあてて」矢野 暢(編)『講座・政治学第IV巻——地域研究』三嶺書房, 1988.
- (7) 「フィリピンの政党と選挙」川端正久・的場敏博(編)『現代政治』法律文化社, 1989.
- (8) 「アキノ大統領の政治的リーダーシップ」『海外事情』1990年4月号, 1990.
- (9) 「アキノ政権下の行政改革」日本行政学会(編)『年報行政研究25——比較行政研究』1990.
- (10) 「政府批判の様式とマスメディア——フィリピンの政治変動における事例研究」矢野 暢(編)『東南アジアの政治』(講座・東南アジア学第7巻)弘文堂, 1991.
- (11) 「フィリピンにおける女性の職場進出」伊奈正人他(編著)『性というつくりごと——遺伝子から思想まで』勤草書房, 1991.
- (12) 「警察官の犯罪——フィリピンの警察制度にみる中央＝地方関係」『神戸大学国際協力論集』2(1), 1994.
- (13) 「現代フィリピンにおける司法制度問題——裁判官の腐敗と裁判の遅延を中心に」『神戸法学雑誌』44(1), 1994.
- (14) “Invisible Nationalism in Contemporary Japan,” in Cordillera Studies Center (ed.), *Culture of Nationalism in Contemporary Philippine Society*, Cordillera Studies Center, University of the Philip-

- pines College Baguio, 1995.
- (15) 「身分証からみたフィリピンにおける住民把握制度」『神戸法学雑誌』45 (2), 1995.
 - (16) 「フィリピン人メイド処刑事件騒動の意味するもの——ASEAN 外交における『国民』の登場」『総合的地域研究』No. 11, 京都大学東南アジア研究センター, 1995.
 - (17) 「フィリピンにおける美人と美人コンテスト——試論」『奈良産大法学雑誌』8 (3・4), 1996.
 - (18) 「フィリピン地域研究における法学的アプローチのむつかしさ」『総合的地域研究』No. 13, 京都大学東南アジア研究センター, 1996.
 - (19) 「フィリピンの新聞にみる阪神淡路大震災——救援隊派遣辞退をめぐって」『神戸大学国際協力論集』5 (3), 1997.
 - (20) 「ラモスは何を変えたか」五百旗頭真 (編著) 『アジア型リーダーシップと国家形成』TBS ブリタニカ, 1998.

大野 昭彦

1. 山口大学経済学部, 1977.
2. 一橋大学経済修士, 1979.
3. 経済開発論
4. 経済発展と市場形成
5. 1985～94年, 成蹊大学経済学部助教授。1994年から大阪市立大学経済学部助教授。
6. (1) 『アジア経済研究』(共編著) 中央経済社, 1991.
- (2) 「インド・ハリヤーナー州における米・小麦二毛作の普及と所得分配——ニザムブル村の調査報告を中心に」『アジア経済』25 (1), 1984.
- (3) 「刈分小作契約の選択——英領インド・パンジャブ地方の事例を中心に」『アジア研究』31 (2), 1984.
- (4) 「インド・ハリヤーナー州における農業発展と賃労働市場の変容——賃金決定要因

- としての慣習」『アジア経済』26 (6), 1985.
- (5) 「インド在来製糖業の技術力と雇用吸収力」(共著), 山田三郎 (編) 『アジアの農村工業』アジア経済研究所, 1986.
 - (6) 「インド・ハリヤーナー州における農業発展と土地賃貸市場」速水佑次郎 (編) 『農業発展における市場メカニズムの再検討』アジア経済研究所, 1988.
 - (7) 「インドにおける工場労働者の定着をめぐって——サラスワティ製糖工場の季節労働者の場合」(共著) 『アジア経済』31 (3・4), 1990.
 - (8) 「在タイ日系企業における労務管理組織と従業員の組織適応」『アジア経済』33 (12), 1992; 34 (1), 1993.
 - (9) “Modernizing Agents and Organizational Adaptation of Factory Workers in Thailand: A Case Study of a Japanese Joint Venture in Chiang Mai,” *Developing Economics*, 33 (3), 1995.
 - (10) “Technology and Labour Absorption in the Indigenous Sugar Industry in India: An Analysis of Appropriate Technology,” (共著) *Hitotsubashi Journal of Economics*, 36 (2), 1995. The Same in Peter Robb and H. Yanagisawa (ed.), *Local Agrarian Societies in Colonial India*, 1996.
 - (11) “Technology of the Indian Sugar Industry from an International Perspective,” (共著) in Peter Robb and H. Yanagisawa (ed.), *Local Agrarian Societies in Colonial India*, 1996.
 - (12) 「パキスタンの灌漑システム改革と援助政策」『国際開発研究フォーラム』5号, 1996.
 - (13) 「技術・技能そして労務管理——フィリピンの製造業を対象として」『経済学雑誌』98 (5・6), 1997.

- (14) 「刈分契約と減免慣行——小作契約における危険分散」『成蹊大学経済学論集』19 (2), 1989.
- (15) 「インドの経済発展と農業」『経済学雑誌』98 (2), 1997.
- (16) “Organizational Maladaptation of the First Generation of Factory Workers in Thailand,” *Osaka City University Economic Review*, 33 (1), 1997.
- (17) 「工業化の初期段階における労働者の組織不適応——北タイの経験から」『アジア研究』44 (1), 1997.
- (18) 「農村工業製品をめぐる市場形成——ラオスにおける手機織物」『アジア経済』1998.
- (19) “Rural Garment and Weaving Industries in Northern Thailand,” (共著) in Hayami (ed.), *Toward the Rural Based Development of Commerce and Industry: Selected Experience from East Asia* (Chapter 6), 1998.
- (20) “Organizational Characteristics of Rural Textile Industries in East Asia,” (共著) in Hayami (ed.), *Toward the Rural Based Development of Commerce and Industry: Selected Experience from East Asia* (Chapter 10), 1998.

非常勤講師・非常勤研究員等

非常勤講師

須羽 新二

1. 龍谷大学文学部, 1982.
2. 龍谷大学文学修士, 1985.
3. 情報化社会論
4. (1) 東南アジアの情報化と海外出稼ぎ
(2) タイ語文献データベースの構築
5. 1989年, 龍谷大学電子計算機教室に技能系

嘱託職員として採用される。1994年, 龍谷大学社会学部特任講師, 1997年, 聖泉短期大学情報社会学科専任講師, 現在に至る。1983～84年, 東北タイにて農民生活に関する調査に従事する。

6. (1) 「東北タイにおける農村構造」龍谷大学修士論文, 1985.
- (2) “The Village Life,” (共著) in H. Fukui et al. (eds.), *The Second Interim Report/A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, CSEAS, Kyoto University, 1985.
- (3) 「東北タイ・ドンデーン村——生活行動記録 (第1報)」(共著)『東南アジア研究』23 (3), 1985.
- (4) “The Daily Activity Survey: Notes on the Tables,” (共著) in H. Fukui et al. (eds.), *The Third Interim Report/A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, CSEAS, Kyoto University, 1988.
- (5) 「東北タイにおける地域開発と村落自治の変容」『龍谷大学社会学論集』9, 1989.
- (6) 「村の社会・政治組織」(共著) 口羽益生 (編)『ドンデーン村の伝統構造とその変容』創文社, 1990.
- (7) 『アンケート調査データの解析のためのSASの使い方——TSS 端末利用 (龍谷大学版)』(共著) 龍谷大学電子計算機教室, 1990.
- (8) 『TSS 利用の手引き (TSP 実行編)』(共著) 龍谷大学電子計算機教室, 1993.
- (9) 『計量政治学実習の手引き——SPSS 入門編』(共著) 龍谷大学電子計算機教室, 1993.
- (10) 『計量政治学実習の手引き——SPSS 実践編』(共著) 龍谷大学電子計算機教室,

1993.

- (11) 『SASの利用手引』(共著) 龍谷大学電子計算機教室, 1993.
- (12) 「タイへの直接投資とその影響」(翻訳) 中村尚司・河村能夫(編) 『アジアからみるアジアをみる』阿吡社, 1994.
- (13) 『ウィンドウズへの道——Windowsによる情報リテラシー』(共著) 学術図書出版, 1995.
- (14) 『ウィンドウズへの道 98——Windowsによる情報リテラシー』(共著) 学術図書出版, 1998.

非常勤研究員

及川 洋征

(1997年4月1日～1999年3月31日)

1. 東京農工大学農学部, 1990.
2. 京都大学農学修士, 1992.
3. 熱帯農学, 森林経営学
4. インドネシアにおける樹木作物の導入に伴う村落景観の展開
5. 1992年度日本学術振興会特別研究員(DC1)。1992年10月から3年間, インドネシアポゴール農科大学大学院研究生(学外研究指導委託による)。
6. (1) 「ジャワ島におけるモルッカネム普及政策『セゴニサシ』と農民の受容」『熱帯林業』35号, 1996.
- (2) 「南カリマンタン丘陵地におけるジャワ移民による混合樹園地の造成過程(速報)」『日本林学会論文集』107号, 1996.
- (3) 「ジャワ島の混合樹園地(Mixed Garden)における農家による用材生産——モルッカネムの事例」『林業経済研究』43(2), 1997.
- (4) “A Preliminary Survey on Coconut-sugar-making Homegardens in Relation to Fuel Procurement in Banyumas, Cen-

tral Java,” *Tropics*, 7(3/4), 1998.

貞好 康志

(1998年4月1日～2000年3月31日)

1. 京都大学文学部, 1986.
2. 京都大学人間・環境学修士, 1995.
3. 地域研究, 歴史学
4. インドネシア華人の社会史
5. 1986～89年, 住友林業(株)で対インドネシア貿易に従事。1989～91年, インドネシア大学およびデポボゴロ大学へ留学。1995～97年, 日本学術振興会特別研究員。
6. (1) 「華人がインドネシア・ナショナリズムを志向した時——コー・クワット・チョンの軌跡より」『南方文化』20, 1993.
- (2) 「プラナカン華人の同化論争(1960年)——『インドネシア志向』のゆくえ」『南方文化』22, 1995.
- (3) 「インドネシアにおける華人同化主義の国策化——プラナカンの志向と政治力学」『東南アジア 歴史と文化』25, 1995.
- (4) 「混血」(特集: 東南アジアを斬るキーワード)『総合的地域研究』14, 1996.

松本 千穂

(1998年4月1日～2000年3月31日)

1. 甲南大学理学部, 1990.
2. 京都大学人間・環境学修士, 1995.
3. 分子生物学, 分子疫学
4. 東南アジアにおける腸管感染症原因細菌の分子遺伝学的研究
5. 1991～93年, 奈良女子大学家政学研究科修士課程在籍, 1993～95年, 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程在籍, 1995～98年, 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程在籍。
6. (1) “A New Locus on Chromosome 3 Strongly Linked with Salt-sensitive High Blood Pressure in Female F 2

from SHRSP and WKY Rats,” *Clinical Experimental Pharmacology Physiology*, 22, 1995.

- (2) “In Search of Genes Causing Spontaneous Hypertension,” *Clinical Experimental Pharmacology Physiology*, 22, 1995.
- (3) 「雌性脳卒中易発症ラットにおける食塩感受性遺伝子の検索」『血圧』3, 1996.
- (4) “A Linkage Analysis of the Salt-sensitive Hypertensive Gene in the Stroke-prone Spontaneously Hypertensive Rat (SHRSP),” *Japanese Heart Journal*, 37, 1996.
- (5) “Comparison of the Genetic Background among WKY and SHR (SP) Using Microsatellite Markers,” *Japanese Heart Journal*, 37, 1996.
- (6) “Cosegregation of the New Region on Chromosome 3 with Salt-induced Hypertension in Female F2 Progeny from Stroke-prone Spontaneously Hypertensive and Wistar-Kyoto Rats,” *Clinical Experimental Pharmacology Physiology*, 23, 1996.
- (7) “The Region Responsible for Stroke on Chromosome 4 in the Stroke-prone Spontaneously Hypertensive Rats,” *Biochemical Biophysical Research Communication*, 229, 1996.
- (8) “Genetic Variation of Sodium Sensitivity,” *Nutrition and Stroke*, 1997.
- (9) “Construction of a Rat Genetic Map Using the Randomly Amplified Microsatellite Polymorphism (RAMP) Markers,” *Mammalian Genome*, 1998.

吉木 岳哉

(1998年4月1日～2000年3月31日)

1. 東北大学理学部, 1991.

2. 東北大学理学博士, 1998.
3. 地形学, 第四紀学, 自然地理学
4. 東北タイの地形と表層堆積物の形成過程
5. 主な研究対象は、最終間氷期(約13万年前)以降における日本各地の山地・丘陵地の斜面形成過程であるが、その一方で、タイにおける山麓緩斜面堆積物に関する共同調査、および、東北タイの地形と表層堆積物の形成過程に関する共同調査にも参加してきた。
6. (1) 「北上山地北縁の丘陵地における斜面の形態と発達過程」『季刊地理学』45(4), 1993.
(2) “Paleoenvironmental Analysis of Landforms and Surface Deposits in the Western Piedmont Zone of Thailand,” (共著) in *Proceedings of the International Symposium on Paleoenvironmental Change in Tropical-Subtropical Monsoon Asia, Special Publication*, No. 24, Research Center for Regional Geography, Hiroshima Univ., 1995.
- (3) 「栃木県喜連川丘陵の谷壁斜面を刻む最終氷期後半の化石ガリートとその埋積過程」『第四紀研究』35(5), 1996.

学振特別研究員

長津 一史

(1998年4月1日～2001年3月31日)

1. 上智大学外国語学部, 1992.
2. 京都大学人間・環境学修士, 1995.
3. 文化人類学
4. サマ(バジャウ)の地理的移動と社会史
5. これまで、サバ、スルー、スラウェシ、東カリマンタン等においてフィールド調査を経験。平成7年度文部省アジア諸国等派遣留学生により1996年3月から1998年2月まで、マレーシア国民大学に留学し、サバ州センボルナにてフィールド調査を行う。1998年4

月より日本学術振興会特別研究員 (PD) として東南アジア研究センターに在籍。

6. (1) 「スルー諸島における近代化と社会変容——漂海民バジャウの定住化をめぐる」『熱帯研究 Tropics』3 (2), 1994.
- (2) 「フィリピン・サマの漁撈活動の実態と環境観——民俗環境論的視点から」京都大学人間・環境学研究所修士論文, 1995.
- (3) 「海の民サマ人の生計戦略」『季刊民族学』74, 1995.
- (4) 「セレベス海域サマ人の移動と交流小史——ココヤシを運んだ海民たちを追って」山田 勇 (編) 『フィールドワーク最前線——見る・聞く・歩く』弘文堂, 1996.
- (5) “Research on Bajau Communities: Maritime People in Southeast Asia,” (共著) *Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review*, No. 6, 1996.
- (6) 「海の民サマ人の生活と空間認識——サンゴ礁空間 *t'ba* の位置づけを中心にして」『東南アジア研究』35 (2), 1997.
- (7) 「西セレベス海域におけるサマ人の南下移動——素描」『上智アジア学』15, 1997.

2. 資料部

北野 康子

1. 長崎大学教育学部, 1962.
2. ハワイ大学 MATESL (Master of Arts in Teaching English as a Second Language), 1968. ハワイ大学 MLS (Master of Library Studies), 1971.
3. 図書館学
4. (1) 東南アジア研究資料の目録情報
(2) 図書館の情報技術
5. 1966 ~ 68 年, East-West Center 奨学生,

1969 ~ 71 年, ハワイ大学大学院にて図書館学を修める。1971 ~ 77 年, 貿易研修センター情報資料室勤務を経て, 1977 年, 東南アジア研究センター資料部図書室に助手として着任, 現在に至る。

6. (1) *The Bibliography of Bibliographies of the Pacific*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1969.
- (2) *United Nations Documents on the Trust Territory of the Pacific Islands*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1971.
- (3) 「発展途上国の経済ナショナリズムと経済統合に関する文献目録」(共編) 『アジア経済資料月報』20 (3), 1978.
- (4) 「図書館ネットワークのしくみ——WLN のシステム, Washington Library Network」(共編) ライブラリー・オートメーション研究会, 京都, 1982.
- (5) 「インドネシアにおける図書館システム」(訳) 『図書館界』35 (4), 1983.
- (6) “Southeast Asian Research Resources in Western Japan,” presented at the Seventh Congress of Southeast Asian Librarians, Manila, 15–21 February 1987.
- (7) 「京都大学東南アジア研究センターの現地語資料」『アジ研ニュース』119, 1990.
- (8) 「子どもに素晴らしい本の世界を開く——タイの場合」(訳) 『こどもの図書館』40 (5), 1993.
- (9) “Two Special Collections in the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University: Foronda Collection and Charas Collection,” presented at International Seminar on Special Collection of Southeast Asian Studies, Universiti Kebangsaan Malaysia, 19–21 June 1995.

- (10) 「小田泰正先生とWLN」『情報技術と図書館——小田泰正先生追悼論文集』小田泰正先生追悼論文集刊行委員会, 1995.
- (11) 「マレーシアの図書館について——トンスリラナン図書館, マレーシア国民大学図書館」(訳)『現代の図書館』34(4), 1996.
- (12) “Thai Information in the CSEAS Library of Kyoto University,” in *WAINS 2, Proceedings of the 2nd International Workshop in Information Networks and Systems, 13 December 1995*. National Center for Science Information Systems, 1996.
- (13) “Acquisition of Southeast Asian Scholarly Publications,” in *Proceedings [of the] Colloquium on Academic Library Information Resources for Southeast Asian Scholarship, 3-5 November 1997, University of Malaya, Kuala Lumpur*. Vol. I, University of Malaya Library, 1997.
5. (財)リモート・センシング技術センター 研究員 (1987～96年)を経て, 1996年, 東南アジア研究センターに助手として着任, 現在に至る。1990年にはNASA/JPLとのJERS-1 CAL/VAI 観測実験に従事。1996年3～4月には, リモートセンシングに関する技術指導のためインドネシア国技術応用庁へ派遣される。
6. (1) 「複合 HSI 変換を用いた画像強調」『法政大学工学部研究集報』25, 1989.
- (2) 「ランドサット TM データによる米国干ばつ被害調査」『法政大学工学部研究集報』26, 1990.
- (3) 「パーソナルコンピュータを用いた衛星情報と地理情報による地域特性算定システム」『法政大学工学部研究集報』27, 1991.
- (4) “Computer Assisted Satellite Image Interpretation for Updating Land Use Information,” (共著) *Applications of Remote Sensing in Asia and Oceania*, Asian Association on Remote Sensing, 1992.
- (5) 「道路網認識に対する画像情報利用の可能性」『法政大学工学部研究集報』28, 1992.
- (6) 「多時期の衛星画像の画像判読による植生分布図の作成」『写真測量とリモートセンシング』33(1), 1994.
- (7) 「リモートセンシングを活用した土地利用情報の整備」『測量』1994. 4.
- (8) 「熱環境解析に対する時系列熱映像の活用」『写真測量とリモートセンシング』33(6), 1994.
- (9) 「NOAA/AVHRRの観測輝度温度に基づくLANDSAT/TMの観測輝度温度誤差の補正」(共著)『リモートセンシング学会誌』16(4), 1996.

米沢眞理子

1. 京都大学文学部, 1972.
2. 京都大学文学修士, 1974.
3. 1974年, 京都大学東南アジア研究センターに文部事務官として採用される。1987年, 東南アジア研究センター資料部編集室助手に配置換, 現在に至る。
4. 「パスカルにおけるキリスト教弁証論の方法」(京都大学修士論文), 1974.

吉村 充則

1. 法政大学工学部, 1985.
2. 法政大学工学修士, 1987.
3. 環境工学
4. 東南アジアの土地利用と熱帯林の破壊

第6章 出版活動

1998年9月現在で、センターが刊行した東南アジア研究叢書（和文、英文）、地域研究叢書、『東南アジア研究』（33巻1号以降）、研究報告書シリーズの一覧を掲げる。なお、『東南アジア研究』32巻までの全所収論文等は『東南アジア研究』別冊（23巻5号）と『平成7年度版センター要覧』に、またリプリント・シリーズ、ディスカッション・ペーパーの一覧は『昭和62年度版センター要覧』に一括掲載されているので、参照されたい。

1. 研究叢書等

A. 東南アジア研究叢書（和文）

1. 棚瀬 襄爾. 1966. 『他界観念の原始形態』
2. 矢野 暢. 1968. 『タイ・ビルマ現代政治史研究』
3. 本岡 武. 1968. 『東南アジア農業開発論』
4. 坪内 良博; 坪内 玲子. 1971. 『離婚』創文社.
5. 飯島 茂. 1971. 『カレン族の社会・文化変容』創文社.
6. シュトルツ. 1974. 『ビルマ——地誌・歴史・経済』野上裕生（訳）. 創文社.
7. 市村 真一 編. 1974. 『東南アジアの自然・社会・経済』創文社.
8. 石井 米雄 編. 1975. 『タイ国——ひとつの稲作社会』創文社.
9. 石井 米雄. 1975. 『上座部仏教の政治社会学』創文社.
10. 本岡 武. 1975. 『インドネシアの米』創文社.
11. 市村 真一 編. 1975. 『東南アジアの経済発展』創文社.
12. 口羽; 坪内; 前田 編. 1976. 『マレー農村の研究』創文社.
13. 西原 正 編. 1976. 『東南アジアの政治的腐敗』創文社.
14. エクスタインほか 編. 1979. 『中国の経済発展』市村真一（監訳）. 創文社.
15. 渡部 忠世 編. 1980. 『東南アジア世界——地域像の検証』創文社.
16. 水野 浩一. 1981. 『タイ農村の社会組織』創文社.
17. 土屋 健治. 1982. 『インドネシア民族主義研究——タマン・シスワの成立と展開』創文社.
18. 高谷 好一. 1982. 『熱帯デルタの農業発展——メナム・デルタの研究』創文社.
19. 小林 和正. 1984. 『東南アジアの人口』創文社.
20. 石井 米雄 編. 1986. 『東南アジア世界の構造と変容』創文社.
21. 桜井由躬雄. 1987. 『ベトナム村落の形成——村落共有田＝コンディエン制の史的展開』創文社.

22. 福井 捷朗. 1988. 『ドンデーン村——東北タイの農業生態』創文社.
 23. 口羽 益生 編. 1990. 『ドンデーン村の伝統構造とその変容』創文社.
 24. 山田 勇. 1991. 『東南アジアの熱帯多雨林世界』創文社.

B. 東南アジア研究叢書（英文）

1. SATO, Takashi. 1966. *Field Crops in Thailand*. Kyoto : CSEAS.
 2. WATABE, Tadayo. 1967. *Glutinous Rice in Northern Thailand*. Kyoto : CSEAS.
 3. TAKIMOTO, Kiyoshi, ed. 1968. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya*. Kyoto : CSEAS.
 4. KAWAGUCHI, Keizaburo ; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Thailand*. Kyoto : CSEAS.
 5. KAWAGUCHI, Keizaburo ; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Malaya*. Kyoto : CSEAS.
 6. MAEDA, Kiyoshige. 1967. *Alor Janggus, A Chinese Community in Malaya*. Kyoto : CSEAS.
 7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1975. *The Economic Development of East and Southeast Asia*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 8. NISHIHARA, Masashi. 1976. *The Japanese and Sukarno's Indonesia : Tokyo-Jakarta Relation, 1951-66*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Southeast Asia : Nature, Society and Development*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 10. KAWAGUCHI, Keizaburo ; and KYUMA, Kazutake. 1977. *Paddy Soils in Tropical Asia*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 11. YOSHIHARA, Kunio. 1978. *Japanese Investment in Southeast Asia*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 12. ISHII, Yoneo, ed. 1978. *Thailand : A Rice-Growing Society*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 13. CHO, Lee-Jay ; and KOBAYASHI, Kazumasa, eds. 1980. *Fertility Transition of the East Asian Populations*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 14. KUCHIBA, Masuo ; TSUBOUCHI, Yoshihiro ; and MAEDA, Narifumi. 1979. *Three Malay Villages : A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*. Honolulu : University Press of Hawaii.
 15. CHO, Lee-Jay ; SUHARTO, S. ; MCNICOLL, G. ; and MAMAS, S. G. M. 1980. *Population Growth of Indonesia : An Analysis of Fertil-*

- ity and Mortality Based on the 1971 Population Census.*
Honolulu : University Press of Hawaii.
16. ISHII, Yoneo. 1986. *Sangha, State, and Society : Thai Buddhism in History.*
Honolulu : University of Hawaii Press.
17. TAKAYA, Yoshikazu. 1987. *Agricultural Development of a Tropical Delta : A Study
of the Chao Phraya Delta.* Honolulu : University of
Hawaii Press.
18. TSUCHIYA, Kenji. 1988. *Democracy and Leadership : The Rise of the Taman
Siswa Movement in Indonesia.* Honolulu : University
of Hawaii Press.
19. FUKUI, Hayao. 1993. *Food and Population in a Northeast Thai Village.* Hono-
lulu : University of Hawaii Press.
20. YAMADA, Isamu. 1997. *Tropical Rain Forests of Southeast Asia : A Forest Ecol-
ogist's View.* Honolulu : University of Hawai'i Press.

C. 地域研究叢書

1. 坪内 良博. 1996. 『マレー農村の20年』京都大学学術出版会.
2. 高谷 好一. 1996. 『「世界単位」から世界を見る』京都大学学術出版会.
3. 立本 成文. 1996. 『地域研究の問題と方法——社会文化生態力学の試み』京
都大学学術出版会.
4. 坪内 良博. 1998. 『小人口世界の人口誌——東南アジアの風土と社会』京都
大学学術出版会.

D. その他の公刊図書

1. 講座・東南アジア学(全10巻・別巻1) 弘文堂.
- 第1巻 矢野 暢 編. 1990. 『東南アジア学の手法』
- 第2巻 高谷 好一 編. 1990. 『東南アジアの自然』
- 第3巻 坪内 良博 編. 1990. 『東南アジアの社会』
- 第4巻 石井 米雄 編. 1991. 『東南アジアの歴史』
- 第5巻 前田 成文 編. 1991. 『東南アジアの文化』
- 第6巻 土屋 健治 編. 1990. 『東南アジアの思想』
- 第7巻 矢野 暢 編. 1992. 『東南アジアの政治』
- 第8巻 吉原久仁夫 編. 1991. 『東南アジアの経済』
- 第9巻 矢野 暢 編. 1991. 『東南アジアの国際関係』
- 第10巻 矢野 暢 編. 1991. 『東南アジアと日本』
- 別巻 矢野 暢 編. 1992. 『東南アジア学入門』

2. 講座・現代の地域研究（全4巻）弘文堂.

- 第1巻 矢野 暢 編. 1993. 『地域研究の手法』
第2巻 矢野 暢 編. 1994. 『世界単位論』
第3巻 矢野 暢 編. 1993. 『地域研究のフロンティア』
第4巻 矢野 暢 編. 1993. 『地域研究と「発展」の論理』
3. 東南アジア研究センター 編. 1997. 『事典東南アジア——風土・生態・環境』弘文堂.
4. TSUCHIYA, Kenji. 1992. *Demokrasi dan Kepemimpinan: Kebangkitan Gerakan Taman Siswa*. Jakarta: Balai Pustaka. (Indonesian Edition of *Democracy and Leadership: The Rise of the Taman Siswa Movement in Indonesia*, CSEAS Monographs in English No. 18)
5. ISHII, Yoneo. 1993. *Sejarah Sangha Thai: Hubungan Buddhisme dengan Negara dan Masyarakat*. Bangi, Selangor, Malaysia: Penerbit Universiti Kebangsaan Malaysia. (Malay Edition of *Sangha, State, and Society: Thai Buddhism in History*, CSEAS Monographs in English No. 16)
6. NISHIHARA, Masashi. 1993. *Sukarno, Ratna Sari Dewi, dan Pampasan Perang*. Jakarta: Pustaka Utama Grafiti. (Indonesian Edition of *The Japanese and Sukarno's Indonesia*, CSEAS Monographs in English No. 8)
7. FURUKAWA, Hisao. 1994. *Coastal Wetlands of Indonesia: Environment, Subsistence and Exploitation*. Kyoto University Press.
8. YOSHIHARA, Kunio. 1994. *The Nation and Economic Growth: The Philippines and Thailand*. Kuala Lumpur: Oxford University Press.
9. UEDA, Yoko. 1995. *Local Economy and Entrepreneurship in Thailand: A Case Study of Nakhon Ratchasima*. Kyoto University Press.

2. 『東南アジア研究』（33巻1号から36巻2号まで）

『東南アジア研究』第1号から23巻4号までの全所収論文等は総目録として別冊23巻5号に、また24巻1号から32巻4号までは『平成7年度版センター要覧』に掲載されているので、ここでは、33巻1号から最新号までの所収論文等を掲げる。各報告は、コード番号・著者名・報告表題・掲載頁の順に配列されている。コード番号は、4、5桁目の数字が巻数を、3桁目の数字が号数を、そして、1、2桁目の数字が報告の番号を表している。

33 卷 1 号 [Vol. 33, No. 1] 1995 年 6 月 [June 1995]

〈特集〉 バングラデシュ農村開発研究
[Bangladesh Rural Development Studies]

- 33101 海田能宏; サレハ・ベグーム [Kaida, Yoshihiro; and Saleha Begum]. バングラデシュ農村開発実験 [Bangladesh Rural Development Experiment, 1992-95]. 3-24.
- 33102 藤田幸一 [Fujita, Koichi]. 村落公共機能の強化をめざして——バングラデシュ農村開発の新戦略——[Strengthening Rural Public Functions: A New Strategy for Bangladesh Rural Development]. 25-38.
- 33103 安藤和雄; 内田晴夫; ハビブール・ラーマン; アルタフ・ホセイン [Ando, Kazuo; Uchida, Haruo; Rahman, Habibur; and Hossain, S.M. Altaf]. マタポールたちと在地の農村開発——バングラデシュ, ドッキンチャムリア村におけるアクション・リサーチの記録 [Matabors and Village Development: An Account of Action Research in Dakhsin Chamuria Village, Bangladesh]. 39-65.
- 33104 内田晴夫; 安藤和雄; ムハマッド・セリム; アルタフ・ホセイン [Uchida, Haruo; Ando, Kazuo; Salim, Muhammad; and Hossain, S.M. Altaf]. 農村水文学——バングラデシュの農村インフラ整備への新しいアプローチ——[Rural Hydrology: An Approach to Rural Infrastructure Build-up in Bangladesh Rural Development]. 66-81.
- 33105 吉野馨子; ムハマッド・セリム [Yoshino, Keiko; and Salim, Muhammad]. バングラデシュのバリ・ピティ (屋敷地) を通してみた農村開発 [An Observation of Bangladesh Rural Development Through *Bari-Biti* (Home Garden)]. 82-97.
- 33106 矢嶋吉司; 河合明宣; ショボン・クマール・ダスグプタ; マザハルル・イスラム [Yajima, Kichiji; Kawai, Akinobu; Dasgupta, Swapan Kumar; and Islam, Mazharul]. オストドナ村農村開発顛末記——深管井導入の失敗からの再出発——[An Account of Austodona Village Development, Bangladesh: A Lesson Learned from Aborted Deep-Tubewell Project]. 98-114.
- 33107 野間晴雄 [Noma, Haruo]. バングラデシュ村落社会と村落研究——農村開発を指向した研究史的展望——[A Review of Studies on Village Society and Rural Development in Bangladesh]. 115-140.

33 卷 2 号 [Vol. 33, No. 2] 1995 年 9 月 [Sept. 1995]

- 33201 八尾隆生 [Yao, Takao]. 黎朝聖宗期の新開拓地を巡る中央政権と地方行政——安興碑文の分析——[The Le Government and Its Regional Administration System in the Newly Reclaimed Land under the Reign of Le Thanh Tong: The Analysis of the Inscriptions in Yen Hung Sub-Prefecture]. 143-168.
- 33202 Kono, Yasuyuki; and Pradip Kumar Saha. Land and Water Resources Management

- for Crop Diversification in the Chao Phraya Delta, Thailand : A Case Study of Citrus Cultivation in the North Rangsit Irrigation Project. 169 – 186.
- 33203 Miyagawa, Shuichi. Expansion of a Improved Variety into Rain-fed Rice Cultivation in Northeast Thailand. 187 – 203.
- 33204 重富真一 [Shigetomi, Shin'ichi]. 東北タイにおける共同耕作の形成原理 [The Mechanism of Forming Joint Farming in Northeast Thailand]. 204 – 223.
- 33205 井上 真 [Inoue, Makoto]. マカッサル人の山村における文化生態系の動態——インドネシア共和国スラウェシ州における治山プロジェクトの影響——[Dynamics of Cultural Ecosystem in the Makassar Mountainous Region : Effect of the Watershed Management Project, South Sulawesi, Indonesia]. 224 – 244.
- 33206 Warren, James Francis. A Strong Stomach and Flawed Material : Towards the Making of a Trilogy, Singapore, 1870 – 1940. 245 – 264.

書評 [Book Review]

- 33207 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. Barbara Watson Andaya, *To Live as Brothers : Southeast Sumatra in the Seventeenth and Eighteenth Centuries*. 265 – 266.

現地通信 [Field Report]

- 33208 海田能宏 [Kaida, Yoshihiro]. 20年ぶりのメコンデルタ紀行 [A Journey in the Mekong Delta after an Interval of Twenty Years]. 267 – 282.

33 卷 3 号 [Vol. 33, No. 3] 1995 年 12 月 [Dec. 1995]

創立 30 周年記念特集
Thirtieth Anniversary Issue

- 33301 Tsubouchi, Yoshihiro. A Malay Village in Kelantan, 1970 – 1991. 3 – 20.
- 33302 Nishimura, Shigeo. The Development of Pancasila Moral Education in Indonesia. 21 – 34.
- 33303 Tamada, Yoshifumi. Coups in Thailand, 1980 – 1991 : Classmates, Internal Conflicts and Relations with the Government of the Military. 35 – 57.
- 33304 Somkiat Konchan ; Nakada, Yoshiaki ; and Fukui, Hayao. Food and Population under Subsistence Rice Farming in Three Villages in Yasothon, Northeast Thailand. 58 – 80.
- 33305 Tanaka, Koji. Transformation of Rice-Based Cropping Patterns in the Mekong Delta : From Intensification to Diversification. 81 – 96.
- 33306 Yoshihara, Kunio. Culture, Institutions, and Economic Growth : A Comparative Study of Korea and Thailand. 97 – 144.
- 33307 Ohji, Toshiaki. Traditional Rice Cultivation Methods and a Survey of Plows in Thailand : With Special Reference to the Development of Plow Technology. 145 – 180.
- 33308 Yamada, Isamu. Aloeswood Forest and the Maritime World. 181 – 186.

- 33309 Tachimoto, Narifumi Maeda. Global Area Studies with Special Reference to the Malay or Maritime World. 187 – 201.
- 33310 Danandjaja, James. A Comparative Study of Japanese and Indonesian Folklores. 202 – 214.
- 33311 Furukawa, Hisao. Meiji Japan's Encounter with Modernization. 215 – 236.

33 卷 4 号 [Vol. 33, No. 4] 1996 年 3 月 [March 1996]

Transformation of Agriculture in Northeast Thailand

- 33401 Fukui, Hayao. Preface. 3 – 4.
- 33402 Somkiat Konchan ; and Kono, Yasuyuki. Spread of Direct Seeded Lowland Rice in Northeast Thailand : Farmer's Adaptation to Economic Growth. 5 – 28.
- 33403 Miyagawa, Shuichi. Recent Expansion of Nonglutinous Rice Cultivation in Northeast Thailand : Intraregional Variation. 29 – 56.
- 33404 Nakamura, Ken ; and Matoh, Toru. Nutrient Balance in the Paddy Field of Northeast Thailand. 57 – 69.
- 33405 Yanagisawa, Masayuki ; and Nawata, Eiji. Development of Commercial Cultivation of Field Crops in Thailand : A Case Study in Saraburi and Lopburi Provinces. 70 – 90.
- 33406 Nakada, Yoshiaki. When Does a Farmer Sell Rice?: A Case Study in a Village in Yasothon Province, Northeast Thailand. 91 – 106.
- 33407 Funahashi, Kazuo. Farming by the Older Generation : The Exodus of Young Labor in Yasothon Provinces, Thailand. 107 – 121.
- 33408 Ikemoto, Yukio. Expansion of Cottage Industry in Northeast Thailand : The Case of Triangular Pillows in Yasothon Province. 122 – 137.
- 33409 Nagata, Yoshikatsu. Mapping the Village Database : Spread of Economic Growth to Rural Area of Northeast Thailand. 138 – 156.
- 33410 Fukui, Hayao. Expansion of Arable Land and Its Cessation : The Case of Northeast Thailand. 157 – 184.

書評 [Book Review]

- 33411 Yoshihara, Kunio. Takashi, Tomosugi, *Changing Features of a Rice-Growing Village in Central Thailand : A Fixed-Point Study from 1967 to 1993*. 185 – 187.

〈特集〉インドネシア国民の形成

——故土屋健治教授を偲んで——

[The Formation of the Indonesian Nation :

In Memory of the Late Professor Kenji Tsuchiya]

- 34101 白石 隆 [Shiraishi, Takashi]. インドネシアの近代における「わたし」——カルティニの ik とスウルディの saya——[“I” in Modern Indonesia : Kartini’s Ik and Soewardi’s Saya]. 5-20.
- 34102 西村重夫 [Nishimura, Shigeo]. タマンシスワ教育理念の連続性と不連続性 [The Transformation of Tamansiswa’s Principles]. 21-34.
- 34103 深見純生 [Fukami, Sumio]. 1913 年のインドネシア——東インド党指導者国外追放の社会的背景——[Indonesia in 1913 : Social Background of the Exile of the Three Leaders of the Indische Partij]. 35-56.
- 34104 後藤乾一 [Goto, Kenichi]. 民族主義者イワ・クスマ・スマントリの政治的肖像 [A Political Portrait of Iwa Kusuma Sumantri]. 57-77.
- 34105 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. 「インドネシア」の見方——行政空間の認識とその変容—— [Views of “Indonesia”: Changing Conceptualizations of Administrative Space in the Late Colonial Period and the New Order]. 78-99.
- 34106 倉沢愛子 [Kurasawa, Aiko]. 開発体制下のインドネシアにおける新中間層の台頭と国民統合 [Emergence of a New Middle Class and National Integration under the Development Regime of Indonesia]. 100-126.
- 34107 玉田芳史 [Tamada, Yoshifumi]. タイのナショナリズムと国民形成——戦前期ピブーン政権を手がかりとして——[Phibun and the Formation of a Nation in Thailand, 1938-1941]. 127-150.
- 34108 Moriyama, Mikihiro. Discovering the “Language” and the “Literature” of West Java : An Introduction to the Formation of Sundanese Writing in 19th Century West Java. 151-183.
- 34109 Maier, Hendrik M. J. Phew! Europeesche beschaving! : Marco Kartodikromo’s *Student Hidjo*. 184-210.
- 34110 Lopian, A. B. Personal Reflections on the Japanese Occupation in Indonesia. 211-223.
- 34111 Shiraishi, Saya. The Birth of Father and Mother in the Indonesian Classroom. 224-238.
- 34112 植村泰夫 [Uemura, Yasuo]. 1930 年代インドネシア民族党の路線変更と地税問題——loemboeng padjak 設立をめぐる——[Turning of the P. B. I.’s Lines and the Land Tax Problem in the 1930s : A Study of the *Loemboeng Padjak*]. 239-257.
- 34113 染谷臣道 [Someya, Yoshimichi]. 絶対依囑・勇気・前進のための戦い——あるジャワ人口・ムシャの生涯——[Absolute Submission to Allah, Bravery and the Fight for Advancement : From a Life History of an Old Javanese *Romusha* in Sabah, Malaysia]. 258-285.

- 34114 松本 亮 [Matsumoto, Ryoh]. *Wayang Beber*——中部ジャワ・Wonosari 地方のワヤン・ベベルを中心に——[*Wayang Beber: Focusing on the Wayang Beber of Wonosari, Central Java*]. 286–306.
- 34115 高谷好一 [Takaya, Yoshikazu]. 〈想像の共同体〉論批判——〈世界単位〉の立場から [“The Imagined Community”: A Critique from the Viewpoint of “World Units”]. 307–326.
- 34116 土屋健治教授著作目録 [Publications of the Late Prof. Kenji Tsuchiya]. 326–335.
- 34117 「特集号」の編集を終えて [Editorial Postscript]. 336.

34 卷 2 号 [Vol. 34, No. 2] 1996 年 9 月 [Sept. 1996]

- 34201 大木 昌 [Oki, Akira]. 病と癒しの歴史——もうひとつのインドネシア史研究を目指して——[*The History of Disease and Healing in Indonesia: In Search of an Alternative Approach to Indonesian History*]. 339–369.
- 34202 大野 徹 [Ohno, Toru]. モン語版ラーマヤナ「ロイク・サモイン・ラーム」の特徴 [Salient Features of the Mon Version of the Rama Story]. 370–386.
- 34203 Chin, James. The Sarawak Chinese Voters and Their Support for the Democratic Action Party (DAP). 387–401.
- 34204 Kong, Lily; and Yeoh, Brenda S. A. Social Constructions of Nature in Urban Singapore. 402–423.
- 34205 Sukardjo, Sukristijono. The Relationship of Litterfall to Basal Area and Climatic Variables in the *Rhizophora mucronata* Lamarck Plantation at Tritih, Central Java, Indonesia. 424–432.

書評 [Book Reviews]

- 34206 海田能宏 [Kaida, Yoshihiro]. 堀 博, 『メコン河——開発と環境』 [Hiroshi Hori, *The Mekong: The Development and Its Environmental Effects*]. 433–434.
- 34207 海田能宏 [Kaida, Yoshihiro]. 石井米雄; 横山良一, 『メコン』 [Yoneo Ishii; and Ryoichi Yokoyama, *The Mekong*]. 435.
- 34208 黒田景子 [Kuroda, Keiko]. Lorraine M. Gesick, *In the Land of Lady White Blood: Southern Thailand and the Meaning of History*. 436.
- 34209 渡辺弘之 [Watanabe, Hiroyuki]. Jeffrey A. McNeely; and Paul Spencer Sochaczewski, *Soul of the Tiger: Searching for Nature's Answers in Southeast Asia*. 437.

現地通信 [Field Report]

- 34210 古川久雄 [Furukawa, Hisao]. 南・東南スラウェシの沿岸村落 [Coastal Villages in South and Southeast Sulawesi]. 438–468.

34 卷 3 号 [Vol. 34, No. 3] 1996 年 12 月 [Dec. 1996]

Mediating Identities in a Changing Malaysia

- 34301 Zawawi Ibrahim. Introduction. 4-7.
34302 Shamsul A. B. Debating about Identity in Malaysia: A Discourse Analysis. 8-31.
34303 Heng Pek Koon. Chinese Responses to Malay Hegemony in Peninsular Malaysia 1957-96. 32-55.
34304 Abdul Rahman Embong. Social Transformation, the State and the Middle Classes in Post-Independence Malaysia. 56-79.
34305 Maier, Hendrik M. J. A Chew of Sugarcane: Ahmad Kotot's *Hikayat percintaan kasih kemudaan*. 80-99.
34306 Zawawi Ibrahim. The Making of a Subaltern Discourse in the Malaysian Nation-State: New Subjectivities and the Poetics of Orang Asli Dispossession and Identity. 100-132.

書評 [Book Reviews]

- 34307 大谷幸三 [Ohtani, Kozo]. Peter A. Jackson, *Dear Uncle Go: Male Homosexuality in Thailand*. 133-136.
34308 貞好康志 [Sadayoshi, Yasushi]. Anthony Reid, ed., *Sojourners and Settlers: Histories of Southeast Asia and the Chinese*. 137-139.

34 卷 4 号 [Vol. 34, No. 4] 1997 年 3 月 [March 1997]

Studies on the Dynamics of the Frontier World in Insular Southeast Asia

- 34401 Kato, Tsuyoshi. Dynamics of the Frontier World in Insular Southeast Asia: An Overview. 611-621.
34402 Abe, Ken-ichi. *Cari Rezeki, Numpang, Siap*: The Reclamation Process of Peat Swamp Forest in Riau. 622-632.
34403 Tanaka, Koji. Who Owns the Forest?: The Boundary between Forest and Farmland at the Frontier of Land Reclamation in South Sulawesi. 633-642.
34404 Ikegami, Shigehiro. Historical Changes of Toba Batak Reburial Tombs: A Case Study of a Rural Community in the Central Highland of North Sumatra. 643-675.
34405 Ozeki, Erino. Migration Frontier of Filipino Women: Ethnic Relations of Filipina Domestic Helpers with Chinese Employers in Hong Kong. 676-695.

-
- 34406 Azizah Kassim. Women, Development and Change in Negeri Sembilan: A Micro-Level Perspective. 696-721.

34407 Nakatani, Ayami. Private or Public?: Defining Female Roles in the Balinese Ritual Domain. 722–740.

35 卷 1 号 [Vol. 35, No. 1] 1997 年 6 月 [June 1997]

〈特集〉植民地都市の社会史——オランダ領東インドの事例——

[Social History of Colonial Cities in the Netherlands Indies :
Europeans, Eurasians, Chinese, and *Boemipoetera*]

- 35101 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. 編者のことば [Editor's Note]. 3–8.
- 35102 泉田英雄 [Izumida, Hideo]. アジア在住ヨーロッパ人の生活様式の変容とヴェランダ式住宅の誕生 [Changing European Life Style in Asia and the Birth of the Verandah House]. 9–30.
- 35103 深見純生 [Fukami, Sumio]. 「印欧人」の社会政治史——血統主義と属地主義の相剋——[A Social-Political History of the Indo-Europeans in Colonial Indonesia: Discord between the Territorial Principle and Blood Orientation]. 31–54.
- 35104 Widodo, Johannes. The Life of the First and Second Generations of a Chinese Immigrant Family in Central Java, Indonesia (Mid-19th Century to Mid-20th Century). 55–76.
- 35105 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. オランダ領東インド植民地都市の心象風景——初期バレ・ブスタカ小説を手がかりとして——[Images of Colonial Cities in the Netherlands Indies: As Reflected in Some Early Balai Poestaka Novels]. 77–135.

-
- 35106 田子内進 [Takonai, Susumu]. ダンドウットの成立と発展 (I)——近代演劇の成立とオルケス・ムラユ——[The Formation and Development of *Dangdut* (I): Modern Theatre and *Orkes Melayu*]. 136–155.

書評 [Book Reviews]

- 35107 Lopian, Adrian B. David E. F. Henley, *Nationalism and Regionalism in a Colonial Context: Minahasa in the Dutch East Indies*. 156–157.
- 35108 立本成文 [Tachimoto, Narifumi M.]. Christian Pelras, *The Bugis*. The Peoples of South-East Asia and the Pacific. 158–159.
- 35109 川中 豪 [Kawanaka, Takeshi]. Patricio N. Abinales, ed., *The Revolution Falters: The Left in Philippine Politics after 1986*. 160–163.

現地通信 [Field Reports]

- 35110 Boomgaard, Peter. The Miracle of the Second Flowering Recent Developments in South-east Asian Studies in Europe. 164–169.
- 35111 鈴木玲子 [Suzuki, Reiko]. ラオスで暮らして [Living in Laos]. 170–174.

35 卷 2 号 [Vol. 35, No. 2] 1997 年 9 月 [Sept. 1997]

- 35201 Warren, James Francis. The Sulu Zone, the World Capitalist Economy and the Historical Imagination : Problematizing Global-Local Interconnections and Interdependencies. 177 - 222.
- 35202 Dove, Michael R. The Epistemology of Southeast Asia's Anthropogenic Grasslands : Issues of Myth, Science and Development. 223 - 239.
- 35203 Porphant Ouyyanont. Bangkok's Population and the Ministry of the Capital in Early 20th Century Thai History. 240 - 260.
- 35204 長津一史 [Nagatsu, Kazufumi]. 海の民サマ人の生活と空間認識——サンゴ礁空間 *t'bbā* の位置づけを中心にして——[Coral Reef Fisherfolks and Their Space Cognition : Notions of "Land," "Sea," and Coral Reef Space among Sama in Sitangkai, Sulu Archipelago]. 261 - 300.

現地通信 [Field Report]

- 35205 坪内良博 [Tsubouchi, Yoshihiro]. テルナテへの旅 [A Journey to Ternate]. 301 - 305.

35 卷 3 号 [Vol. 35, No. 3] 1997 年 12 月 [Dec. 1997]

〈特集〉雲南およびその周辺
[Yunnan and Its Surroundings]

- 35301 山田 勇 [Yamada, Isamu]. 特集号を組むにあたって [Editor's Note]. 309 - 313.
- 35302 羅 二虎 [Luo Erhu]. 秦漢時代における中国西南地域の民族 [Minor Tribes of South Western China during the Chin and Han Period]. 314 - 345.
- 35303 古川久雄 [Furukawa, Hisao]. 雲南民族生態誌——生態論理と文明論理——[Ecohistory of Minor Ethnic Groups of Yunnan : Eco-logic and the Logic of Civilization]. 346 - 421.
- 35304 阿部健一 [Abe, Ken-ichi]. 雲南の森林史 (I)——中甸盆地の神山——[Forest History in Yunnan, China(I) : Tibetan God Mountain and Its Protected Forest in Jungden]. 422 - 444.
- 35305 阿部健一 [Abe, Ken-ichi]. 雲南の森林史 (II)——中標高盆地の森林破壊とユーカリ植林——[Forest History in Yunnan, China(II) : Own Forests and Eucalypt Plantation in Han-dominated Basin]. 445 - 464.
- 35306 郭 艶春 [Guo Yanchun]. 雲南タイ族の環境保全思想と技術——西双版纳の村から—— [The Thought and Techniques in the Preservation of the Environment : The Case of Tai Ethnic Group in Xishuangbanna, Yunnan]. 465 - 488.
- 35307 郭 艶春 [Guo Yanchun]. 雲南タイ族における植物文化——西双版纳の村から—— [A Study of Ethnobotanical Culture : The Case of Tai People in Xishuangbanna, Yunnan]. 489 - 510.

- 35308 山田 勇；尹 紹亭 [Yamada, Isamu；Yin Shaoting]. 石灰岩地帯に暮らす人々——雲南東南部の生態文化複合系の変容過程——[Life among the Limestone Caves: Environmental Change of the Eco-cultural Complex of the Minor Han Group in Southeastern Yunnan]. 511–524
- 35309 尹 紹亭 [Yin Shaoting]. 雲南刀耕火種（焼畑農耕）民の生存戦略 [Strategies of Yunnan's Swiddening Peoples]. 525–540.
- 35310 林 行夫 [Hayashi, Yukio]. もうひとつの「森」——ラオ人とモン＝クメール系諸語族の森林観から——[Another “Forest” for the Dead and Spirits: Notes on the Representation of Forest among the Lao and Mon-Khmer Speaking Peoples in Lao P. D. R.]. 541–557.
- 35311 Hayami, Yoko. Internal and External Discourse of Communitarity, Tradition and Environment: Minority Claims on Forest in the Northern Hills of Thailand. 558–579.
- 35312 山崎正史 [Yamasaki, Seishi]. モンゴル国ゴビ遊牧地域における搾乳技術 [Milking Methods in the Mongolian Gobi-nomadic Area]. 580–596.

書評 [Book Reviews]

- 35313 Yoshihara, Kunio. Gabriel Kolko, *Vietnam: Anatomy of a Peace*. 597–598.
- 35314 永淵康之 [Nagabuchi, Yasuyuki]. Henk Schulte Nordholt, *The Spell of Power: A History of Balinese Politics 1650–1940*. 599–600.
- 35315 大橋厚子 [Ohashi, Atsuko]. Garrit J. Knaap, *Shallow Waters, Rising Tide: Shipping and Trade in Java around 1775*. Luc Nagtegaal, *Riding the Dutch Tiger: The Dutch East Indies Company and the Northeast Coast of Java 1680–1743*. 601–605.

35 巻 4 号 [Vol. 35, No. 4] 1998 年 3 月 [March 1998]

〈特集〉東南アジア大陸部における民族間関係と「地域」の生成 [Inter-ethnic Relations in the Making of Mainland Southeast Asia]

- 35401 林 行夫 [Hayashi, Yukio]. 序文 [Introduction]. 3–13.
- 35402 長谷川清 [Hasegawa, Kiyoshi]. 国境を越えるネットワークとエスニシティの動態——雲南省・シブソンパンナー、タイ・ルーの事例から——[Cross-Border Networks and Dynamics of Ethnicity: A Case of the Tai Lue in Xishuangbanna Dai Autonomous Prefecture, Yunnan Province]. 14–37.
- 35403 高谷紀夫 [Takatani, Michio]. シャンの行方 [Who Are the Shan?: An Ethnological Perspective]. 38–56.
- 35404 村上忠良 [Murakami, Tadayoshi]. タイ国境地域におけるシャンの民族内関係——見習僧の出家式を事例に——[Inter-Ethnic Relations among the Shan along the Border of Thailand: A Case of Novice Ordination in Maehongson]. 57–77.
- 35405 林 行夫 [Hayashi, Yukio]. 「ラオ」の所在 [Where Are the “Lao”? : Differentiation and Evolution of Ethno-regional Identity Associated with the Self-promotion of Cultural Rep-

resentation in Northern Thailand and Lao P. D. R.]. 78-109.

- 35406 馬場雄司 [Baba, Yuji]. タイ・ルーであろうとすること, タイ・ルーでなくなること——越境の時代の守護霊祭祀——[Being Lue, Not Being Lue: Guardian Spirit Cult in the Borderless Age]. 110-131.
- 35407 兼重 努 [Kaneshige, Tsutomu]. エスニック・シンボルの創成——西南中国の少数民族トン族の事例から——[Creation of an Ethnic Symbol: Case of the Dong Nationality in Southwest China]. 132-152.
- 35408 吉野 晃 [Yoshino, Akira]. 焼畑に伴う移住と祖先の移住——タイのミエン・ヤオ族における移住とエスニシティ——[Migration by Swiddeners and Migration by Ancestors: The Ethnicity and Migration of the Mien of Northern Thailand]. 153-170.
- 35409 綾部真雄 [Ayabe, Masao]. 国境と少数民族——タイ北部リス族における移住と国境認識——[National Boundaries and Ethnic Minorities: Migration and National Boundary Consciousness among the Lisu of Northern Thailand]. 171-196.
- 35410 Toyota, Mika. Urban Migration and Cross-Border Networks: A Deconstruction of the Akha Identity in Chiang Mai. 197-223.
- 35411 谷祐子 [Tani, Yukako]. 山地民と林業政策——ミャンマー連邦バゴー山地におけるKaren人の焼畑に対する「森林村」制度の影響——[Forest People and Forest Policy: The Effect of Forest Village Policy on the Karen of Pegu Yoma, Burma]. 224-245.
- 35412 速水洋子 [Hayami, Yoko]. 「民族」とジェンダーの民族誌——北タイ・Karenにおける女性の選択——[An Ethnography of “Ethnic Group” and Gender: Choices Made by Karen Women in Northern Thailand]. 246-267.
- 35413 吉田敏浩 [Yoshida, Toshihiro]. 生命の連なりを未来に——北ビルマから中国雲南省と北タイにかけての民族間関係と民族・国家間関係と民族内関係をめぐって——[Maintaining the Link of Life into the Future: Relations between and within Ethnic Groups and between Ethnic Groups and the State in Northern Burma, Yunnan Province, China, and Northern Thailand]. 268-291.
- 35414 福島真人 [Fukushima, Masato]. 差異の工学——民族の構築学への素描——[On the Technology of Difference: Outline of a Theory of Ethnicity Construction]. 292-307.

現地通信 [Field Report]

- 35415 立本成文 [Tachimoto, Narifumi M.]. マラカ物語 [On Malacca and Melaka]. 308-309.

36 卷 1 号 [Vol. 36, No. 1] 1998 年 6 月 [June 1998]

- 36101 Van der Eng, Pierre. Cassava in Indonesia: A Historical Re-Appraisal of an Enigmatic Food Crop. 3-31.
- 36102 Molle, François; and Jesda Keawkulaya. Water Management and Agricultural Change: A Case Study in the Upper Chao Phraya Delta. 32-58.
- 36103 福井清一; キティポン・スミバン [Fukui, Seiichi; and Kittipong Sumipan]. タイ砂糖き

びの生産費低減の可能性 [On the Possibility of Cost Reduction in the Thai Sugarcane Farming]. 59 – 77.

36104 Porphant Ouyyanont. Bangkok as a Magnet for Rural Labour: Changing Conditions, 1900 – 1970. 78 – 108.

書評 [Book Reviews]

36105 明石陽至 [Akashi, Yoji]. Peter Post; and Elly Touwen-Bouwsma, eds., *Japan, Indonesia and the War-Myths and Realities*. 109 – 110.

36106 山本信人 [Yamamoto, Nobuto]. Daniel S. Lev; and Ruth McVey, eds., *Making Indonesia: Essays on Modern Indonesia in Honor of George McT. Kahin*. 111 – 112.

36107 新田栄治 [Nitta, Eiji]. Peter Bellwood, *Prehistory of the Indo-Malaysian Archipelago*. 113 – 114.

36108 左田直規 [Soda, Naoki]. Anthony Milner, *The Invention of Politics in Colonial Malaya: Contesting Nationalism and the Expansion of the Public Sphere*. 115 – 118.

現地通信 [Field Reports]

36109 Donovan, D. G.; Fukui, Hayao; and Itoh, Toshikatsu. Perspective on the Pyu Landscape. 119 – 125.

36110 Hayashi, Yukio. Report on International Co-Workshop in Chiang Mai, Thailand, March 28 – 29, 1998. 126 – 128.

36 卷 2 号 [Vol. 36, No. 2] 1998 年 9 月 [September 1998]

36201 箕浦康子; 野津隆志 [Minoura, Yasuko; and Notsu, Takashi]. タイ東北部における中等教育普及過程と機会拡大中学校——中学進学率急上昇のメカニズムを中心に—— [Kayaioka Schools and Expansion of Secondary Education in Rural Northeastern Thailand: With Special Reference to Mechanism for a Rapid Rise in Attendance Rate]. 131 – 148.

36202 清水政明; Lê Thị Liên; 桃木至朗 [Shimizu, Masaaki; Lê Thị Liên; and Momoki, Shiro]. 護城山碑文に見る字喃について [Chữ Nôm Characters Contained in the Inscription of Hộ Thành Mountain]. 149 – 177.

36203 鶴田 格 [Tsuruta, Tadasu]. 貨幣経済の浸透と儀礼をめぐる社会関係の変容——中部タイの稲作村における冠婚葬祭—— [Penetration of Monetary Economy and Social Change in a Central Thai Village: A Diachronic Analysis of Economic Aspects of Rites of Passage and Gift Exchange]. 178 – 205.

36204 Kimura, Masataka. Changing Patterns of Leadership Recruitment and the Emergence of the Professional Politician in Philippine Local Politics Re-examined: An Aspect of Political Development and Decay. 206 – 229.

36205 Wong Sin Kiong. The Chinese Boycott: A Social Movement in Singapore and Malaya in the Early Twentieth Century. 230 – 253.

書評 [Book Reviews]

- 36206 山下晋司 [Yamashita, Shinji]. Michel Picard ; and Robert E. Wood, eds., *Tourism, Ethnicity and the State in Asian and Pacific Society*. 254 – 255.
- 36207 村嶋英治 [Murashima, Eiji]. Daniel Fineman, *A Special Relationship: The United States and Military Government in Thailand, 1947–1958*. 255 – 256.
- 36208 石井由香 [Ishii, Yuka]. Eleanor Laquian ; Aprodicio Laquian ; and Terry McGee, eds., *The Silent Debate: Asian Immigration and Racism in Canada*. 256 – 257.

現地通信 [Field Report]

- 36209 西村重夫 [Nishimura, Shigeo]. ジャカルタ 1998 年 5 月 [Jakarta, May 1998]. 258 – 269.

3. 研究報告書シリーズ

研究報告書シリーズは、センターが単行本として出版したもので、シンポジウムの報告書、文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書、その他の研究奨学金を受けて行なった研究の報告書など、各種のものを含んでいる。既刊のものを以下に年度順にあげる。

1. KAWAGUCHI, Keizaburo, ed. 1965. *Rice Culture in Malaya*, Symposium Series No. 1.
2. INOKI, Masamichi, ed. 1966. *Japan's Future in Southeast Asia*, Symposium Series No. 2.
3. FUJIOKA, Yoshikazu, ed. 1966. *Water Resource Utilization in Southeast Asia*, Symposium Series No. 3.
4. HIGASHI, Noboru, ed. 1968. *Medical Problems in Southeast Asia*, Symposium Series No. 4.
5. 市村 真一 編. 1975. 『稲と農民』
6. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Preliminary Report on Role of Education in the Rural Development of Southeast Asia—Thailand and Malaysia—*.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Econometric Models of Asian Countries I*.
8. ICHIMURA, Shinichi ; and MIZUNO, Koichi, eds. 1979. *Ecology, New Technology, and Rural Development in Thailand and Malaysia* (with Special Reference to the Role of Education).
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1980. *Econometric Models of Asian Countries II*.
10. TSUBOUCHI, Yoshihiro ; NASRLIDDIN, Iljas ; TAKAYA, Yoshikazu ; and RASJID, Hanafiah A., eds. 1980. *South Sumatra, Man and Agriculture*.

11. WATABE, Tadayo, ed. 1981. *Report of the Scientific Survey on Traditional Cropping Systems in Tropical Asia*, Part 1 : *India and Sri Lanka*, Part 2 : *Indonesia*.
12. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1982. *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi*.
13. TAKAYA, Yoshikazu ; and Narong THIRAMONGKOL. 1982. *Chao Phraya Delta of Thailand* (Asian Rice-Land Inventory : A Descriptive Atlas, No. 1).
14. 渡部 忠世 編. 1982. 『南西諸島農耕における南方の要素』
15. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1983. *A Rice-Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report).
16. THAN TUN, ed. 1983. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885*, Part One, *A. D. 1598-1648*.
17. JAYAWARDENA, S. D. G. ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India*.
18. Boonyawart LUMPAOPONG ; Jitti PINTHONG ; Chavalit CHALOTHON ; and KAIDA, Yoshihiro. 1984. *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand* (Asian Rice-land Inventory : A Descriptive Atlas, No. 2).
19. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*.
20. TSUCHIYA, Kenji, ed. 1984. "States" in Southeast Asia, from "Tradition" to "Modernity."
21. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1985. *A Rice Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report).
22. THAN TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885*, Part Two, *A. D. 1649-1750*.
23. THAN TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885*, Part Three, *A. D. 1751-1781*.
24. KATO, Tsuyoshi ; MUCHTAR, Lutfi ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1986. *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*.
25. TANAKA, Koji ; MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds.

1986. *Environment, Landuse and Society in Wallacea*.
26. THAN TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Four, A. D. 1782-1787*.
27. THAN TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Five, A. D. 1788-1806*.
28. 高谷 好一 編. 1986. 『東南アジア伝統農業資料集成』第1巻.
29. 渡部 忠世 編. 1986. 『日本農耕文化の展開と系譜——島の視点から』
30. EZAKI, Mitsuo, ed. 1987. *Development Planning and Policies in ASEAN Countries*.
31. THAN TUN, ed. 1987. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Six, A. D. 1807-1810*.
32. 田中 耕司 編. 1987. 『東南アジア伝統農業資料集成』第2巻.
33. JAIM, W. M. H. *et al.* 1987. *Review of Literature* (JSARD Working Paper No. 1)
34. HUQ, Muhammad Ammer-Ul 1987. *Review of Literature on Planning Studies in Bangladesh* (JSARD Working Paper No. 2).
35. SOLAIMAN, M. 1987. *Review of Literature: Institution Building* (JSARD Working Paper No. 3).
36. NOMA, Haruo; and CHAKRABORTY, Ratan Lal, eds. 1987. *Selections of Records on Agriculture, Land Tenure and Economy of Mymensingh District, 1787-1866* (JSARD Working Paper No. 4).
37. THAN TUN, ed. 1988. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Seven, A. D. 1811-1819*.
38. TAKAYA, Yoshikazu, ed. 1988. *Madagascar: Perspectives from the Malay World*.
39. 高谷 好一 編. 1988. 『古代稲作農耕の学際的研究』
40. 柴山 守 編. 1988. 『東南アジア学研究支援：多言語テキスト処理システムの研究』
41. KUMAGAI, Toru; and KAIDA, Yoshihiro. 1988. *Gobarchitra Village and Chandpur Irrigation Project* (JSARD Working Paper No. 5).
42. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1988. *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Third Interim Report).
43. THAN TUN, ed. 1988. *The Royal Order of Burma, A. D. 1598-1885, Part Eight, A. D. 1819-1853*.
44. Aris PONIMAN; 高谷好一 1988. 『伝統農業フィールドノート集』第1巻.
45. SAKURAI, Yumio; and NITTA, Eiji, eds. 1988. *Primitive Agriculture in Viet Nam and Japan I*.

46. 桜井由躬雄; 新田 栄治 編. 1988. 『日本・ベトナム初期農耕比較論 II』
47. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1989. *Oei Tiong Ham Concern: The First Business Empire of Southeast Asia.*
48. TSUBOUCHI, Yoshihiro, ed. 1989. *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia.*
49. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1989. *Thai Perceptions of Japanese Modernization* (Published in association with Falcon Press Sdn. Bhd., Kuala Lumpur).
50. SAKURAI, Yumio. 1989. *Land, Water, Rice, and Men in Early Vietnam: Agrarian Adaptation and Socio-Political Organization* (Translated by Thomas A. Stanley).
51. Marasri SIVARAKS, compiled. 1989. *Catalog of Thai Cremation Volumes in the Charas Collection.*
52. THAN TUN, ed. 1989. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Nine, A. D. 1853-1885.*
53. THAN TUN, ed. 1990. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Ten, Epilogue, Glossary and Index.*
54. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1990. *Japan in Thailand* (Published in association with Falcon Press Sdn. Bhd., Kuala Lumpur).
55. 田中 耕司 編. 1990. 『東南アジア伝統農業資料集成』第3巻.
56. NAI PAN HLA. 1990. *An Introduction to Mon Language.*
57. TSUBOUCHI, Yoshihiro, ed. 1991. *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia 2.*
58. 坪内 良博 編. 1991. 『集落人口の性格と変動に関する比較社会学的研究』
59. 高谷 好一 編. 1991. 『フロンティア空間としての東南アジア』
60. 田中 耕司 編. 1991. 『東南アジア伝統農業資料集成』第4巻.
61. 深見 純生 訳. 古川 久雄 編. 1991. 『ジャワ・マドゥラ古代遺跡・遺物目録』
62. 古川 久雄; 渡部 武 編. 1993. 『中国先史・古代農耕関係資料集成』
63. 田中 耕司 編. 1994. 『東南アジア海域世界の森と海』
64. Sujin BUTDISUWAN. 1995. *Cumulative Index for Thai Book Collection (1989-Jan. 1995) in the Library of the Center for Southeast Asian Studies Kyoto University*
65. FUKUI, Hayao, ed. 1996. *Transformation of Agriculture in Northeast Thailand*
66. Phongpharn LAWANANONT. 1996. *List of Thai Books of the Center for Southeast Asian Studies Library*
67. ZAWAWI IBRAHIM, ed. 1996. *Mediating Identities in Changing Malaysia*
68. ROHAYA UMAR. 1997. *Senarai Perolehan Perpustakaan 1997: Bahasa Indonesia dan Malaysia*

69. KATO, Tsuyoshi, ed. 1997. *Studies on the Dynamics of the Frontier World in Insular Southeast Asia*
70. TSUCHIYA, Kenji ; and KATO, Tsuyoshi, eds. 1997. *An Integrated Study on the Dynamics of the Maritime World of Southeast Asia*
71. Kanchanaporn CHITSANGA. 1997. *List of Thai Books of The Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University* No. 15
72. 林 行夫 編. 1998. 『東南アジア大陸部における民族間関係と「地域」の生成』
73. SAULIAH Saleh. 1998. *Daftar Buku-Buku Tentang Indonesia dalam Bahasa Indonesia Koleksi Center for Southeast Asian Studies Library Kyoto University*

なお、センター関係者の研究報告書のうち、センター以外の機関により出版されたものを、参考までに掲げておく。

JSARD Publication Series (Published by JICA Bangladesh Office)

1. JSARD Editorial Committee, ed. 1988. *Proceedings of the Mid-term Review Workshop of JSARD, January 24, 1988* (JSARD Publication No. 6).
2. KAIDA, Yoshihiro ; and HOSSAIN, S. M. Altaf, eds. 1988. *Gobarchitra Village in Chandpur* (JSARD Publication No. 7).
3. UCHIDA, Haruo *et al.*, eds. 1988. *Jawar Village in Kishoreganj* (JSARD Publication No. 8).
4. HOSSAIN, S. M. Altaf. 1988. *Evolution of Cropping Systems in My-mensingh and Comilla Regions* (JSARD Publication No. 12).
5. NISHIMURA, Hiroyuki *et al.*, eds. 1989. *Three Villages in Comilla* (JSARD Publication No. 9).
6. MAHARJAN, Keshav Lall. 1989. *Phanishair Village in Chandpur* (JSARD Publication No. 11).
7. CHAKRABORTY, Ratan Lal ; and NOMA, Haruo, compiled. 1989. *Select Records on Agriculture and Economy of Comilla District, 1782-1867* (JSARD Publication No. 13).
8. MAMUN, Abdullah Al. 1989. *Agro-ecological Studies of Weed in Bangladesh* (JSARD Publication No. 14).
9. NOMA, Haruo ; CHAKRABORTY, Ratan Lal, compiled. 1990. *Select Records on Agriculture, Land Revenue, Economy and Society of Noakhali District, 1849-1878* (JSARD Publication No. 15).

10. KAIDA, Yoshihiro, ed. 1990. *Tetulia Village in Bogra* (JSARD Publication No. 16).
11. MAMUN, A. Al. 1990. *Agro-ecological Studies of Weeds and Weed Control in a Flood-prone Village of Bangladesh* (JSARD Publication No. 17).
12. JSARD Editorial Committee, ed. 1990. *Proceedings of the Second JSARD Workshop, Held on August 20–21, 1989* (JSARD Publication No. 18).
13. KAIDA, Yoshihiro, ed. 1990. *A Review of Related Studies* (JSARD Publication No. 19).
14. KAIDA, Yoshihiro *et al.*, eds. 1990. *Key Questions and Issues from Village-Based Studies, 1986–1989* (JSARD Publication No. 20).

JSRDE Publication Series (Published by JICA Bangladesh Office and BARD)

1. BEGUM, Saleha, ed. 1994. *Report of the Seminar on Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 22nd December 1993.*
2. ISLAM, Md. Mazharul *et al.*, eds. 1994. *Report of the Workshop on Mid-Term Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 7th and 8th December 1993.*
3. BEGUM, Saleha *et al.*, eds. 1995. *Annual Report 1993–94: Joint Study on Rural Development Experiment Project.*
4. ISLAM, Md. Mazharul *et al.*, eds. 1995. *Report of the Workshop on Final Review of Joint Study on Rural Development Experiment Project, 9th to 11th July.*
5. KAIDA, Yoshihiro; and BEGUM, Saleha, eds. 1995. *Report of the Final Seminar on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Project, 21st November 1995.*
6. KAIDA, Yoshihiro *et al.*, eds. 1995. *Final Report on Joint Study on Rural Development Experiment (JSRDE) Project.*